

MELSEC-Q シリーズ対応 BACnet インタフェースユニット

# BAQ08V 仕様書

Ver.2.0.0 以上

株式会社ユニテック

<https://www.uni-tec.co.jp/>



# 目次

目次.....	2
1 はじめに.....	8
1-1 概要.....	8
1-2 特長.....	8
2 システム構成.....	9
2-1 適用システム.....	9
2-2 対応プログラミングツール.....	10
3 仕様.....	11
3-1 性能仕様.....	11
3-2 一般仕様.....	11
3-3 通信性能仕様.....	12
3-4 BACnet 仕様.....	13
3-4-1 サポートオブジェクト.....	13
3-4-2 サポート BIBB.....	14
3-4-3 サポート BACnet 規格.....	14
3-5 Q インテリジェント機能.....	15
3-5-1 概要.....	15
3-5-2 入力信号.....	15
3-5-3 出力信号.....	16
3-6 バックアップ機能.....	17
3-6-1 設定変更のバックアップ.....	17
3-6-2 定期バックアップ機能.....	17
3-6-3 BACnet プロパティ値のバックアップ.....	17
4 起動および停止.....	18
4-1 電源オン時.....	18
4-2 シーケンスプログラムの停止要求.....	19
4-3 Web 画面操作での停止要求.....	19
4-4 Web 画面操作での再開要求.....	20
4-5 ReinitializeDevice の受信処理.....	21
4-6 電源オフ時の処理.....	21
4-7 参入・離脱.....	22
4-7-1 概要.....	22
4-7-2 IEC61850-3:2004 アデンダム a の場合.....	23
4-7-2-1 参入処理.....	23
4-7-2-2 離脱処理.....	24
4-7-3 ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 以降の場合.....	25
4-7-3-1 参入処理.....	25
4-7-3-2 離脱処理.....	26
5 BACnet オブジェクト.....	27
5-1 概要.....	27
5-2 データの範囲.....	27
5-3 OutOfService について.....	27
5-4 独自プロパティ仕様.....	28
5-4-1 力率用 Event 処理.....	29
5-4-2 Intrinsic_Event_Disable の動作.....	30
5-4-3 Schedule_Output_Disable の動作.....	30
5-4-4 Schedule_Expand の動作.....	31
5-4-5 Schedule_Default_Disable の動作.....	31
5-5 Event について.....	31
5-6 Accumulator Object (AC).....	32
5-6-1 BACnet プロパティ.....	32

5-6-2 本ユニットの動作 .....	33
5-6-2-1 起動時の動作 .....	33
5-6-2-2 周期動作.....	33
5-6-2-3 その他の動作 .....	33
5-6-3 バッファメモリ .....	33
5-7 Analog Input Object (AI) .....	34
5-7-1 BACnet プロパティ.....	34
5-7-2 本ユニットの動作 .....	35
5-7-2-1 起動時の動作 .....	35
5-7-2-2 周期動作.....	35
5-7-2-3 その他の動作 .....	35
5-7-3 バッファメモリ .....	35
5-8 Analog Output Object (AO) .....	36
5-8-1 BACnet プロパティ.....	36
5-8-2 本ユニットの動作 .....	37
5-8-2-1 起動時の動作 .....	37
5-8-2-2 周期動作.....	37
5-8-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作.....	37
5-8-2-4 自己書込みの動作 .....	37
5-8-2-5 その他の動作 .....	38
5-8-3 バッファメモリ .....	38
5-9 Analog Value Object (AV) .....	39
5-9-1 BACnet プロパティ.....	39
5-9-2 動作.....	39
5-9-3 バッファメモリ .....	39
5-10 Binary Input Object (BI) .....	40
5-10-1 BACnet プロパティ.....	40
5-10-2 本ユニットの動作 .....	41
5-10-2-1 起動時の動作 .....	41
5-10-2-2 周期動作.....	41
5-10-2-3 その他の動作 .....	41
5-10-3 バッファメモリ .....	41
5-11 Binary Output Object (BO) .....	42
5-11-1 BACnet プロパティ.....	42
5-11-2 本ユニットの動作 .....	42
5-11-2-1 起動時の動作 .....	42
5-11-2-2 周期動作.....	43
5-11-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作.....	43
5-11-2-4 自己書込みの動作 .....	43
5-11-2-5 その他の動作 .....	43
5-11-3 バッファメモリ .....	43
5-12 Binary Value Object (BV) .....	44
5-12-1 BACnet プロパティ.....	44
5-12-2 動作.....	45
5-12-3 バッファメモリ .....	45
5-13 Calendar Object (CA) .....	46
5-13-1 BACnet プロパティ.....	46
5-13-2 バッファメモリ .....	46
5-14 Device Object (DV) .....	47
5-14-1 BACnet プロパティ.....	47
5-14-2 バッファメモリ .....	48
5-15 Multi-state Input Object (MI) .....	49
5-15-1 BACnet プロパティ.....	49
5-15-2 本ユニットの動作 .....	50
5-15-2-1 起動時の動作 .....	50
5-15-2-2 周期動作.....	50
5-15-2-3 その他の動作 .....	50
5-15-3 バッファメモリ .....	50
5-16 Multi-state Output Object (MO) .....	51
5-16-1 BACnet プロパティ.....	51

5-16-2 本ユニットの動作 .....	51
5-16-2-1 起動時の動作 .....	51
5-16-2-2 周期動作.....	51
5-16-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作.....	52
5-16-2-1 自己書込みの動作 .....	52
5-16-2-2 その他の動作 .....	52
5-16-3 バッファメモリ .....	52
5-17 Multi-state Value Object (MV) .....	53
5-17-1 BACnet プロパティ.....	53
5-17-2 動作.....	53
5-17-3 バッファメモリ .....	53
5-18 Notification Class Object (NC) .....	54
5-18-1 BACnet プロパティ .....	54
5-18-2 バッファメモリ .....	54
5-19 Schedule Object (SC) .....	55
5-19-1 BACnet プロパティ.....	55
5-19-2 バッファメモリ .....	55
5-19-3 出力信号によるプロパティ制御 .....	55
5-20 Trend Log Object (TL) .....	56
5-20-1 BACnet プロパティ.....	56
5-20-2 バッファメモリ .....	57
5-21 計量 Object.....	58
5-21-1 BACnet プロパティ.....	58
5-21-2 本ユニットの動作 .....	58
5-21-2-1 起動時の動作 .....	58
5-21-2-2 周期動作.....	58
5-21-2-3 その他の動作 .....	59
5-21-3 バッファメモリ .....	59
5-22 電力デマンド監視 Object.....	60
5-22-1 BACnet プロパティ .....	60
5-22-2 本ユニットの動作 .....	61
5-22-2-1 起動時の動作 .....	61
5-22-2-2 周期動作.....	61
5-22-2-3 その他の動作 .....	61
5-22-3 バッファメモリ .....	61
5-23 電力デマンド制御 Object.....	62
5-23-1 BACnet プロパティ.....	62
5-23-2 本ユニットの動作 .....	62
5-23-2-1 起動時の動作 .....	62
5-23-2-2 周期動作.....	62
5-23-2-3 その他の動作 .....	63
5-23-3 バッファメモリ .....	63
5-24 発電機負荷制御 Object.....	64
5-24-1 BACnet プロパティ .....	64
5-24-2 本ユニットの動作 .....	64
5-24-2-1 起動時の動作 .....	64
5-24-2-2 周期動作.....	64
5-24-2-3 その他の動作 .....	65
5-24-3 バッファメモリ .....	65
<b>6 BACnet 連係 .....</b>	<b>66</b>
6-1 BACnet リクエスト .....	66
6-1-1 概要.....	66
6-1-2 BACnet オブジェクトのプロパティの読み込み.....	67
6-1-2-1 概要.....	67
6-1-2-2 本ユニットの起動時の動作 .....	67
6-1-2-3 本ユニットの周期動作 .....	67
6-1-3 BACnet オブジェクトのプロパティの書き込み.....	68
6-1-3-1 概要.....	68
6-1-3-2 本ユニットの起動時の動作 .....	68

6-1-3-3 本ユニットの周期動作.....	68
6-2 BACnet モニタ .....	69
6-2-1 概要.....	69
6-2-2 本ユニットの起動時の動作.....	69
6-2-3 本ユニットの周期動作.....	69
6-3 COV 関係 .....	70
6-3-1 概要.....	70
6-3-2 COV 受信領域書込み.....	70
6-3-3 データ監視関係.....	70
6-4 Event 関係 .....	71
6-4-1 概要.....	71
6-4-2 Event 受信領域書込み.....	71
6-4-3 データ監視関係.....	71
6-4-3-1 EventType (change-of-state) .....	71
6-4-3-2 EventType (command-failure) .....	71
6-4-3-3 EventType (out-of-range) .....	71
6-5 Calendar 関係.....	72
6-5-1 概要.....	72
6-5-2 静的読み込み.....	72
6-5-3 ObjectName を使用した動的読み込み.....	72
6-5-4 ObjectID を使用した動的読み込み.....	72
<b>7 QBus バッファメモリ .....</b>	<b>73</b>
7-1 概要 .....	73
7-1-1 初期処理.....	73
7-1-2 バッファメモリの読み込み .....	73
7-1-3 バッファメモリへの書き込み.....	73
7-1-4 共通項目.....	74
7-1-4-1 記述ルール.....	74
7-1-4-2 EventState.....	74
7-1-4-3 Reliability .....	74
7-1-4-4 SystemStatus.....	74
7-1-4-5 関係機能のエラーコード.....	75
7-2 QBus データブロック (QDTB) .....	76
7-2-1 Null .....	76
7-2-2 Boolean .....	76
7-2-3 UnsignedInteger.....	76
7-2-4 SignedInteger .....	76
7-2-5 Real .....	76
7-2-6 BitString.....	77
7-2-7 Enumerated.....	77
7-2-8 Date.....	77
7-2-9 Time .....	77
7-2-10 ObjectIdentifier .....	77
7-3 BACnet オブジェクト用フォーマット .....	78
7-3-1 Accumulator Object (AC) .....	78
7-3-1-1 バッファメモリフォーマット .....	78
7-3-1-2 シーケンスプログラムの動作 .....	78
7-3-1-3 パルスカウンタ.....	79
7-3-1-4 起動時の差分値.....	79
7-3-2 Analog Input Object (AI) .....	80
7-3-2-1 バッファメモリフォーマット .....	80
7-3-2-2 シーケンスプログラムの動作 .....	80
7-3-3 Analog Output Object (AO) .....	81
7-3-3-1 バッファメモリフォーマット .....	81
7-3-3-2 シーケンスプログラムの動作 .....	81
7-3-4 Analog Value Object (AV) .....	83
7-3-4-1 バッファメモリフォーマット .....	83
7-3-4-2 動作.....	83
7-3-5 Binary Input Object (BI) .....	84
7-3-5-1 バッファメモリフォーマット .....	84

7-3-5-2 シーケンスプログラムの動作 .....	84
7-3-6 Binary Output Object (BO) .....	85
7-3-6-1 バッファメモリフォーマット .....	85
7-3-6-2 シーケンスプログラムの動作 .....	85
7-3-7 Binary Value Object (BV) .....	87
7-3-7-1 バッファメモリフォーマット .....	87
7-3-7-2 動作.....	87
7-3-8 Calendar Object (CA) .....	88
7-3-8-1 バッファメモリフォーマット .....	88
7-3-8-2 動作.....	88
7-3-9 Device Object (DV) .....	89
7-3-9-1 動作.....	89
7-3-10 Multi-state Input Object (MI) .....	90
7-3-10-1 シーケンスプログラムの動作 .....	90
7-3-11 Multi-state Output Object (MO) .....	91
7-3-11-1 シーケンスプログラムの動作 .....	91
7-3-12 Multi-state Input Value (MV) .....	93
7-3-12-1 動作.....	93
7-3-13 計量 Object .....	94
7-3-13-1 シーケンスプログラムの動作 .....	94
7-3-13-2 パルスカウンタ .....	95
7-3-13-3 起動時の差分値.....	95
7-3-14 電力デマンド監視 Object .....	96
7-3-14-1 シーケンスプログラムの動作 .....	97
7-3-15 電力デマンド制御 Object .....	98
7-3-15-1 シーケンスプログラムの動作 .....	98
7-3-16 発電機負荷制御 Object.....	99
7-3-16-1 シーケンスプログラムの動作 .....	99
7-4 ObjectIdentifier.....	100
7-4-1 ObjectType.....	100
7-4-2 ObjectID の計算方法.....	100
7-4-3 PropertyIdentifier .....	100
7-5 Read 用の BACnet データアクセスブロック (BDABR) .....	101
7-5-1 シーケンスプログラムの動作.....	101
7-5-1-1 読み込み起動時 .....	101
7-5-1-2 終了待ち.....	101
7-6 Write 用の BACnet データアクセスブロック (BDABW) .....	102
7-6-1 シーケンスプログラムの動作.....	102
7-6-1-1 書き込み起動時 .....	102
7-6-1-2 終了待ち.....	102
7-7 QBus 監視データブロック (QDMONB) .....	103
7-7-1 シーケンスプログラムの動作.....	103
7-8 QBusCOV データブロック (QCOVB) .....	104
7-8-1 シーケンスプログラムの動作 .....	104
7-9 QBusEvent データブロック (QEVTB) .....	105
7-9-1 シーケンスプログラムの動作.....	105
<b>8 ファイル仕様.....</b>	<b>106</b>
8-1 共通仕様 .....	106
8-2 BACnet オブジェクト登録用 CSV ファイル.....	106
8-3 エンジニアリング受渡し用 CSV ファイル .....	107
8-4 BACnet リクエスト機能用 CSV ファイル .....	108
8-5 BACnet モニタ機能用 CSV ファイル.....	108
8-6 COV 関係機能用 CSV ファイル.....	109
8-7 Event 関係機能用 CSV ファイル.....	109
8-8 Calendar 関係機能用 CSV ファイル .....	110
8-9 Who-Is 送信機能用 CSV ファイル.....	110
<b>9 LED およびディップスイッチ .....</b>	<b>111</b>
9-1 LED.....	111

9-2 インテリジェント機能ユニットのスイッチ設定.....	112
<b>10 保障について .....</b>	<b>113</b>
10-1 保障について .....	113
10-2 商標について .....	114
10-3 サポートについて .....	115
<b>改定履歴.....</b>	<b>116</b>

## 1 はじめに

### 1-1 概要

本製品は、MELSEC を BACnetICONT または BACnet Building Controller (B-BC) として使用するための制御ユニットです。(以後、本ユニットと称します。)

### 1-2 特長

(1) サポートする BACnet 規格の違いにより、以下のラインアップが存在します。

(a) BAQ08V(国内仕様拡張版)

- ANSI/ASHRAE Standard 135-2004
- ANSI/ASHRAE Standard 135-2010
- ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 (※Ver2.2.0 以降)
- 電気設備学会 IEIEJ-P-0003:2000 (※Ver2.1.0 以降)
- 電気設備学会 IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a
- 電気設備学会 IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a
- 電気設備学会 IEIEJ-G-0006:2017 (※Ver2.2.0 以降)

どれか 1 つの BACnet 規格に設定が可能です。

(b) BAQ08V(BTL 取得版)

- ANSI/ASHRAE Standard 135-2010
- 本ユニットの銘板、Web のメニュー画面に BTL マークが付きます。

(2) BACnet のデータリンクレイヤとして以下を選択できます。

- BACnet/IP (ANNEX-J) (IPv4/IPv6 対応)
- BACnet/IPv6 (ANNEX-U)

(3) HTTP 通信が実装されているので、Windows パソコンで Web ブラウザを使用し、設定・監視を行うことができます。バージョンによって使用できる Web ブラウザが異なります。対応については下記の表の通りです。

バージョン	サポートしている Web ブラウザ
2.2.X 以前	Internet Explorer
2.3.0 以降	Internet Explorer Microsoft Edge GoogleChrome

(4) BACnetObject のプロパティ情報や Trend Log 情報の格納用に、スーパーキャパシタでバックアップ可能な SRAM が用意されています。

(5) BACnet の B-BC 機能を実現することができます。

(6) BACnet オブジェクトを定義し、実装することができます。頻繁に使用するプロパティは、QBus メモリにアサインされているので、シーケンスプログラムから簡単にアクセスすることができます。

(7) 外部の BACnet デバイスの基本的なデータ型<sup>1</sup>を持つプロパティを、シーケンスプログラムから読み書きすることができます。

(8) 外部の BACnet デバイスの基本的なデータ型を持つプロパティを定期的に読み込み、QBus メモリに書込むことができます。またこの QBus の領域は、BACnet デバイスの COV や Event を受信したときに更新することもできます。

(9) 外部の BACnet デバイスから送信されてきた COV を QBus メモリに書込むことができます。

(10) 外部の BACnet デバイスから送信されてきた Event を QBus メモリに書込むことができます。

(11) Web 画面は日本語/英語の 2 か国語に対応しています。

<sup>1</sup>基本的なデータ型とは NULL、論理値、符号付き整数、符号なし整数、単精度浮動小数点、24Bit までのビット列、列挙型、日付、時刻、オブジェクト ID のことです。

## 2 システム構成

### 2-1 適用システム

本ユニットは、下記内容のシステムに適用できます。  
本ユニットを装着できる CPU ユニットと装着可能枚数を示します。

適用ユニット		装着可能枚数	備考
CPU ユニット	下表の通り	最大 4 枚	(*1)

\*1 使用する CPU ユニットのマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）を参照して下さい。

No.	モデル名称	形名	基本ベース	増設ベース	備考
1.	ベーシックモデル QCPU	Q00JCPU	○	○	
2.		Q00CPU			
3.		Q01CPU			
4.	ハイパフォーマンスモデル QCPU	Q02CPU	○	○	
5.		Q02HCPU			
6.		Q06HCPU			
7.		Q12HCPU			
8.	Q25HCPU				
9.	ユニバーサルモデル QCPU	Q00UJCPU	○	○	
10.		Q00UCPU			
11.		Q01UCPU			
12.		Q02UCPU			
13.		Q03UDCPU			
14.		Q04UDHCPU			
15.		Q06UDHCPU			
16.		Q10UDHCPU			
17.		Q13UDHCPU			
18.		Q20UDHCPU			
19.	Q26UDHCPU				
20.	ユニバーサルモデル QCPU Ethernet 内蔵タイプ	Q03UDECPU	○	○	
21.		Q04UDEHCPU			
22.		Q06UDEHCPU			
23.		Q10UDEHCPU			
24.		Q13UDEHCPU			
25.		Q20UDEHCPU			
26.		Q26UDEHCPU			
27.		Q50UDEHCPU			
28.	Q100UDEHCPU				
29.	ユニバーサルモデル QCPU 高速タイプ	Q03UDVCPU	○	○	
30.		Q04UDVCPU			
31.		Q06UDVCPU			
32.		Q13UDVCPU			
33.	Q26UDVCPU				
34.	プロセス CPU	Q02PHCPU	○	○	
35.		Q06PHCPU			
36.		Q12PHCPU			
37.		Q25PHCPU			
38.	プロセス CPU ユニバーサルモデル	Q04UDPVCPU	○	○	
39.		Q06UDPVCPU			
40.		Q13UDPVCPU			
41.		Q26UDPVCPU			
42.	二重化 CPU	Q12PRHCPU	×	○	
43.		Q25PRHCPU			
44.	C 言語 CPU	Q06CCPU-V	○	○	
45.		Q12DCCPU-V			
46.		Q24DHCCPU-V			
47.		Q24DHCCPU-LS			
48.	モーション CPU	全モーション CPU	×	×	
49.	安全 CPU	QS001CPU	×	×	
50.		QS001CPU-K			
51.	WinCPU 三菱電機製	Q10WCPU-W1-J	○	○	
52.		Q10WCPU-W1-CFJ			
53.		Q10WCPU-W1-E			
54.		Q10WCPU-W1-CFE			

## 2-2 対応プログラミングツール

本ユニットに対応したプログラミングツールには、下記の2つがあります。

- GX Works2
- GX Developer

使用可能なプログラミングツールのバージョンは、使用する CPU ユニットによって異なります。対応バージョンについては、使用している CPU ユニットのマニュアルを参照してください。

### 3 仕様

#### 3-1 性能仕様

本ユニットの性能仕様は表 3-1 の通りです。

表 3-1 性能仕様

項目		仕様
伝送仕様	データ伝送速度	100/10Mbps
	通信モード	全二重／半二重
	伝送方法	ベースバンド
バックアップ時間	24 時間(電源投入後、必ず 15 分以上電源を投入し続けてください) 詳細につきましてはユニテックまでお問い合わせください。連絡先は「サポートについて」をご参照ください。	
入出力占有点数	32 点 1 スロット(I/O 割付け: インテリ 32 点)	
DC5V 内部消費電流	0.48A	
外形寸法	98(H)×27.4(W)×90(D)[mm]	
質量	0.14kg	

#### 3-2 一般仕様

本ユニットの一般仕様は表 3-2 の通りです。

表 3-2 一般仕様

項目	仕様					
使用周囲温度	※1					
保存周囲温度	※1 ※2					
使用周囲湿度	※3					
保存周囲湿度	※3					
耐振動	JIS B3502、 IEC 61131-2 に適合	断続的な振動がある場合	周波数	加速度	振幅	X,Y,Z 各方向 10 回 (80 分間)
			10~57Hz	—	0.075mm	
		連続的な振動がある場合	57~150Hz	9.8m/s <sup>2</sup>	—	
			10~57Hz	—	0.035mm	
57~150Hz	4.9m/s <sup>2</sup>	—				
耐衝撃	JIS B 3502、IEC 61131-2 に適合(147m/s <sup>2</sup> 、X,Y,Z 方向各 3 回)					
使用雰囲気	腐食性ガスのないこと					
使用標高	JIS B 3502、IEC 61131-2 に適合(2,000m 以下) ※1					
設置場所	制御盤内					
オーバーボルテージ カテゴリ	JIS B 3502、IEC 61131-2 に適合(カテゴリ II 以下) ※2					
汚染度	JIS B 3502、IEC 61131-2 に適合(汚染度 2 以下) ※3					

※1：使用/保存周囲温度は JIS B 3502, IEC61131-2 の規定を超える必要条件を満たしています。

※2：AnS シリーズのユニットと組合せる場合は、-20~75℃以内で保存してください。

※3：AnS シリーズのユニットと組合せる場合は、10~90%RH 以内で使用してください

※4：標高 0m 付近で発生しうる大気圧以上に加圧した環境下では使用できません。故障する可能性があります。

※5：その機器が公衆配電網から構内の機械装置に至るまでのどこの配線部に接続されていることを想定しているかを示す。カテゴリ II は、固定設備から給電される機器などに適用される。定格 300V までの機器の耐サージ電圧は、2500V。

※6：その機器が使用される環境における導電性物質の発生度合を示す指標。汚染度 2 は、非導電性の汚染しか発生しない。ただし、たまたまの凝結によって一時的な導電が起こりうる環境。

### 3-3 通信性能仕様

本ユニットの通信性能は表 3-3 および表 3-4 の通りです。

表 3-3 BACnet/IP (IPv4) の通信性能

通信・機能	条件	性能
モニタ機能による定期ポーリング	BACnet オブジェクト登録:0 点	720 プロパティ / 9 パケット / 秒
	BACnet オブジェクト登録:5000 点	320 プロパティ / 4 パケット / 秒
UnconfirmedCOVNotification サービスの受信	BACnet オブジェクト登録:0 点	180 プロパティ / 180 パケット / 秒
	BACnet オブジェクト登録:5000 点	59 プロパティ / 59 パケット / 秒

表 3-4 BACnet/IPv6 (AnnexU) の通信性能

通信	条件	性能
モニタ機能による定期ポーリング	BACnet オブジェクト登録:0 点	720 プロパティ / 9 パケット / 秒
	BACnet オブジェクト登録:5000 点	320 プロパティ / 4 パケット / 秒
UnconfirmedCOVNotification サービスの受信	BACnet オブジェクト登録:0 点	180 プロパティ / 180 パケット / 秒
	BACnet オブジェクト登録:5000 点	50 プロパティ / 50 パケット / 秒

※本章の性能は、非常に高速に動作する BACnet デバイスとの通信を行った場合の限界値となります。  
通信性能は通信相手デバイスの性能により変動しますので、実際の動作は本章記載の性能とは異なる場合があります。

### 3-4 BACnet 仕様

#### 3-4-1 サポートオブジェクト

本ユニットのサポートオブジェクトは表 3-5 の通りです。サポートオブジェクトは適用する規格により異なります。

ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 及び 2012 以外では本来サポートしていないオブジェクトタイプも設定可能となっております。ただし、これは使用する BACnet 規格変更後に設定変更を十分に行うまでの一時的な互換性を維持するためであり、正式なサポートではありません。

また、ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 及び 2012 への変更時には非サポートオブジェクトタイプのオブジェクト情報は全て削除されます。

表 3-5 サポートオブジェクト

オブジェクト	略号	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 Standard 135-2010 Standard 135-2012	IEIEJ-P-0003:2000 (※Ver2.1.0 以降) IEIEJ-P-0003:2000 ハトハタ1a	IEIEJ-G-0006:2006 ハトハタ1a IEIEJ-G-0006:2017	備考
Accumulator Object Type	AC	●		●	
Analog Input Object Type	AI	●	●	●	
Analog Output Object Type	AO	●	●	●	
Analog Value Object Type	AV	●	●	●	
Binary Input Object Type	BI	●	●	●	
Binary Output Object Type	BO	●	●	●	
Binary Value Object Type	BV	●	●	●	
Calendar Object Type	CA	●	●	●	
Device Object Type	DV	●	●	●	
Multi-state Input Object Type	MI	●	●	●	
Multi-state Output Object Type	MO	●	●	●	
Multi-state Value Object Type	MV	●	●	●	
Notification Class Object Type	NC	●	●	●	
Schedule Object Type	SC	●	●	●	
Trend Log Object Type	TL	●	●	●	
計量 Object Type	計量 KR		●		
電力デマンド監視 Object Type	電力監視 EDM		●	●	P3 名称は 電力デマンド
電力デマンド制御 Object Type	電力制御 EDC		●	●	P3 名称は 電力ピークカット制御
発電機負荷制御 Object Type	発電機 GLC		●	●	P3 名称は 非常用発電機負荷制御

### 3-4-2 サポート BIBB

本ユニットのサポート BIBB は表 3-6 の通りです。

表 3-6 サポート BIBB

BIBB 区分	サポート内容	備考
Data Sharing	ReadProperty-A	DS-RP-A
	ReadProperty-B	DS-RP-B
	ReadPropertyMultiple-A	DS-RPM-A
	ReadPropertyMultiple-B	DS-RPM-B
	WriteProperty-A	DS-WP-A
	WriteProperty-B	DS-WP-B
	WritePropertyMultiple-A	DS-WPM-A
	WritePropertyMultiple-B	DS-WPM-B
	COV-A	DS-COV-A
	COV-B	DS-COV-B
	COV-Unsolicited-A	DS-COVU-A
COV-Unsolicited-B	DS-COVU-B	
Alarm and Event	Notification-A	AE-N-A
	Notification Internal-B	AE-N-I-B
	ACK-B	AE-ACK-B
	Summary-B	AE-ASUM-B
	Enrollment Summary-B	AE-ESUM-B
	Information-B	AE-INFO-B
Scheduling	Internal-B	SCHED-I-B
	External-B	SCHED-E-B
Trending	Viewing and Modifying Trends Internal-B	T-VMT-I-B
	Viewing and Modifying Trends External-B	T-VMT-E-B
	Automated Trend Retrieval-B	T-ATR-B
Device Management	Dynamic Device Binding-A	DM-DDB-A
	Dynamic Device Binding-B	DM-DDB-B
	Dynamic Object Binding-B	DM-DOB-B
	DeviceCommunicationControl-B	DM-DCC-B
	Automatic Network Mapping-A	DM-ANM-A
	TimeSynchronization-A	DM-TS-A
	TimeSynchronization-B	DM-TS-B
	UTCTimeSynchronization-A	DM-UTC-A
	UTCTimeSynchronization-B	DM-UTC-B
	Manual Time Synchronization-A	DM-MTS-A
	ReinitializeDevice-B	DM-RD-B
	Backup and Restore-B	DM-BR-B
	Restart-A	DM-R-A
	Restart-B	DM-R-B
List Manipulation-B	DM-LM-B	
ObjectCreation and Deletion-B	DM-OCD-B	

### 3-4-3 サポート BACnet 規格

本ユニットがサポートする BACnet 規格は表 3-7 のとおりです。準拠する BACnet 規格は、設定により変更することができます。

表 3-7 サポートする BACnet 規格

BACnet 規格	電気設備学会規格
	IEIEJ-P-0003:2000 ※1
	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a
ANSI/ASHRAE Standard 135-2004	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a
ANSI/ASHRAE Standard 135-2010	
ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 ※2	IEIEJ-G-0006:2017 ※2

※1 Ver2.1.0 以降

※2 Ver2.2.0 以降

電気設備学会規格は、同じ行の BACnet 規格を基に策定されています。

IEIEJ-P-0003:2000 の基になった BACnet 規格 (ANSI/ASHRAE Standard 135-2001) に関しては、本ユニットはサポートしていません。

### 3-5 Q インテリジェント機能

#### 3-5-1 概要

主な Q インテリジェント機能に対する本ユニットの実装状態を表 3-8 に示します。

表 3-8 Q インテリジェント機能対応表

名称	対応	概要
インテリジェント機能ユニットのスイッチ設定	○	プログラミングツールでソフトウェア的に外部スイッチを実現する機能です。
エラー情報	○	本ユニットのエラー履歴をプログラミングツールで参照する機能です。本ユニットのエラー履歴は、最大 5 つまで保持されます。電源断等でリセットが行われるとエラー履歴はクリアされます。
H/W 情報設定	×	プログラミングツールで本ユニットの LED やスイッチの情報を参照する機能です。本ユニットのハードウェア情報は、プログラミングツール上で参照することはできません。
GX Configurator 対応	×	設定状態や動作状態の確認を容易に行うための専用ユーティリティパッケージに対応するための機能です。本ユニットは、本ユニット内蔵のコンフィギュレーション機能で設定を行うことができます。
インテリジェント専用命令	×	シーケンスプログラムに本ユニット専用の命令書式を追加する機能です。本ユニットには、専用命令がありません。

この他、ここに書かれていない QCPU やプログラミングツールとの間で行われる Q シリーズ共通の機能は、実装されていない場合があります。

#### 3-5-2 入力信号

入力信号 X デバイスの ON/OFF 動作の詳細を表 3-9 に示します。

X 信号は、本ユニットが動作条件に伴い、ON/OFF の制御を行います。

表中の“n”は、本ユニットの先頭入出力番号です。

例) 本ユニットの先頭入力番号が“0020”の場合

Xn0 → X20

表 3-9 X デバイス

入力番号	信号名称	状態	動作条件の詳細
Xn0	ユニットレディ	ON	本ユニットが準備完了となり QCPU からの認識が可能になりました。
		OFF	本ユニットが動作していない、または WDT エラーが発生しました。
Xn1	ユニットレディ 2	ON	【詳細設定 CheckYDevice = 0 のとき】 本ユニットの初期化が完了し、バッファメモリへのアクセスが可能となり、本ユニットの機能が使用できる状態となりました。 【詳細設定 CheckYDevice = 1 のとき】 コンフィギュレーション機能より、「メンテナンス」-「停止・再開」画面にて「運転再開」を押され、本ユニットがコンフィギュレーション機能より設定変更されない状態となり、QCPU 側より制御できる状態となりました。 または、通信許可信号 (Yn1) を ON することで BACnet 通信へ参入できる状態になりました。
		OFF	【詳細設定 CheckYDevice = 0 のとき】 本ユニットが起動したが初期化が完了しておらず、本ユニットの機能が使用できる状態になっていません。 【詳細設定 CheckYDevice = 1 のとき】 コンフィギュレーション機能より、「メンテナンス」-「停止・再開」画面にて「一時停止」を押されたため、全体通信許可信号 (Yn1) を OFF する必要があります。
Xn2	Operational	ON	参入処理を実行後 BACnet の Device オブジェクトの SystemStatus が Operational になりました。
		OFF	Device オブジェクトの SystemStatus が Operational 以外になっています。
Xn3	バッファメモリアクセス	ON	本ユニットがバッファメモリの周期読み込みを行っています。 この時間は登録オブジェクト数や機能数により変化します。
		OFF	本ユニットがバッファメモリの周期読み込みを行っていません。 この時間は詳細設定 SleepTime により設定できます。
Xn5	時刻同期送信完了	ON	時刻同期送信要求により時刻同期の送信を行いました。
		OFF	時刻同期の送信要求が行われていません。 または、時刻同期送信要求の ON→OFF を検出しました。
Xn6	Who-Is 送信完了	ON	Who-Is 送信要求により Who-Is の送信を行いました。
		OFF	Who-Is の送信要求が行われていません。 または、Who-Is 送信要求の ON→OFF を検出しました。
XnF	エラー発生	ON	本ユニット起動時に必要な情報が読み取れず、初期化異常を検出しました。この場合、起動処理を中断し、本ユニットの BACnet 機能は動作しません。 本信号が ON すると、APP-ERR.LED が点灯し、重度エラーになります。 本件は致命的なエラーであり機器故障です。本現象が発生した場合は、調査のため対象ユニットを弊社へお送りください。
		OFF	本ユニットは正常に起動できています。

### 3-5-3 出力信号

出力信号 Y デバイスの ON/OFF 動作の詳細を表 3-10 に示します。

本ユニットは、シーケンスプログラムより Y 信号を ON/OFF されるのを監視し、本ユニットの制御を行います。

表中の“n”は、本ユニットの先頭入出力番号です。

例) 本ユニットの先頭入力番号が“0020”の場合  
Yn0 → Y20

表 3-10 Y デバイス

出力番号	信号名称	状態	動作条件の詳細
Yn1	全体通信許可	ON	【詳細設定 CheckYDevice = 0 のとき】 使用しません。 【詳細設定 CheckYDevice = 1 のとき】 BACnet に参入します。 ユニットレディ 2 信号(Xn1)が ON している状態で、本信号を ON してください。
		OFF	【詳細設定 CheckYDevice = 0 のとき】 使用しません。 【詳細設定 CheckYDevice = 1 のとき】 BACnet から離脱します。 ユニットレディ 2 信号(Xn1)が OFF になった時は、コンフィギュレーション機能による設定変更が要求されているため、本信号を OFF にしてください。
Yn2	Event/COV 送信禁止	ON	Event/COV は送信されません。 緊急時などに Event/COV の送信を抑止することができます。
		OFF	Event/COV は送信されます。
Yn3	スケジュール実行禁止	ON	スケジュールの動作を実行しません。 緊急時などにスケジュールに起因する処理を抑止することができます。
		OFF	BACnet の仕様に基づきスケジュールを実行します。 ON→OFF 時にスケジュールの再計算を行うため、現時刻にとるべき値のライト処理などが行われる場合があります。
		備考	本デバイスが変化すると、本ユニットに登録されている全ての Schedule オブジェクトの Schedule_Output_Disable プロパティが変更されます。
Yn4	定期バックアップ実行禁止	ON	定期バックアップを実行しません。 定期バックアップ時の一時的な負荷の増大を避けることができます。
		OFF	指定時刻に定期バックアップ機能を実行します。 ON 中に指定時刻を過ぎていた場合、ON→OFF 時にバックアップが実行されます。
Yn5	時刻同期送信要求	ON	OFF→ON により時刻同期要求 (TimeSynchronization サービス)を送信します。 詳細は「3-5-2 入力信号」を参照してください。
		OFF	時刻同期送信完了 (Xn5)が OFF→ON したら OFF にしてください。
Yn6	Who-Is 送信要求	ON	OFF→ON により Who-Is をブロードキャスト送信します。
		OFF	Who-Is 送信完了 (Xn6)が OFF→ON したら OFF にしてください。

### 3-6 バックアップ機能

本ユニットは設定情報および BACnet のプロパティ値などを保持するバックアップ機能を備えています。

#### 3-6-1 設定変更のバックアップ

本ユニットは Web コンフィギュレーション画面から設定を変更した際に変更情報をバックアップとして保存します。

#### 3-6-2 定期バックアップ機能

本ユニットは 24 時間毎に指定時刻に本ユニットの情報をバックアップとして保存します。定期バックアップ時刻は詳細設定 **Backup-Hour** および **Backup-Minute** により指定します。

本機能で保存したバックアップ情報は本ユニットの電源 OFF 状態が 24 時間以上続いた場合の設定情報復元に使用されます。

※ バックアップにはほとんど全ての設定および情報が含まれますが、一時情報としてのログ情報およびトレンドログオブジェクトの **LogBuffer** プロパティは含まれません。

#### 3-6-3 BACnet プロパティ値のバックアップ

運用中に随時変化する BACnet プロパティ値は本ユニットのメモリに保持され、不慮の電源断等が発生した場合でも 24 時間まで直前の値を保持し続けます。このため、電源復旧後に電源断直前の状態から再稼働を行うことができます。

## 4 起動および停止

### 4-1 電源オン時

電源がオンになると以下のようなシーケンスで動作開始します。

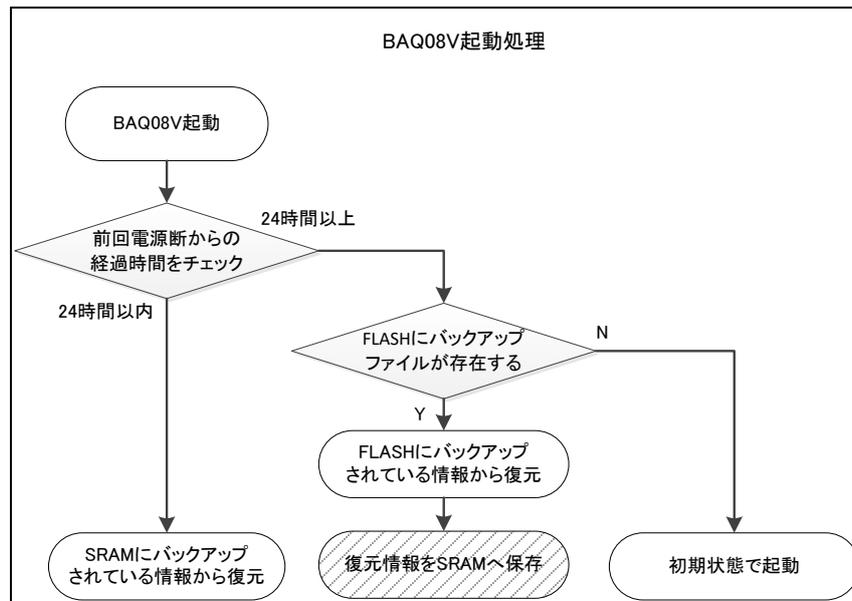
詳細設定 CheckYDevice = 1 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	QCPUプログラムの動作	Yn1	備考
Gateway プログラム動作開始時、Xn0 を 1 にします	0→1	0	0		0	電源を投入します
Gateway プログラム動作開始後 SRAM 情報からバッファメモリの内容を更新します	1					
バッファメモリ更新後 Xn1 を 1 にします		0→1				
Yn1 が 1 になるまで待機します				Xn1 が 1 になると バッファメモリに初期値を書込みます		
		1		初期値書込み後 Yn1 を 1 にします	0→1	
Yn1 が 1 になると BACnet 参入処理を開始します						1
参入完了後 Xn2 を 1 にします			0→1			
BACnet 通信動作を開始します			1			動作中

詳細設定 CheckYDevice = 0 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	備考
Gateway プログラム動作開始時、Xn0 を 1 にします	0→1	0	0	電源を投入します
Gateway プログラム動作開始後 SRAM 情報からバッファメモリの内容を更新します	1			
バッファメモリ更新後 Xn1 を 1 にします		0→1		
Xn1 が 1 になると BACnet 参入処理を開始します				
参入完了後 Xn2 を 1 にします		1	0→1	
BACnet 通信動作を開始します			1	動作中

また、起動時における SRAM の情報を復元する処理は以下のフローチャートで示す処理となります。



#### 4-2 シーケンスプログラムの停止要求

シーケンスプログラムは以下のシーケンスで動作中の本ユニットを停止することができます。詳細設定 CheckYDevice = 0 の場合、シーケンスプログラムからの停止要求はできません。

詳細設定 CheckYDevice = 1 の場合のみ

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	QCPUプログラムの動作	Yn1	備考	
BACnet 通信動作中	1	1	1		1	動作中	
				停止要求を伝えるため Yn1 を 0 にします	1→0		
BACnet 離脱処理を開始します。						0	
離脱後 Xn2 を 0 にします。				1→0			
BACnet 通信動作停止中			0	Xn2 が 0 になり停止と認識します			

#### 4-3 Web 画面操作での停止要求

Web の操作で停止が指示されると、以下のシーケンスで停止処理が行われます。停止状態では本ユニットに対して様々な設定変更が可能になります。

詳細設定 CheckYDevice = 1 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	シーケンスプログラムの動作	Yn1	備考
BACnet 通信動作中	1	1	1		1	Web で停止操作が行われた
		1→0				
Xn1 を 0 にしてシーケンスプログラムに停止を報告します				Xn1 の 1→0 を検出すると Yn1 を 0 にする必要があります		
Yn1 が 0 になると離脱処理を行います		0			0	
離脱後、Xn2 を 0 にします		1→0				
BACnet 通信動作停止中		0				

詳細設定 CheckYDevice = 0 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	備考
BACnet 通信動作中	1	1	1	Web で停止操作が行われた
			1→0	
離脱処理を行う				
離脱後 Xn2 を 0 にします		1→0	0	
Xn1 を 0 にしてシーケンスプログラムに停止を報告します				
BACnet 通信動作停止中		0		

#### 4-4 Web 画面操作での再開要求

Web の操作で停止されている場合再開が指示されると、以下のシーケンスで再開処理が行われます。

詳細設定 CheckYDevice = 1 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	シーケンスプログラムの動作	Yn1	備考	
BACnet 通信動作停止中	1	0	0		0		
Web から再開が指示されると Xn1 を 1 にします		0→1					Web で再開が指示された
		1		初期値書き込み後 Yn1 を 1 にします		Xn1 が 1 になるとバッファメモリに初期値を書込みます	
						0→1	
Yn1 が 1 になると BACnet 参入処理を開始します		1					
参入完了後 Xn2 を 1 にします			0→1				
BACnet 通信動作を開始します			1				

詳細設定 CheckYDevice = 0 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	備考
BACnet 通信動作停止中	1	0	0	停止中
				Web で再開が指示された
Web から再開が指示されると Xn1 を 1 にします		0→1		
BACnet 参入処理を開始します		1	0→1	
参入完了後 Xn2 を 1 にします				
BACnet 通信動作を開始します		1		

#### 4-5 ReinitializeDevice の受信処理

BACnet の Device オブジェクトのプロパティである Protocol\_Services\_Supported で ReinitializeDevice がサポートされている場合、ColdStart, WarmStart の ReinitializeDevice を受信すると以下のシーケンスで Reinitialize 処理が行われます。

詳細設定 CheckYDevice = 1 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	シーケンスプログラムの動作	Yn1	備考		
BACnet 通信動作中	1	1	1		1			
							ReinitializeDevice 受信	
ReinitializeDevice に応答し、 離脱処理を行います							応答は SimpleAck	
離脱後 Xn2 を 0 にします				1→0				
Xn1 を 0 にしてシーケンスプログラムに 停止を報告します			1→0					
			0		Xn1 の 1→0 を検出すると Yn1 を 0 にする必要があります	1→0		
BACnet 通信動作停止中			0→1					
Xn1 を 1 にします				0			Yn1 の 1→0 がトリガとなります	
					Xn1 の 0→1 を検出すると バッファメモリに初期値を書込み ます		0	
			1		初期値書込み後 Yn1 を 1 にします	0→1		
BACnet 参入処理を開始します								Yn1 の 0→1 がトリガとなります
参入完了後 Xn2 を 1 にします			0→1					
BACnet 通信動作を開始します			1		1			

詳細設定 CheckYDevice = 0 の場合

本ユニットの動作	Xn0	Xn1	Xn2	備考		
BACnet 通信動作中	1	1	1	動作中		
						ReinitializeDevice 受信
ReinitializeDevice に応答し、 離脱処理を行います						応答は SimpleAck
離脱後 Xn2 を 0 にします。				1→0		
さらに Xn1 を 0 にします。			1→0			
停止状態になります			0			
再開するために Xn1 を 1 にします。			0→1			
BACnet 参入処理を開始します				0		
参入完了後 Xn2 を 1 にします						
BACnet 通信動作を開始します						
			1			
					0→1	
			1			

#### 4-6 電源オフ時の処理

電源がオフされると、本ユニットは動作を停止します。BACnet オブジェクトのプロパティ情報などは運転時に変更があればその都度 SRAM に書込まれているので電源オフ時の特別な処理はありません。

ただし SRAM の情報はスーパーキャパシタにより一定時間しか保持されていないので注意が必要です。24 時間以上経過した場合は、SRAM 情報は消去されます。

長時間電源をオフしたままにする場合はデータをバックアップし、電源をオンしたときにバックアップしたデータをリストアしなければなりません。

## 4-7 参入・離脱

### 4-7-1 概要

本ユニットは BACnet 通信動作の開始時および停止時に参入・離脱処理を行います。

参入・離脱処理は本ユニットが準拠している規格により処理内容が異なります。また、BACnet 通信で `ReinitializeDevice` を受信した場合にも参入・離脱処理は行われます

参入時に `Calendar` オブジェクトの `DateList` の確定が行われますが、確定する方法として静的、動的の 2 種類があります。詳細は 6-5 章および 8-8 章を参照してください。

## 4-7-2-1 参入処理

参入処理は下記手順にて行われます。

- (1) I-Am を同報する（ローカルブロードキャスト）。
- (2) UnconfirmedEventNotification を同報する（ローカルブロードキャスト）  
UnconfirmedEventNotification のパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	内容
ProcessID	1
InitiatingDeviceIdentifier	自身の DeviceObject
EventObjectIdentifier	Object = EventEnrollment InstanceNo = 2
TimeStamp	現在の時刻
NotificationClass	1
Priority	7
EventType	CHANGE_OF_STATE
NotifyType	EVENT
AckRequired	FALSE
FromState	OFFNORMAL
ToState	NORMAL
EventValues	System_Status = DOWNLOAD_REQUIRED Status_Flags = FFFF

- (3) Who-Is サービスを同報する（ローカルブロードキャスト）。
- (4) UnconfirmedEventNotification を同報する（ローカルブロードキャスト）。  
UnconfirmedEventNotification のパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	内容
ProcessID	1
InitiatingDeviceIdentifier	自身の DeviceObject
EventObjectIdentifier	Object = EventEnrollment InstanceNo = 3
TimeStamp	現在の時刻
NotificationClass	1
Priority	7
EventType	CHANGE_OF_STATE
NotifyType	EVENT
AckRequired	FALSE
FromState	OFFNORMAL
ToState	NORMAL
EventValues	System_Status = DOWNLOAD_IN_PROGRESS Status_Flags = FFFF

- (5) TimeSynchronization サービスを 1 秒間待ちます。
- (6) Calendar オブジェクトの読み込みを行う。
  - A) Calendar オブジェクトの動的読み込みが指定されている場合。  
設定されている Object\_Name を持つ Device と Object を Who-Has サービスを使用して検出し、その Calendar オブジェクトの Date\_List を読み込み、自身の Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティに書込みます。
  - B) Calendar オブジェクトの静的読み込みが指定されている場合。  
設定されている Device の Calendar オブジェクトの DateList を読み込み、自身の Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティに書込みます。
- (7) UnconfirmedEventNotification を同報する（ローカルブロードキャスト）。  
UnconfirmedEventNotification のパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	内容
ProcessID	1
InitiatingDeviceIdentifier	自身の DeviceObject
EventObjectIdentifier	Object = EventEnrollment InstanceNo = 0
TimeStamp	現在の時刻
NotificationClass	1
Priority	7
EventType	CHANGE_OF_STATE
NotifyType	EVENT
AckRequired	FALSE
FromState	OFFNORMAL
ToState	NORMAL

EventValues	System_Status = OPERATIONAL Status_Flags = FFFF
-------------	--

(8) BACnet モニタ機能に登録されている Device の Object の Property を読み込みます。

#### 4-7-2-2 離脱処理

離脱処理は下記手順にて行われます。

- (1) UnconfirmedEventNotification を同報する（ローカルブロードキャスト）。  
UnconfirmedEventNotification のパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	内容
ProcessID	1
InitiatingDeviceIdentifier	自身の DeviceObject
EventObjectIdentifier	Object = EventEnrollment InstanceNo = 4
TimeStamp	現在の時刻
NotificationClass	1
Priority	7
EventType	CHANGE_OF_STATE
NotifyType	EVENT
FromState	OFFNORMAL
ToState	NORMAL
EventValues	System_Status = NON_OPERATIONAL Status_Flags = FFFF

4-7-3-1 参入処理

参入処理は下記手順にて行われます。

- (1) Device オブジェクトの RestartNotificationRecipients プロパティに登録されている宛先に、UnconfirmedCOVNotification を送信します。

UnconfirmedCOVNotification のパラメータは以下の通りです。

パラメータ	内容	
Subscriber Process Identifier	0	
Initiating Device Identifier	自身の Device Object	
Monitored Object Identifier	自身の Device Object	
Time Remaining	0	
List of Values	Property	内容
	System_Status	DOWNLOAD_REQUIRED
	Time_Of_Device_Restart	現在の時刻
	Last_Restart_Reason	Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値

- (2) Who-Is 送信先に登録されている Device に対して Who-Is を送信します。  
この Who-Is に対する応答 (I-Am) により Device オブジェクトの DeviceAddressBinding プロパティを更新します。

- (3) Device オブジェクトの RestartNotificationRecipients プロパティに登録されている宛先に、UnconfirmedCOVNotification を送信します。

UnconfirmedCOVNotification のパラメータは以下の通りです。

パラメータ	内容	
Subscriber Process Identifier	0	
Initiating Device Identifier	自身の Device Object	
Monitored Object Identifier	自身の Device Object	
Time Remaining	0	
List of Values	Property	内容
	System_Status	DOWNLOAD_IN_PROGRESS
	Time_Of_Device_Restart	現在の時刻
	Last_Restart_Reason	Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値

- (4) TimeSynchronization を 1 秒間待ちます。

- (5) Calendar オブジェクトの読み込みを行う。

- A) Calendar オブジェクトの動的読み込みが指定されている場合。

設定されている Object\_Name を持つ Device と Object を Who-Has サービスを使用して検出し、その Calendar オブジェクトの Date\_List を読み込み、自身の Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティに書込みます。

- B) Calendar オブジェクトの静的読み込みが指定されている場合。

設定されている Device の Calendar オブジェクトの DateList を読み込み、自身の Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティに書込みます。

- (6) Device オブジェクトの RestartNotificationRecipients プロパティに登録されている宛先に、UnconfirmedCOVNotification を送信します。

UnconfirmedCOVNotification のパラメータは以下の通りです。

パラメータ	内容	
Subscriber Process Identifier	0	
Initiating Device Identifier	自身の Device Object	
Monitored Object Identifier	自身の Device Object	
Time Remaining	0	
List of Values	Property	内容
	System_Status	OPERATIONAL
	Time_Of_Device_Restart	現在の時刻
	Last_Restart_Reason	Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値

- (7) I-Am を同報する (ローカルブロードキャスト)

- (8) BACnet モニタ機能に登録されている Device の Object の Property を読み込みます。

#### 4-7-3-2 離脱処理

離脱処理は下記手順にて行われます。

- (1) Device オブジェクトの `RestartNotificationRecipients` プロパティに登録されている宛先に、`UnconfirmedCOVNotification` を送信します。

`UnconfirmedCOVNotification` のパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	内容								
Subscriber Process Identifier	0								
Initiating Device Identifier	自身の Device Object								
Monitored Object Identifier	自身の Device Object								
Time Remaining	0								
List of Values	<table border="1"><thead><tr><th>Property</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>System_Status</td><td>NON_OPERATIONAL</td></tr><tr><td>Time_Of_Device_Restart</td><td>現在の時刻</td></tr><tr><td>Last_Restart_Reason</td><td>Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値</td></tr></tbody></table>	Property	内容	System_Status	NON_OPERATIONAL	Time_Of_Device_Restart	現在の時刻	Last_Restart_Reason	Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値
	Property	内容							
	System_Status	NON_OPERATIONAL							
	Time_Of_Device_Restart	現在の時刻							
Last_Restart_Reason	Device Object の Last_Restart_Reason プロパティ値								

## 5 BACnet オブジェクト

### 5-1 概要

本ユニット内の BACnet オブジェクトのプロパティは SRAM 上に保管されています。また一部のプロパティはバッファメモリにも割りつけられています。

本ユニット内に BACnet オブジェクトを定義するときには、BACnet のプロパティ情報、割りつけられるバッファメモリのアドレス情報およびバッファメモリ上で読み書きされるデータと BACnet プロパティの相互変換方式を指定する必要があります。

Schedule など一部の BACnet オブジェクトはバッファメモリを使用しないものもあります。

1 つの BACnet オブジェクトが使用する SRAM 容量とバッファメモリ容量は BACnet オブジェクトの Type により異なるので、BACnet オブジェクトの作成可能数は SRAM 容量とバッファメモリ容量の合計により決定されます。

バッファメモリは 64KByte 実装されています。これを BACnet オブジェクトに割りつけることができます。BACnet オブジェクト以外にもバッファメモリは使用されます。

### 5-2 データの範囲

基本的なデータ型の値の範囲を以下に示します。

データ型	データ範囲
NULL	(なし)
BOOLEAN	0:FALSE, 1:TRUE
Unsigned	0 ~ 4294967295
Signed	-2147483648 ~ 2147483647
REAL	32Bit 浮動小数点型の全範囲 最小変化値:0.000001
DOUBLE	(非対応)
OctetString	(非対応)
CharacterString	0 ~ 128Bytes
Date	1980/1/1 ~ 2037/12/31
Time	0:0:0.0 ~ 23.59.59.99
ObjectIdentifier	0 ~ 4294967295 ※ObjectType:0 ~ 1023 ※InstanceNo:0 ~ 4194303

LIST 型および ARRAY 型に関する制限は以下のとおりです。

データ型	要素数
LIST 型	0 ~ 32
ARRAY 型	

以下に例外となるプロパティとその値の範囲を示します。

OBJECT	PROPERTY	データ範囲
Device	Device_Address_Binding	LIST 型の要素数制限なし(0 ~ 4294967295)
	Active_COV_Subscriptions	
Multi-state Input	State_Text	LIST 型の要素数制限なし(0 ~ 4294967295) CharacterString のサイズ制限なし(0 ~ 4294967295Bytes)
Multi-state Output		
Multi-state Value		

### 5-3 OutOfService について

OutOfService のプロパティはシーケンスプログラムからも制御できます。また外部 Device から WriteProperty (Multiple) を受信して設定することができます。この動作は以下のようになります。

WriteProperty など下記込まれた OutOfService 情報と QCPU が設定する OutOfService の論理和が OutOfService プロパティの値となります。

以下に動作例を示します。

QCPU	WriteProperty など	OutOfService プロパティ
		False
CONTROL-OutOfService に 1 を書込む		True
	OutOfService に True を書込む	True
CONTROL-OutOfService に 0 を書込む		True
	OutOfService に False を書込む	False
	OutOfService に True を書込む	True
CONTROL-OutOfService に 1 を書込む		True
CONTROL-OutOfService に 0 を書込む		True
	OutOfService に False を書込む	False

## 5-4 独自プロパティ仕様

本ユニットの BACnet オブジェクトにはユーザの利便性を向上させるための独自プロパティが追加されているものがあります。

独自プロパティの詳細は以下の通りです。

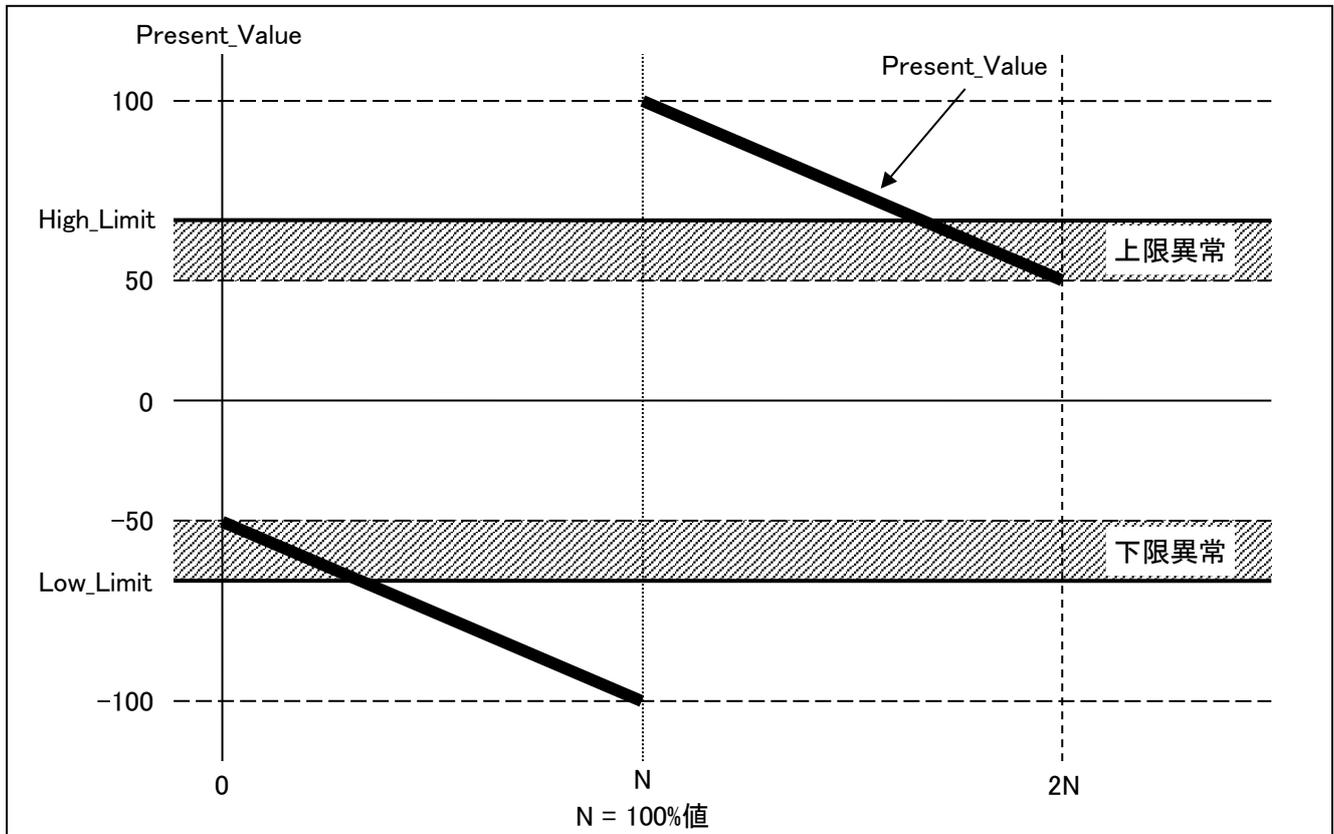
ID	Property Name	Object	内容										
9001	力率 (Power_Factor)	AI,AO,AV	<p>力率用 Event 処理を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>通常の Event 処理を行います。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>力率用 Event 処理を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>力率用 Event の詳細は 5-4-1 章を参照してください。</p>	値	内容	FALSE	通常の Event 処理を行います。	TRUE	力率用 Event 処理を行います。				
値	内容												
FALSE	通常の Event 処理を行います。												
TRUE	力率用 Event 処理を行います。												
9002	Intrinsic_Event_Disable	AI,AO,AV,BI,BO,BV,MI,MO,MV,AC,計量,電力監視,電力制御,発電機	<p>Event_State プロパティの変化抑制を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>通常の Event_State 処理を行います。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>Event_State 処理および Event 送信処理を停止します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>本プロパティによる動作の詳細は 5-4-2 章を参照してください。</p>	値	内容	FALSE	通常の Event_State 処理を行います。	TRUE	Event_State 処理および Event 送信処理を停止します。				
値	内容												
FALSE	通常の Event_State 処理を行います。												
TRUE	Event_State 処理および Event 送信処理を停止します。												
9003	Unsolicited_COV	AI,AO,AV,BI,BO,BV,MI,MO,MV,AC,計量,電力監視,電力制御,発電機	<p>Present_Value または Status_Flags プロパティの変化に起因する UnsolicitedCOV の送信に関する設定を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>送信無し</td> <td>送信しません</td> </tr> <tr> <td>変化時のみ</td> <td>プロパティ変化時のみ送信します。</td> </tr> <tr> <td>変化時および周期送信</td> <td>プロパティ変化時に送信します。COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。</td> </tr> <tr> <td>変化時および周期送信 (In_Alarm のみ)</td> <td>プロパティ変化時に送信します。In_Alarm 時に限り、COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>In_Alarm とは、Status_Flags プロパティの In_Alarm フラグが TRUE の状態を指し、Event_State が NORMAL 以外の状態となります。</p>	値	内容	送信無し	送信しません	変化時のみ	プロパティ変化時のみ送信します。	変化時および周期送信	プロパティ変化時に送信します。COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。	変化時および周期送信 (In_Alarm のみ)	プロパティ変化時に送信します。In_Alarm 時に限り、COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。
値	内容												
送信無し	送信しません												
変化時のみ	プロパティ変化時のみ送信します。												
変化時および周期送信	プロパティ変化時に送信します。COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。												
変化時および周期送信 (In_Alarm のみ)	プロパティ変化時に送信します。In_Alarm 時に限り、COV_Send_Interval プロパティの設定周期毎にも送信します。												
9004	Value_Is_Output	AV,BV,MV	<p>Value オブジェクトの動作を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>通常の Event_State 処理を行います。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>Event_State 処理を停止します。</td> </tr> </tbody> </table>	値	内容	FALSE	通常の Event_State 処理を行います。	TRUE	Event_State 処理を停止します。				
値	内容												
FALSE	通常の Event_State 処理を行います。												
TRUE	Event_State 処理を停止します。												
9006	COV_Send_Interval	AI,AO,AV,BI,BO,BV,MI,MO,MV,AC,計量,電力監視,電力制御,発電機	<p>UnsolicitedCOV の送信周期を設定します。単位は秒。 本プロパティの設定値は Unsolicited_COV プロパティで周期送信を行う設定にした場合にのみ有効です。</p>										
9011	Schedule_Output_Disable	SC	<p>スケジュール計算の実行設定を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>通常のスケジュール計算を行います。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>全てのスケジュール計算を禁止します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>本プロパティによる動作の詳細は 5-4-3 章を参照してください。</p>	値	内容	FALSE	通常のスケジュール計算を行います。	TRUE	全てのスケジュール計算を禁止します。				
値	内容												
FALSE	通常のスケジュール計算を行います。												
TRUE	全てのスケジュール計算を禁止します。												
9012	Schedule_Expand	SC	<p>Exception_Schedule プロパティの自動生成処理を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>自動生成処理を行いません。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>自動生成処理を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>本プロパティによる動作の詳細は 5-4-4 章を参照してください。</p>	値	内容	FALSE	自動生成処理を行いません。	TRUE	自動生成処理を行います。				
値	内容												
FALSE	自動生成処理を行いません。												
TRUE	自動生成処理を行います。												
9014	Schedule_Default_Disable	SC	<p>日付変更時の Schedule_Default プロパティの動作を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FALSE</td> <td>自動生成処理を行いません。</td> </tr> <tr> <td>TRUE</td> <td>自動生成処理を行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>本プロパティによる動作の詳細は 5-4-5 章を参照してください。</p>	値	内容	FALSE	自動生成処理を行いません。	TRUE	自動生成処理を行います。				
値	内容												
FALSE	自動生成処理を行いません。												
TRUE	自動生成処理を行います。												

### 5-4-1 力率用 Event 処理

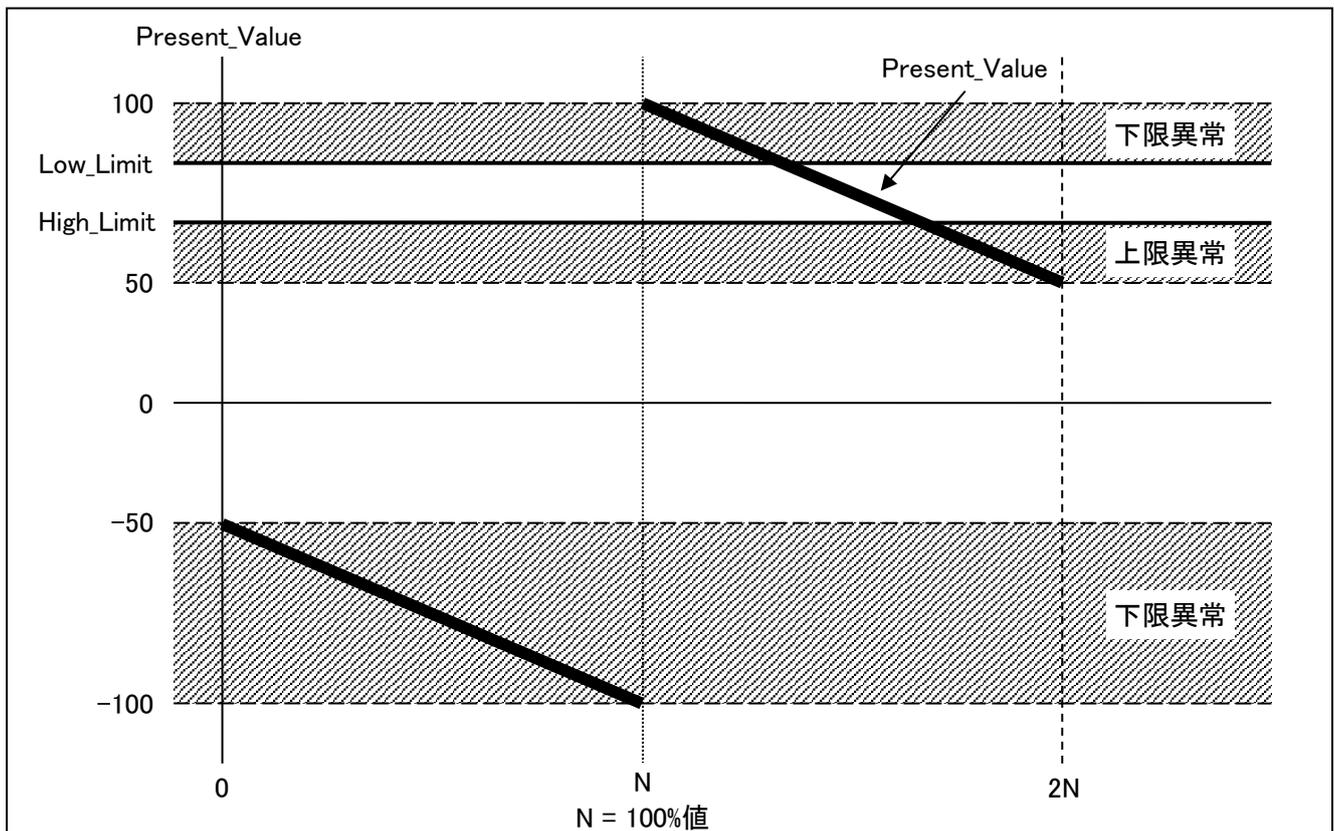
Analog Input/Output/Value オブジェクトの力率プロパティが TRUE のとき、Event 判定条件が力率用となります。

力率用 Event 処理は以下の 3 つのパターンに分けられます。

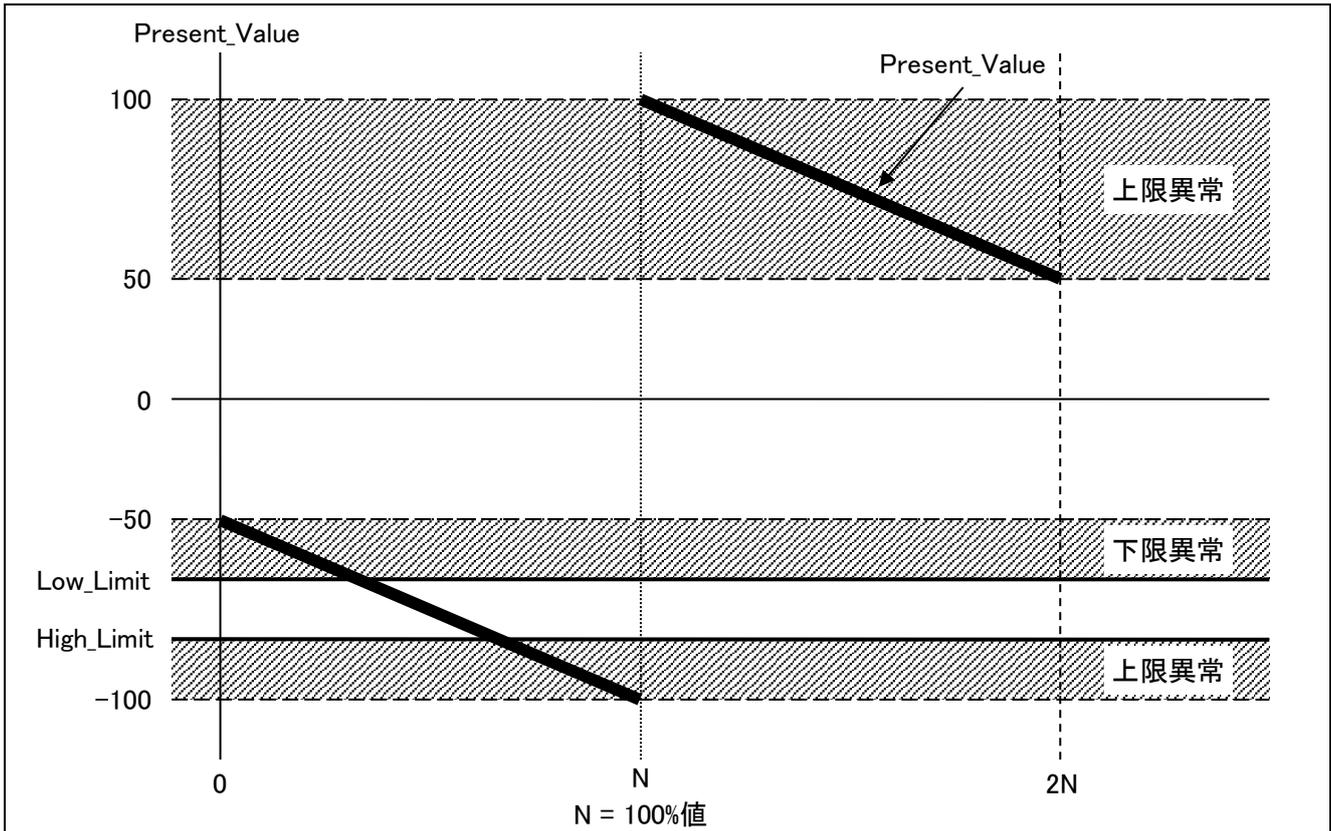
(1)  $-100 < \text{Low\_Limit} < -50$ ,  $50 < \text{High\_Limit} < 100$  の場合



(2)  $50 < \text{High\_Limit} < \text{Low\_Limit} < 100$  の場合



(3)  $-100 < \text{High\_Limit} < \text{Low\_Limit} < -50$  の場合



力率用 Event 処理における上下限異常判定は以下のようになります。

Event_State	判定
NORMAL → High_Limit/Low_Limit	High/Low_Limit 値と Present_Value 値が同じ場合、NORMAL を維持します。 Present_Value 値が High/Low_Limit 値を上回る/下回ると上下限異常と判定します。
High_Limit → NORMAL	High_Limit - Deadband 値と Present_Value が一致した場合、復旧と判定します。 Present_Value 値が High_Limit 値を下回った場合も同様に復旧と判定します。
Low_Limit → NORMAL	Low_Limit + Deadband 値と Present_Value が一致した場合、復旧と判定します。 Present_Value 値が Low_Limit 値を上回った場合も同様に復旧と判定します。

Present\_Value 値は力率値に自動変換されるわけではありません。力率 Event を使用する場合は力率値に変換した値を Present\_Value として入力してください。

#### 5-4-2 Intrinsic\_Event\_Disable の動作

Intrinsic\_Event\_Disable プロパティが TRUE のとき、このプロパティが属するオブジェクトの Event\_State プロパティを固定します。Event\_State プロパティが NORMAL のときに Intrinsic\_Event\_Disable が TRUE になった場合、Intrinsic\_Event\_Disable プロパティが TRUE である間は NORMAL から変化しません。これは Event\_State プロパティが OFFNORMAL, FAULT, HIGH\_LIMIT, LOW\_LIMIT といった値をとっていた場合も同様となります。

Intrinsic\_Event\_Disable プロパティが FALSE に変更されたとき、Event\_State プロパティは他プロパティの状態からその時とるべき値になります。

※ BACnet 規格が「ANSI/ASHRAE Standard 135-2012」以降の場合、このプロパティは使用できません。代わりに同等の機能をもつ Event\_Detection\_Enable プロパティを使用してください。

#### 5-4-3 Schedule\_Output\_Disable の動作

Schedule\_Output\_Disable プロパティが TRUE のとき、このプロパティが属するオブジェクトのスケジュール計算は無効となります。すなわち、Exception\_Schedule や Weekly\_Schedule プロパティが示す時刻になっても Present\_Value 値が変更されず、それゆえに List\_Of\_Object\_Property\_References プロパティが示すオブジェクトのプロパティ値が変更されることもありません。

Schedule\_Output\_Disable プロパティが FALSE になった時、このプロパティが属するオブジェクトのスケジュール計算が行われ、その時刻にとっているべき値が Present\_Value として出力され、スケジュールの出力処理が行われます。

#### 5-4-4 Schedule\_Expand の動作

Schedule\_Expand プロパティが TRUE のとき、このプロパティが属するオブジェクトの Exception\_Schedule プロパティは午前 0 時に自動生成されます。Schedule\_Expand プロパティの動作を以下に示します。

動作	詳細
配列[1]～[7]の日付を固定	配列[1]を当日、配列[2]～[7]を翌日から 6 日後までの日付に固定します。
スケジュール配列の移動	日付が変わる時、配列[2]～[7]を配列[1]～[6]に移動します。 これにより配列[1]～[6]は当日から 5 日後までのスケジュールとなります。
6 日後のスケジュール自動生成	上記「スケジュール配列の移動」後、配列[7]に 6 日後の日付のスケジュールを自動生成します。 自動生成時、その日の曜日の Weekly_Schedule プロパティが示すスケジュールが登録されます。

※本プロパティが TRUE のとき、自動生成が行われる配列[7]へスケジュール書込みを行っても、スケジュールは反映されません。

#### 5-4-5 Schedule\_Default\_Disable の動作

BACnet2004 以降の仕様では、日付が変わる 0 時 0 分にスケジュール計算を実行すると規定されています。Schedule\_Default\_Disable プロパティが TRUE の場合、この 0 時 0 分の自動実行スケジュール計算時に Schedule\_Default プロパティの値がスケジュール計算結果として出力されることを抑制します。

Schedule\_Default\_Disable が TRUE でも、0 時 0 分の自動実行スケジュール計算時以外の場合は Schedule\_Default プロパティの値がスケジュール計算結果として出力されます。

#### 5-5 Event について

BACnet2012 以降の仕様では、Fault Event (Event\_State が Fault になる、または Fault から変化する Event) の仕様が変更されています。

これにより、対応する BACnet 規格が異なる BACnet デバイス同士では、Fault Event による Event 通知が正しく認識できない可能性があります。

BACnet 規格	説明
ANSI/ASHRAE Standard 2010 以前	Fault Event の際、オブジェクトタイプ毎に定められた通知タイプの Event を使用します。 例: Analog Input オブジェクトタイプ → OUT_OF_RANGE タイプ Binary Input オブジェクトタイプ → CHANGE_OF_STATE タイプ
ANSI/ASHRAE Standard 2012 以降	Fault Event の際、オブジェクトタイプにかかわらず、通知タイプは CHANGE_OF_RELIABILITY タイプを使用します。

Fault Event の仕様については、詳細設定 ChangeOfReliabilityAtFaultEventDisable を「1」に設定することで適用を無効化することができますが、BACnet 規格の標準仕様とは異なる動作となりますのでご注意ください。

## 5-6 Accumulator Object (AC)

### 5-6-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Scale	BACnetScale	R	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
Prescale	BACnetPrescale	O	R/W	
Max_Pres_Value	Unsigned	R	R/W	
Value_Change_Time	BACnetDateTime	O	R	
Value_Before_Change	Unsigned	O	R	
Value_Set	Unsigned	O	R/W	
Logging_Record	BACnetAccumulatorRecord	O	R	
Logging_Object	BACnetObjectIdentifier	O	R/W	
Pulse_Rate	Unsigned	O	R/W	
High_Limit	Unsigned	O	R/W	
Low_Limit	Unsigned	O	R/W	
Limit_Monitoring_Interval	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Limit_Enable	BitString	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

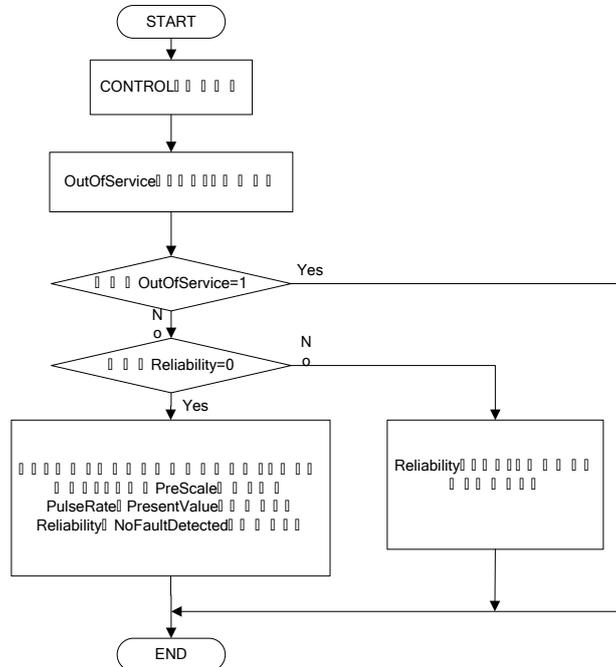
## 5-6-2 本ユニットの動作

### 5-6-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時に SRAM に保存しておいた BACnet オブジェクトのプロパティ情報から STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

### 5-6-2-2 周期動作

周期的なバッファメモリの読み込み処理を以下に示します。



### 5-6-2-3 その他の動作

本ユニットは LimitEnable, EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions のプロパティ情報の変化を検出すると、それらを 16Bit の STATUS としてまとめバッファメモリに書込みます。

### 5-6-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-1 章を参照してください。

## 5-7 Analog Input Object (AI)

### 5-7-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	REAL	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Update_Interval	Unsigned	O	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
Min_Pres_Value	REAL	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以外
Max_Pres_Value	REAL	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以外
Resolution	REAL	O	R	
COV_Increment	REAL	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
High_Limit	REAL	O	R/W	
Low_Limit	REAL	O	R/W	
Deadband	REAL	O	R/W	
Limit_Enable	BitString	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
力率(Power_Factor)	BOOLEAN	EX	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

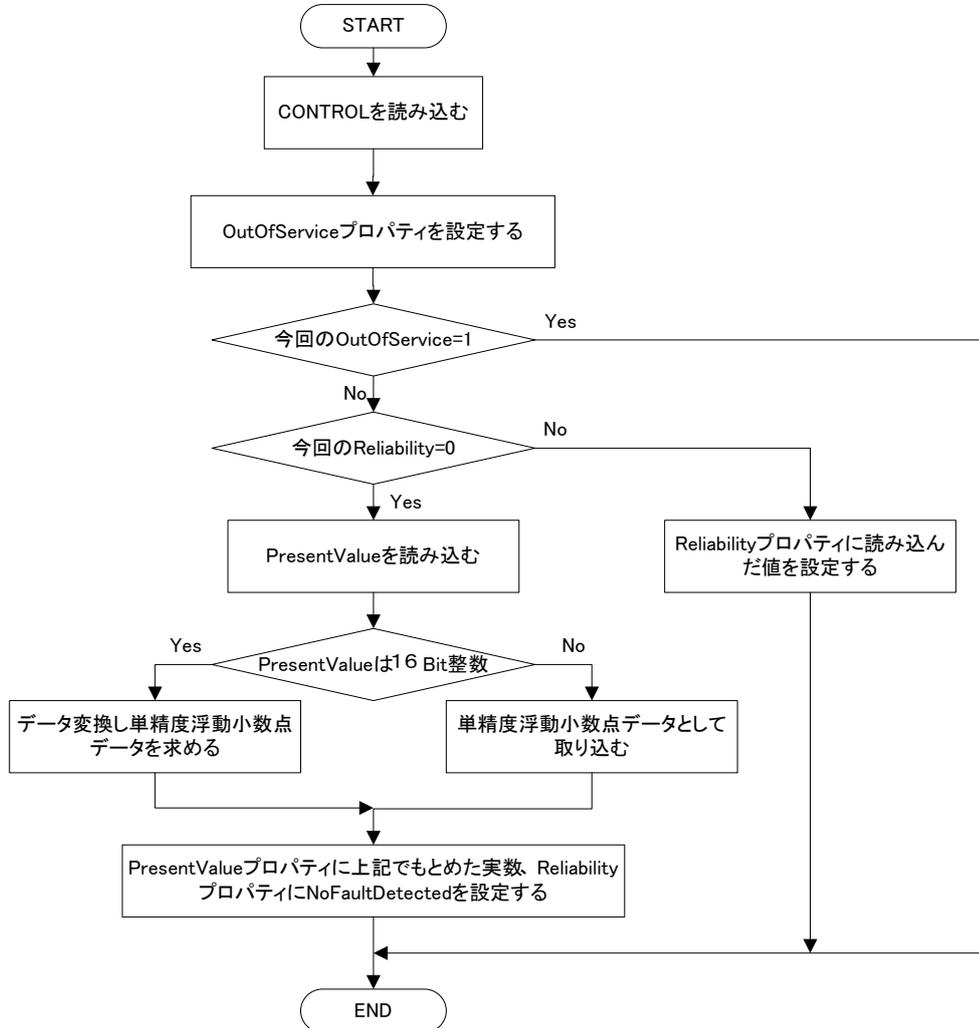
## 5-7-2 本ユニットの動作

### 5-7-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

### 5-7-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



当該オブジェクトにデータ変換が設定されていない場合、PresentValue を 32Bit 実数値として読み込みます。データ変換が設定されている場合、16Bit 符号付き整数値として読み込み、以下の計算を行った結果を Present\_Value にセットします。

バッファメモリから読んだ 16Bit 整数=D,実数 A=Ra,実数 B=Rb,整数 A=Ia,整数 B=Ib とすると $\text{PresentValue} = \frac{(Ra - Rb) \cdot D + Rb \cdot Ia - Ra \cdot Ib}{Ia - Ib}$
--

### 5-7-2-3 その他の動作

本ユニットは LimitEnable,EventEnable,StatusFlags,EventState,AckedTransitions のプロパティ情報の変化を検出すると、それらを 16Bit の STATUS としてまとめバッファメモリに書込みます。

### 5-7-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-2 章を参照してください。

## 5-8 Analog Output Object(AO)

### 5-8-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	REAL	W	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
Min_Pres_Value	REAL	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以外
Max_Pres_Value	REAL	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以外
Resolution	REAL	O	R	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	R	R	
Relinquish_Default	REAL	R	R/W	
COV_Increment	REAL	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
High_Limit	REAL	O	R/W	
Low_Limit	REAL	O	R/W	
Deadband	REAL	O	R/W	
Limit_Enable	BitString	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
力率(Power_Factor)	BOOLEAN	EX	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

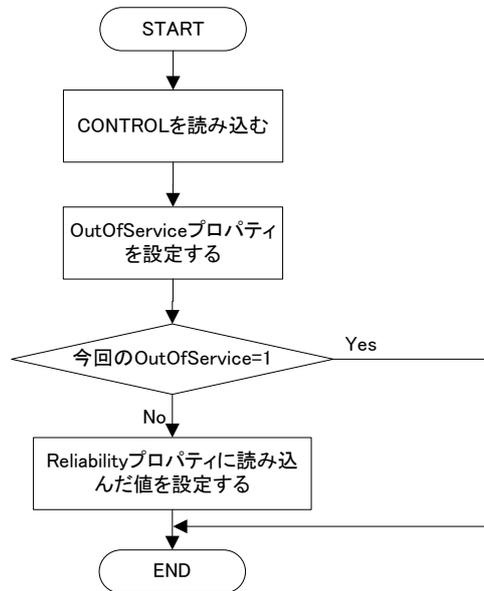
## 5-8-2 本ユニットの動作

### 5-8-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。詳細設定 InitialDataOutputDisable が 0 ならば Present\_Value も STATUS と共にバッファメモリに書込みます。

### 5-8-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-8-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作

WriteProperty(Multiple)を受信すると、バッファメモリの PresentValue に Present\_Value プロパティ値を書込みます。その後、バッファメモリの STATUS の PVWritten に 1 を書込みます。

STATUS の PVWritten は CONTROL の PVWrittenClear を使用した手順によって 0 に戻す必要があります。

ただし PVWritten および PVWrittenClear がどのような値であっても WriteProperty(Multiple)による Present\_Value への書込みが行われると (例え同じ値だったとしても) PVWritten に 1 を書込みます。

当該オブジェクトにデータ変換が設定されていない場合、PresentValue には 32Bit 実数値を書込みます。データ変換が設定されている場合、以下の計算を行った結果を 16Bit 符号付き整数値で書込みます。

$$\text{バッファメモリから書込む 16Bit 整数} = D, \text{実数 } A = Ra, \text{実数 } B = Rb, \text{整数 } A = Ia, \text{整数 } B = Ib \\ \text{とすると} \\ D = ((Ia - Ib) \cdot \text{PresentValue} + Ib \cdot Ra - Ia \cdot Rb) / (Ra - Rb)$$

PVWritten および PVWrittenClear の操作手順は 7-3-3 章を参照してください。

### 5-8-2-4 自己書込みの動作

バッファメモリの CONTROL の PVOut に 1 が書込まれていることを検出した場合、同 CONTROL の PVPriority と PresentValue を取込み、あたかも Present\_Value プロパティに対して PresentValue 値と PVPriority を指定した WriteProperty(Multiple)を受信したように書込み処理を行います。

この場合でも 5-8-2-3 章の動作は発生します。

※BAQ08V のバージョンにより、PVOut による PresentValue 書き込み時において PriorityArray にセットされる値が異なりますので、ご注意ください。

バージョン	処理内容
2.1.6 まで	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれ、その Priority より優先度の高い PriorityArray の値はすべて NULL にセットされます。
2.1.7 以降	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれるのみで、他の Priority の値は変化しません。

(例)PVOut を使用して Priority=8 に値を書き込んだ場合、Ver2.1.6 までは Priority9~16 はそのままの値を保持し、Priority1~7 はすべて NULL に書き換わります。Ver2.1.7 以降は Priority9~16 も Priority1~7 もそのままの値を保持します。

#### 5-8-2-5 その他の動作

BACnet オブジェクトの LimitEnable,EventEnable,StatusFlags,EventState,AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

#### 5-8-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-3 章を参照してください。

## 5-9 Analog Value Object (AV)

### 5-9-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	REAL	R	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	O	R	
Relinquish_Default	REAL	O	R/W	
COV_Increment	REAL	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
High_Limit	REAL	O	R/W	
Low_Limit	REAL	O	R/W	
Deadband	REAL	O	R/W	
Limit_Enable	BitString	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
力率(Power_Factor)	BOOLEAN	EX	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
Value_Is_Output	BOOLEAN	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

### 5-9-2 動作

- (1) 入力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE)  
Analog Input と同じ動作になります。
- (2) 出力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Ountput = TRUE)  
Analog Output と同じ動作になります。

### 5-9-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-3-2E 章を参照してください。

## 5-10 Binary Input Object (BI)

### 5-10-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Enumerated	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Polarity	Enumerated	R	R/W	
Inactive_Text	CharacterString	O	R/W	
Active_Text	CharacterString	O	R/W	
Change_Of_State_Time	BACnetDateTime	O	R	
Change_Of_State_Count	Unsigned	O	R/W	
Time_Of_State_Count_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Elapsed_Active_Time	Unsigned32	O	R/W	
Time_Of_Active_Time_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Value	Enumerated	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

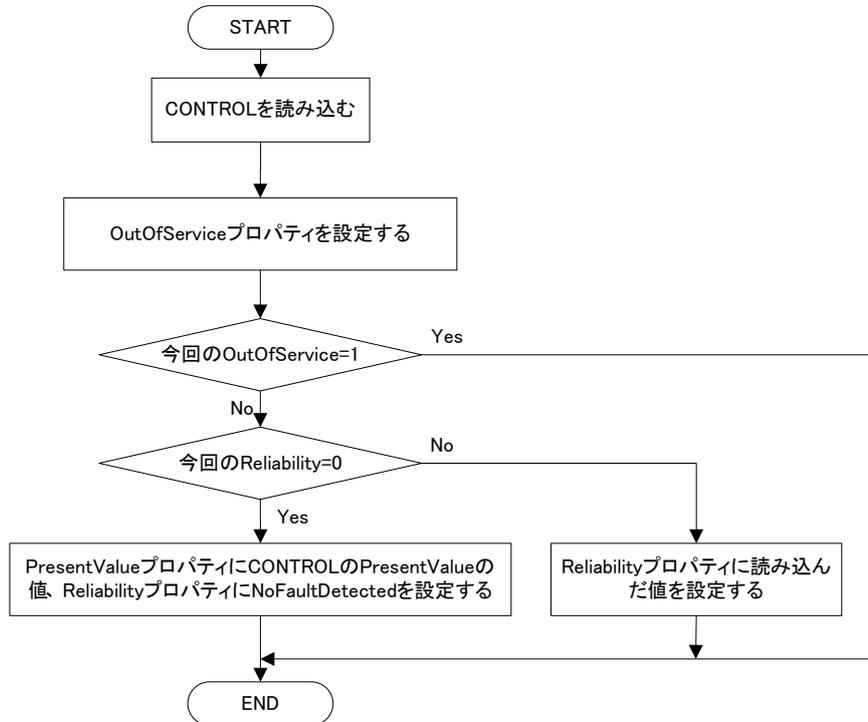
## 5-10-2 本ユニットの動作

### 5-10-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

### 5-10-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-10-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

### 5-10-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-5 章を参照してください。

## 5-11 Binary Output Object(BO)

### 5-11-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Enumerated	W	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Polarity	Enumerated	R	R/W	
Inactive_Text	CharacterString	O	R/W	
Active_Text	CharacterString	O	R/W	
Change_Of_State_Time	BACnetDateTime	O	R	
Change_Of_State_Count	Unsigned	O	R/W	
Time_Of_State_Count_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Elapsed_Active_Time	Unsigned32	O	R/W	
Time_Of_Active_Time_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Minimum_Off_Time	Unsigned32	O	R/W	
Minimum_On_Time	Unsigned32	O	R/W	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	R	R	
Relinquish_Default	Enumerated	R	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Feedback_Value	Enumerated	O	R	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

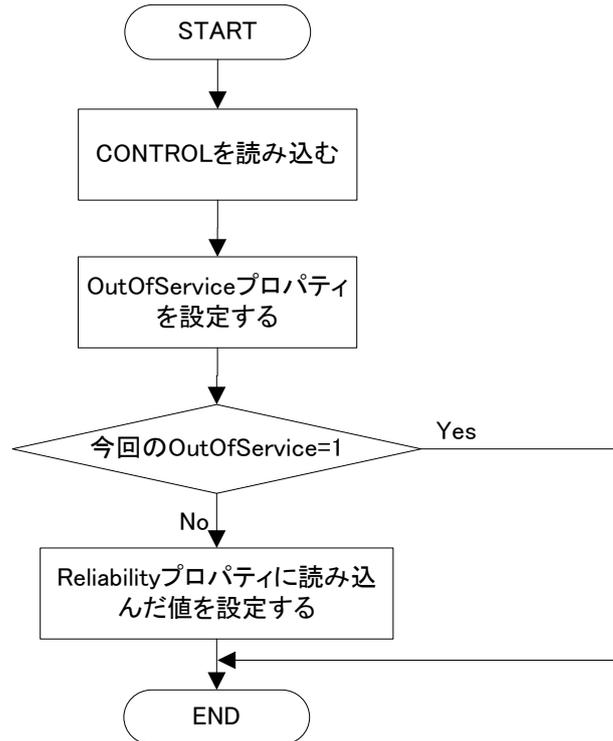
### 5-11-2 本ユニットの動作

#### 5-11-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから PresentValue および STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

### 5-11-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-11-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作

WriteProperty(Multiple)を受信すると、バッファメモリの PresentValue に Present\_Value プロパティ値を書込みます。その後、バッファメモリの STATUS の PVWritten に 1 を書込みます。

STATUS の PVWritten は CONTROL の PVWrittenClear を使用した手順によって 0 に戻す必要があります。

ただし PVWritten および PVWrittenClear がどのような値であっても WriteProperty(Multiple)による Present\_Value への書込みが行われると（例え同じ値だったとしても）PVWritten に 1 を書込みます。

PVWritten および PVWrittenClear の操作手順は 7-3-6 章を参照してください。

### 5-11-2-4 自己書込みの動作

バッファメモリの CONTROL の PVOut に 1 が書込まれていることを検出した場合、同 CONTROL の PVPriority と PresentValue を取込み、あたかも Present\_Value プロパティに対して PresentValue 値と PVPriority を指定した WriteProperty(Multiple)を受信したように書込み処理を行います。

この場合でも 5-11-2-3 章の動作は発生します。

※BAQ08V のバージョンにより、PVOut による PresentValue 書き込み時において PriorityArray にセットされる値が異なりますので、ご注意ください。

バージョン	処理内容
2.1.6 まで	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれ、その Priority より優先度の高い PriorityArray の値はすべて NULL にセットされます。
2.1.7 以降	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれるのみで、他の Priority の値は変化しません。

(例)PVOut を使用して Priority=8 に値を書き込んだ場合、Ver2.1.6 までは Priority9~16 はそのままの値を保持し、Priority1~7 はすべて NULL に書き換わります。Ver2.1.7 以降は Priority9~16 も Priority1~7 もそのままの値を保持します。

### 5-11-2-5 その他の動作

BACnet オブジェクトの EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

### 5-11-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-6 章を参照してください。

## 5-12 Binary Value Object (BV)

### 5-12-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Enumerated	R	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Inactive_Text	CharacterString	O	R/W	
Active_Text	CharacterString	O	R/W	
Change_Of_State_Time	BACnetDateTime	O	R	
Change_Of_State_Count	Unsigned32	O	R/W	
Time_Of_State_Count_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Elapsed_Active_Time	Unsigned32	O	R/W	
Time_Of_Active_Time_Reset	BACnetDateTime	O	R	
Minimum_Off_Time	Unsigned32	O	R/W	
Minimum_On_Time	Unsigned32	O	R/W	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	O	R	
Relinquish_Default	Enumerated	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Value	Enumerated	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
Value_Is_Output	BOOLEAN	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

### 5-12-2 動作

- (1) 入力用として設定された場合(独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE)  
Binary Input と同じ動作になります。
- (2) 出力用として設定された場合(独自プロパティ Value\_Is\_Ountput = TRUE)  
Binary Output と同じ動作になります。

### 5-12-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-6-2E 章を参照してください。

## 5-13 Calendar Object (CA)

### 5-13-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Present_Value	BOOLEAN	R	R	
Date_List	ListofBACnetCalendarEntry	R	R/W	
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	

### 5-13-2 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-8 章を参照してください。

## 5-14 Device Object (DV)

### 5-14-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R	
Object_Type	Enumerated	R	R	
System_Status	Enumerated	R	R	
Vendor_Name	CharacterString	R	R	
Vendor_Identifier	Unsigned16	R	R	
Model_Name	CharacterString	R	R	
Firmware_Revision	CharacterString	R	R	
Application_Software_Version	CharacterString	R	R	
Location	CharacterString	O	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Protocol_Version	Unsigned	R	R	
Protocol_Revision	Unsigned	R	R	
Protocol_Services_Supported	BitString	R	R	
Protocol_Object_Types_Supported	BitString	R	R	
Object_List	BACnetARRAY[N]ofBACnetObjectIdentifier	R	R	
Max_APDU_Length_Accepted	Unsigned	R	R	
Segmentation_Supported	Enumerated	R	R	
Max_Segments_Accepted	Unsigned	O	R/W	
VT_Classes_Supported	ListofBACnetVTClass	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 まで
Active_VT_Sessions	ListofBACnetVTSession	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 まで
Local_Time	Time	O	R	
Local_Date	Date	O	R	
UTC_Offset	INTEGER	O	R/W	
Daylight_Savings_Status	BOOLEAN	O	R	
APDU_Segment_Timeout	Unsigned	O	R/W	
APDU_Timeout	Unsigned	R	R/W	
Number_Of_APDU_Retries	Unsigned	R	R/W	
List_Of_Session_Keys	ListofBACnetSessionKey	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 まで
Time_Synchronization_Recipients	ListofBACnetRecipient	O	R/W	
Max_Master	Unsigned(1..127)	O	R/W	
Max_Info_Frames	Unsigned	O	R/W	
Device_Address_Binding	ListofBACnetAddressBinding	R	R	
Database_Revision	Unsigned	R	R	
Configuration_Files	BACnetARRAY[N]ofBACnetObjectIdentifier	O	R	
Last_Restore_Time	BACnetDateTime	O	R	
Backup_Failure_Timeout	Unsigned16	O	R/W	
Backup_Preparation_Time	Unsigned16	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Restore_Preparation_Time	Unsigned16	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Restore_Completion_Time	Unsigned16	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Backup_And_Restore_State	Enumerated	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Active_COV_Subscriptions	ListofBACnetCOVSubscription	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Last_Restart_Reason	Enumerated	O	R/W	
Time_Of_Device_Restart	BACnetTimeStamp	O	R/W	
Restart_Notification_Recipients	ListofBACnetRecipient	O	R/W	
UTC_Time_Synchronization_Recipients	ListofBACnetRecipient	O	R/W	

Time_Synchronization_Interval	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Align_Intervals	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Interval_Offset	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	

※上表の順序等は BACnet2010 基準

#### 5-14-2 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-9 章を参照してください。

## 5-15 Multi-state Input Object (MI)

### 5-15-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Number_Of_States	Unsigned	R	R/W	最大 50 まで設定可能
State_Text	BACnetARRAY[N]ofCharacterString	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Values	ListofUnsigned	O	R/W	
Fault_Values	ListofUnsigned	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

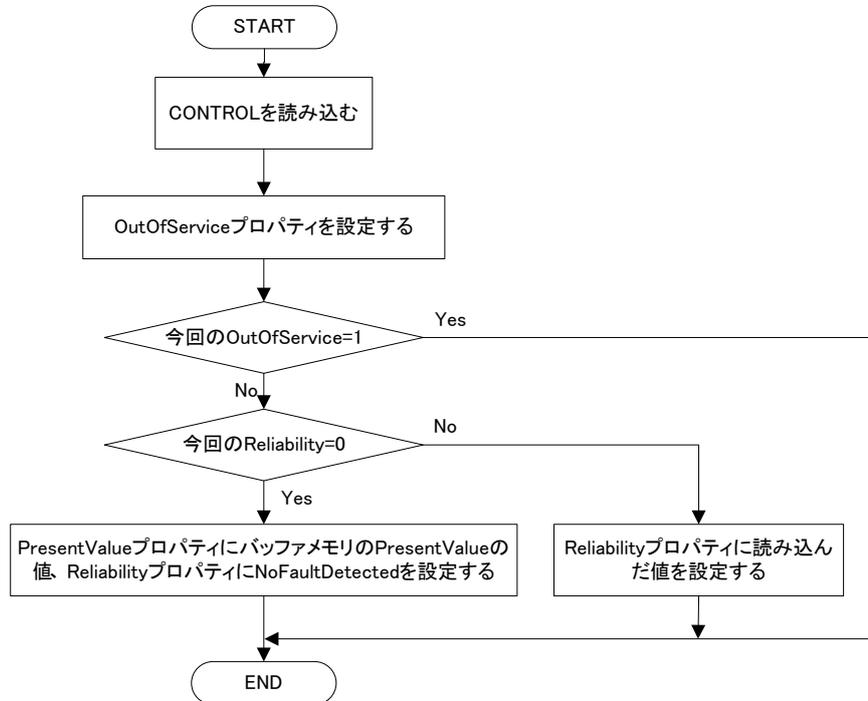
## 5-15-2 本ユニットの動作

### 5-15-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

### 5-15-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-15-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

### 5-15-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-10 章を参照してください。

## 5-16 Multi-state Output Object (MO)

### 5-16-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned	W	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Number_Of_States	Unsigned	R	R/W	最大 50 まで設定可能
State_Text	BACnetARRAY[N]ofCharacterString	O	R/W	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	R	R	
Relinquish_Default	Unsigned	R	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Feedback_Value	Unsigned	O	R	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

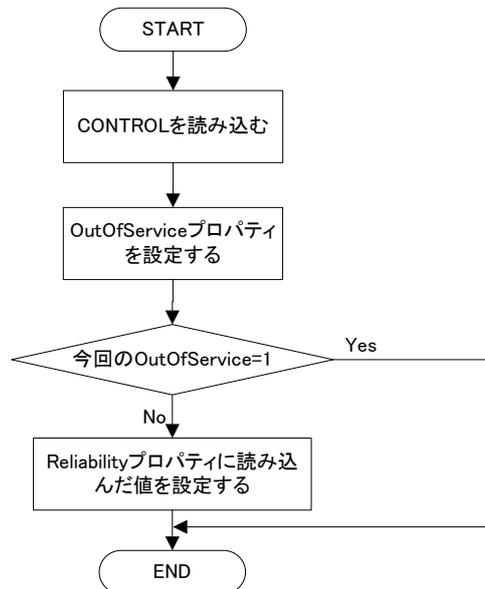
### 5-16-2 本ユニットの動作

#### 5-16-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから PresentValue および STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

#### 5-16-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-16-2-3 WriteProperty(Multiple)受信時の動作

WriteProperty(Multiple)を受信すると、バッファメモリの PresentValue に Present\_Value プロパティ値を書込みます。その後、バッファメモリの STATUS の PVWritten に 1 を書込みます。

STATUS の PVWritten は CONTROL の PVWrittenClear を使用した手順によって 0 に戻す必要があります。

ただし PVWritten および PVWrittenClear がどのような値であっても WriteProperty(Multiple)による Present\_Value への書込みが行われると（例え同じ値だったとしても）PVWritten に 1 を書込みます。

PVWritten および PVWrittenClear の操作手順は 7-3-11 章を参照してください。

### 5-16-2-1 自己書込みの動作

バッファメモリの CONTROL の PVOut に 1 が書込まれていることを検出した場合、同 CONTROL の PVPriority と PresentValue を取込み、あたかも Present\_Value プロパティに対して PresentValue 値と PVPriority を指定した WriteProperty(Multiple)を受信したように書込み処理を行います。

この場合でも 5-11-2-3 章の動作は発生します。

※BAQ08V のバージョンにより、PVOut による PresentValue 書き込み時において PriorityArray にセットされる値が異なりますので、ご注意ください。

バージョン	処理内容
2.1.6 まで	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれ、その Priority より優先度の高い PriorityArray の値はすべて NULL にセットされます。
2.1.7 以降	書き込み時に指定した Priority に、指定した値が書き込まれるのみで、他の Priority の値は変化しません。

(例)PVOut を使用して Priority=8 に値を書き込んだ場合、Ver2.1.6 までは Priority9~16 はそのままの値を保持し、Priority1~7 はすべて NULL に書き換わります。Ver2.1.7 以降は Priority9~16 も Priority1~7 もそのままの値を保持します。

### 5-16-2-2 その他の動作

BACnet オブジェクトの EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

### 5-16-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-11 章を参照してください。

## 5-17 Multi-state Value Object (MV)

### 5-17-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned	R	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Number_Of_States	Unsigned	R	R/W	最大 50 まで設定可能
State_Text	BACnetARRAY[N]ofCharacterString	O	R/W	
Priority_Array	BACnetPriorityArray	O	R	
Relinquish_Default	Unsigned	O	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Values	ListofUnsigned	O	R/W	
Fault_Values	ListofUnsigned	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
Value_Is_Output	BOOLEAN	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

### 5-17-2 動作

(1) 入力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE)

Multi-state Input と同じ動作になります。

(2) 出力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Ountput = TRUE)

Multi-state Output と同じ動作になります。

### 5-17-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-11-1E 章を参照してください。

## 5-18 Notification Class Object (NC)

### 5-18-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Notification_Class	Unsigned	R	R	
Priority	BACnetARRAY[3]ofUnsigned	R	R/W	
Ack_Required	BitString	R	R	
Recipient_List	ListofBACnetDestination	R	R/W	
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	

### 5-18-2 バッファメモリ

本オブジェクトはバッファメモリを使用しません。Notification Class オブジェクトのプロパティは本ユニット内部に実装されています。外部の BACnet デバイスは BACnet サービスを用いて Notification Class オブジェクトのプロパティの読み書きができます。

## 5-19 Schedule Object (SC)

### 5-19-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Any	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Effective_Period	BACnetDateRange	R	R/W	
Weekly_Schedule	BACnetARRAY[7]ofBACnetDailySchedule	O	R/W	
Exception_Schedule	BACnetARRAY[N]ofBACnetSpecialEvent	O	R/W	
Schedule_Default	Any	R	R/W	
List_Of_Object_Property_References	ListofBACnetDeviceObjectPropertyReference	R	R/W	
Priority_For_Writing	Unsigned(1..16)	R	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Reliability	BACnetReliability	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 以降
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Schedule_Output_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	Y03 デバイスに同期
Schedule_Expand	BOOLEAN	EX	R/W	
Schedule_Default_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	

### 5-19-2 バッファメモリ

本オブジェクトはバッファメモリを使用しません。Schedule オブジェクトのプロパティは本ユニット内部に実装されています。外部の BACnet デバイスは BACnet サービスを用いて Schedule オブジェクトのプロパティの読み書きができます。

### 5-19-3 出力信号によるプロパティ制御

Schedule\_Output\_Disable プロパティは Y03 デバイスの ON/OFF 変化により、対応する TRUE/FALSE 値に変更されます。ただし、Y03 デバイスが変化しない限り BACnet サービスや Web コンフィギュレーションによるプロパティの変更が維持されます。シーケンスプログラムからの制御を意図しない場合、Y03 デバイスを不要なタイミングで変化させることが無いようにしてください。

## 5-20 Trend Log Object (TL)

### 5-20-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Description	CharacterString	O	R/W	
Enable	BOOLEAN	W	R/W	
Start_Time	BACnetDateTime	O	R/W	
Stop_Time	BACnetDateTime	O	R/W	
Log_DeviceObjectProperty	BACnetDeviceObjectPropertyReference	O	R/W	
Log_Interval	Unsigned	O	R/W	
COV_Resubscription_Interval	Unsigned	O	R	
Client_COV_Increment	BACnetClientCOV	O	R/W	
Stop_When_Full	BOOLEAN	R	R	
Buffer_Size	Unsigned32	R	R	
Log_Buffer	ListofBACnetLogRecord	R	R	
Record_Count	Unsigned32	W	R/W	
Total_Record_Count	Unsigned32	R	R	
Notification_Threshold	Unsigned32	O	R/W	
Records_Since_Notification	Unsigned32	O	R/W	
Last_Notify_Record	Unsigned32	O	R	
Previous_Notify_Time	BACnetDateTime	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 まで
Current_Notify_Time	BACnetDateTime	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 まで
Event_State	Enumerated	R	R	
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetARRAY[3]ofBACnetTimeStamp	O	R	
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	
Logging_Type	Enumerated	R	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Align_Intervals	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Interval_Offset	Unsigned	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Trigger	BOOLEAN	O	R/W	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Status_Flags	BitString	R	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降
Reliability	Enumerated	O	R	ANSI/ASHRAE Standard 135-2010 以降

## 5-20-2 バッファメモリ

本オブジェクトはバッファメモリを使用しません。Trend Log オブジェクトのプロパティは本ユニット内部に実装されています。外部の BACnet デバイスは BACnet サービスを用いて Trend Log オブジェクトのプロパティの読み書きができます。

## 5-21 計量 Object

### 5-21-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned	W	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Device_Type	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
最大カウント値	符号無し整数	O	R/W	
重み	実数	O	R/W	
リセット初期値	符号無し整数	O	R/W	
リセット直前値	符号無し整数	O	R/W	
リセット時刻	BACnetDateTime	O	R/W	
上限監視積算時間	符号無し整数	R	R/W	
Notification_Class	Unsigned	R	R/W	
上限値	符号無し整数	O	R/W	
Limit_Enable	BitString	O	R/W	
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R/W	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
時系列データリスト	ListOfHistoricalData	R	R/W	
時系列データ最新更新時刻	BACnetDateTime	R	R	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

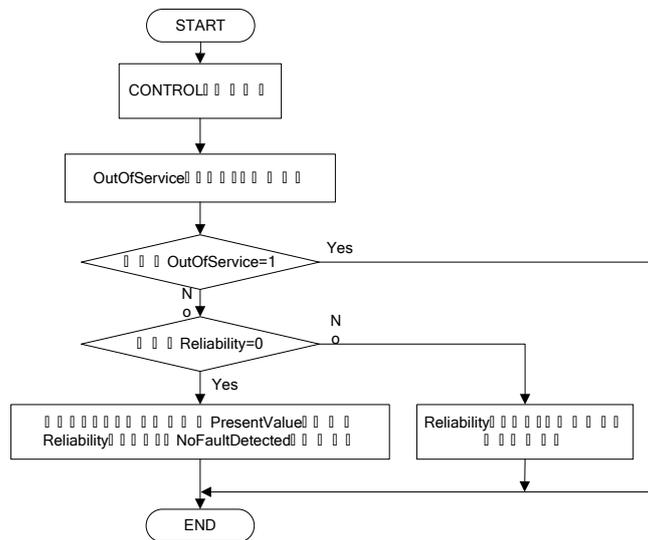
### 5-21-2 本ユニットの動作

#### 5-21-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティから STATUS を作成しバッファメモリに書込みます。

#### 5-21-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-21-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの **LimitEnable, EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions** の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

### 5-21-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-13 章を参照してください。

## 5-22 電力デマンド監視 Object

### 5-22-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned(1...3)	R	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 は(0~2)
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Values	List of Unsigned	O	R/W	
Fault_Values	List of Unsigned	O	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R/W	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetTimeStamp	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Start_Time_Of_Monitoring (監視開始時分)	Time	R	R/W	
警報ロック時間	符号無し整数(0~30)	R	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
Contract_Reciving_Power (契約電力)	Real	W	R/W	
Target_Value_Of_Power (目標電力)	Real	W	R/W	
Alarm_Value_Of_Power (警報電力)	Real	W	R/W	
Units	Enumerated	R	R/W	
Elapsed_Time (経過時間)	Unsigned(1...30)	R	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a は(0...30)
Consumed_WH_In_This_Term (今回周期の使用電力量)	BACnetARRAY[30] of ListOfWHData	R	R/W	
Estimated_Power (予測電力量)	Real	R	R/W	
Adjust_Power (調整電力量)	Real	R	R/W	
Consumed_WH_In_Last_Term (前回周期の使用電力量)	BACnetARRAY[30] of ListOfWHData	R	R/W	
傾向時間間隔	符号無し整数(0~2)	R	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
List_Of_Pulse_Counter_Reference	SEQUENCE Of BACnetDeviceObjectPropertyReference	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	

Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

日本語のプロパティ名称は IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a のものです。

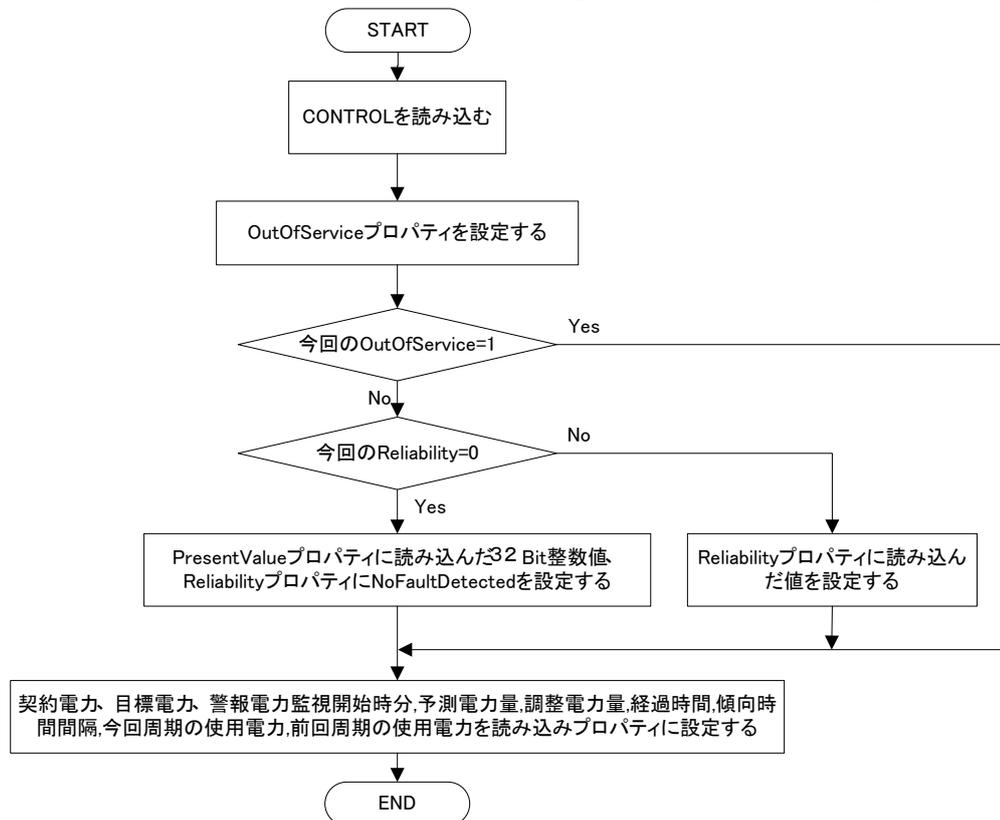
## 5-22-2 本ユニットの動作

### 5-22-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティ情報をバッファメモリに書込みます。

### 5-22-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-22-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions の情報は 16Bit の STATUS としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

また契約電力、目標電力、警報電力、監視開始時分、予測電力量、調整電力量、経過時間、傾向時間間隔、今回周期の使用電力、前回周期の使用電力量のプロパティ値に変化があった場合その値をバッファメモリに書込みます。

### 5-22-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-14 章を参照してください。

## 5-23 電力デマンド制御 Object

### 5-23-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	BACnetObjectType	R	R	
Present_Value	Unsigned(1...16)	R	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a は(0~15)
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Notification_Class	Unsigned	R	R/W	
Alarm_Values	List of Unsigned	O	R/W	
Fault_Values	List of Unsigned	O	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R/W	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetTimeStamp	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Priority_For_Writing (書き込み優先順位)	Unsigned(1...16)	R	R/W	
Level_Value (レベル設定電力)	BACnetARRAY[16] of Real	O	R/W	
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

日本語のプロパティ名称は IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a のものです。

Level\_Value (レベル設定電力) の Property 番号は 570 です。

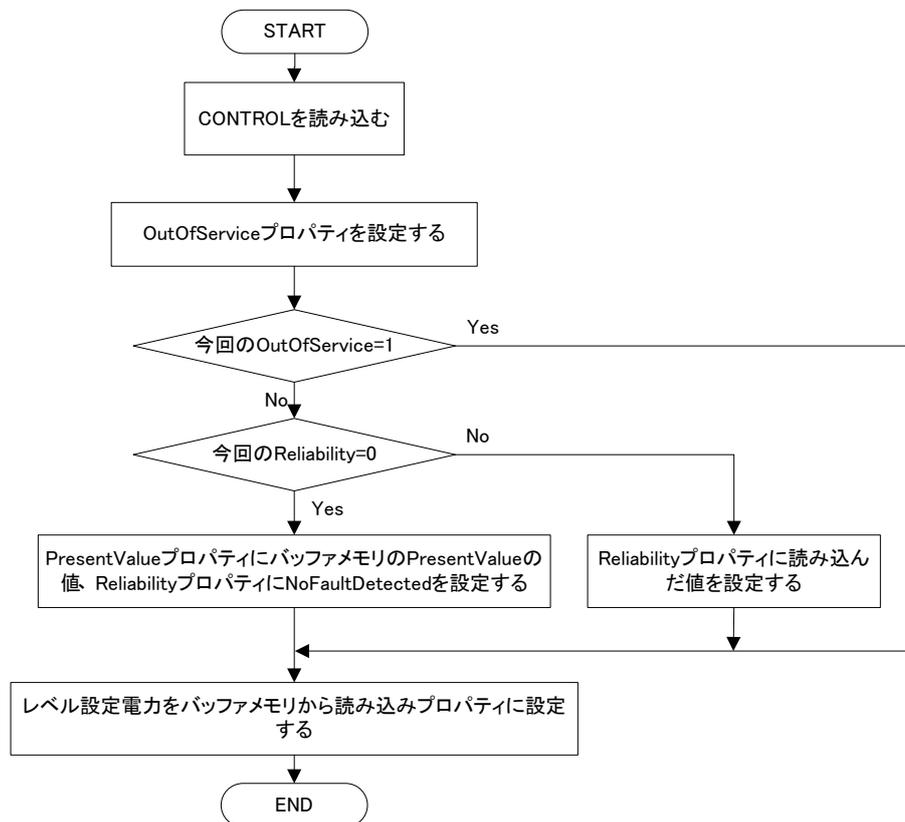
### 5-23-2 本ユニットの動作

#### 5-23-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティ情報をバッファメモリに書込みます。

#### 5-23-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-23-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの **EventEnable, StatusFlags, EventState, AckedTransitions** の情報は 16Bit の **STATUS** としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。また、レベル設定電力のプロパティ値に変化があった場合その値をバッファメモリに書込みます。

### 5-23-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-15 章を参照してください。

## 5-24 発電機負荷制御 Object

### 5-24-1 BACnet プロパティ

下表にサポートしているプロパティの一覧を示します。ここで R/W とは外部から BACnetService を使用して Read または Write 可能か否かを示しています。(R:Read のみ、W:Write のみ、R/W:Read/Write とともに可能)

適合の EX はユニテック独自プロパティであることを示します。

プロパティは Web 画面からの設定で下表の R/W に加え (1) Read 禁止 (2) Write 禁止 (3) 不使用を設定できます。

PROPERTY IDENTIFIER	APPLICATION DATA TYPE	適合	R/W	備考
Object_Identifier	BACnetObjectIdentifier	R	R	
Object_Name	CharacterString	R	R/W	
Object_Type	Enumerated	R	R	
Present_Value	Unsigned(1...16)	R	R/W	
Description	CharacterString	O	R/W	
Status_Flags	BitString	R	R	
Event_State	Enumerated	R	R	
Reliability	Enumerated	O	R	
Out_Of_Service	BOOLEAN	R	R/W	
Time_Delay	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Notification_Class	Unsigned	O	R/W	
Alarm_Values	List of Unsigned	O	R/W	
Fault_Values	List of Unsigned	O	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
Event_Enable	BitString	O	R/W	
Acked_Transitions	BitString	O	R/W	
Notify_Type	Enumerated	O	R/W	
Event_Time_Stamps	BACnetTimeStamp	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Event_Message_Texts	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Message_Texts_Config	BACnetARRAY[3] of CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Detection_Enable	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Event_Algorithm_Inhibit	BOOLEAN	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Time_Delay_Normal	Unsigned	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Property_List	BACnetARRAY[N] of BACnetPropertyIdentifier	R	R	IEIEJ-G-0006:2017 以降
Profile_Name	CharacterString	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Priority_For_Writing	Unsigned(1...16)	R	R/W	
Target_Value_To_Supply (発電機目標電力)	Real	R	R/W	
Adjust_Value_Of_Load (発電機調整電力)	Real	R	R/W	
レベル設定電力	ListOfLevelValue	W	R/W	IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a まで
Level_Value	BACnetARRAY[16] of Real	O	R/W	IEIEJ-G-0006:2006 アデンダム a 以降
Intrinsic_Event_Disable	BOOLEAN	EX	R/W	
Unsolicited_COV	Enumerated	EX	R/W	
COV_Send_Interval	Unsigned	EX	R/W	

日本語のプロパティ名称は IEIEJ-P-0003:2000 アデンダム a のものです。

レベル設定電力の Property 番号は 578、Level\_Value の Property 番号は 570 です。

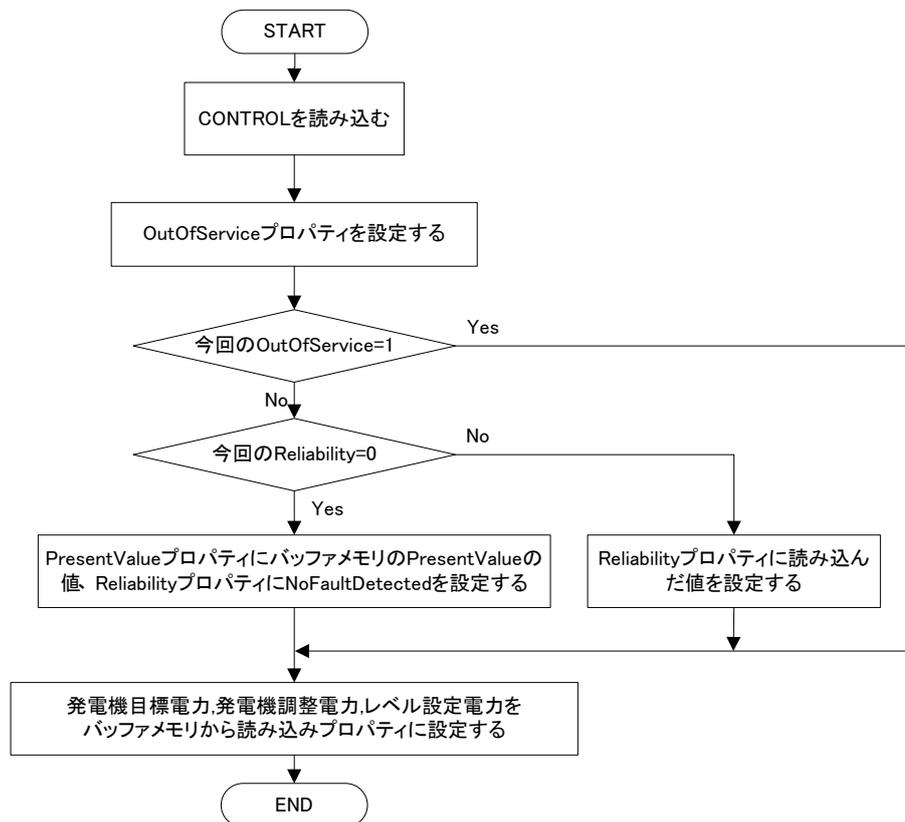
### 5-24-2 本ユニットの動作

#### 5-24-2-1 起動時の動作

本ユニットは起動時に前回終了時の BACnet オブジェクトのプロパティ情報をバッファメモリに書込みます。

#### 5-24-2-2 周期動作

定期的にバッファメモリの CONTROL を読み込み下記処理を行います。



### 5-24-2-3 その他の動作

BACnet オブジェクトの `EventEnable`, `StatusFlags`, `EventState`, `AckedTransitions` の情報は 16Bit の `STATUS` としてまとめられ、本ユニットはそれらの値が変化したときにバッファメモリに書込みます。

また、発電機目標電力,発電機調整電力,レベル設定電力のプロパティ値に変化があった場合その値をバッファメモリに書込みます。

### 5-24-3 バッファメモリ

本オブジェクトはシーケンスプログラムより制御することができます。詳細は 7-3-16 章を参照してください。

## 6 BACnet 関係

本ユニットは他デバイスのプロパティ値の読み込み/書き込みを行い、関係動作を実現する関係機能をサポートします。本章では、本ユニットの動作について説明します。

バッファメモリの定義およびシーケンスプログラムの動作については7章を参照してください。

### 6-1 BACnet リクエスト

#### 6-1-1 概要

本ユニットは自身の BACnet オブジェクトのプロパティの他に、自身以外の BACnetDevice の持つ BACnet オブジェクトのプロパティを読み書きすることができます。ただし、すべてのプロパティではなく下記に示す Primitive Data のみとなります。

Primitive Data	制約
Null	
Boolean	
UnsignedInteger	
SignedInteger	
Real	
Double	サポートしていません
OctetString	サポートしていません
CharacterString	サポートしていません
BitString	24ビットまで
Enumerated	
Date	
Time	
ObjectIdentifier	

バッファメモリに Read 用の BACnet データアクセスブロック（以下、BDABR と呼称）と Write 用の BACnet データアクセスブロック（以下、BDABW と呼称）を複数定義することができます。

## 6-1-2 BACnet オブジェクトのプロパティの読み込み

### 6-1-2-1 概要

シーケンスプログラムは、バッファメモリ上で定義された BDABR に読み込み対象の Device の Instance 番号と BACnet オブジェクトの ObjectIdentifier と最大 4 個までの PropertyIdentifier と ArrayIndex を書き込み、最後に BDABR の CONTROL に 1 を書き込むことで BACnet デバイス（自身も含めて）の BACnet オブジェクトのプロパティ値を読み込むことができます。この BDABR は複数割りつけることができます。

読み込みは原則として ReadPropertyMultiple が使用されます。ただし ReadPropertyMultiple に対して送信先 BACnet デバイスから Reject(unrecognized-service) 応答があった場合や送信先デバイスが ReadPropertyMultiple をサポートしていないと判断した場合に、以降は複数の ReadProperty に分割して再送します。これにより ReadPropertyMultiple をサポートしていないデバイスにも適用することができます。

### 6-1-2-2 本ユニットの起動時の動作

本ユニットは起動時に BDABR を 0 で初期化します。

### 6-1-2-3 本ユニットの周期動作

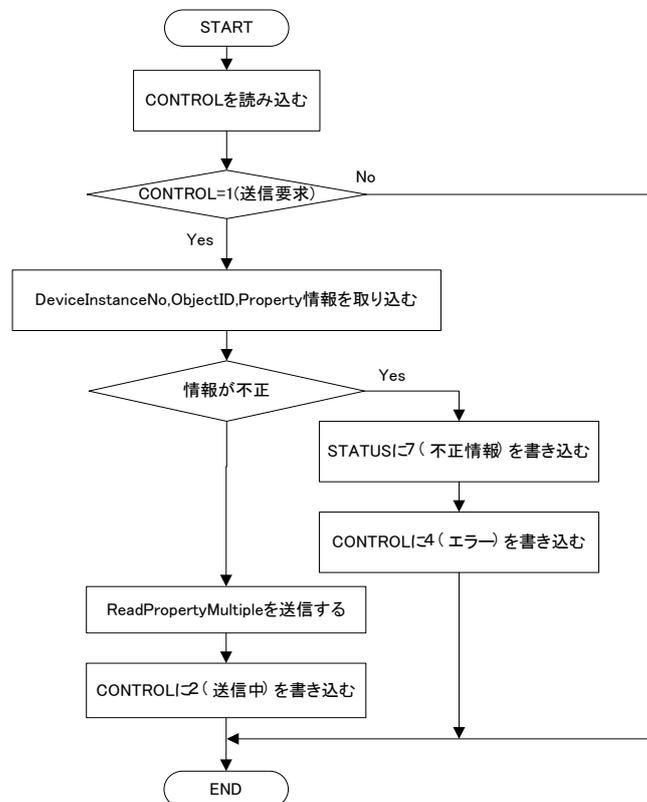
本ユニットはバッファメモリ読み込み時、CONTROL が 1 (=送信要求) 以外の場合、これ以上の動作は行いません。CONTROL が 1 (=送信要求) ならば DeviceInstanceNo が示すデバイスに対して ObjectIdentifier,PropertyIdentifier,ArrayIndex が示すプロパティ値を読み込む ReadProperty(Multiple) を送信します。このとき、CONTROL に 2 (=送信中) を書き込みます。

もし、DeviceInstanceNo, ObjectIdentifier, PropertyIdentifier, ArrayIndex に不正な値が書込まれていた場合、読み込み動作を行わず、CONTROL に 4 (=エラー終了) を書き込み、STATUS に 7 (=不正情報) を書き込みます。

対象デバイスからの ReadProperty(Multiple) に対する返信 (ComplexAck) を受信すると BDABR に読んだデータを書き込み、BDABR の CONTROL に 3 (正常終了) を書き込みます。

相手からエラー応答 (Error, Reject, Abort) が戻ってくるか、リトライオーバーすると、BDABR の STATUS にエラー情報を書き込み、その後に CONTROL に 4 (エラー終了) を書き込みます。

ただし ReadPropertyMultiple を発行し相手から Reject(unrecognized-service) が戻された場合に限り、ReadProperty に変更して再度送信します。



## 6-1-3 BACnet オブジェクトのプロパティの書込み

### 6-1-3-1 概要

シーケンスプログラムは、バッファメモリ上で定義された BDABW に書き込み対象の Device の Instance 番号と BACnet オブジェクトの ObjectIdentifier と最大 4 個までの PropertyIdentifier と ArrayIndex および出力データを書込み、最後に BDABW の CONTROL に 1 を書込むことで BACnet デバイス（自身も含めて）の BACnet オブジェクトのプロパティに書き込みを行うことができます。この BDABW は複数割りつけることができます。

書き込みは原則として WritePropertyMultiple が使用されます。ただし WritePropertyMultiple に対して送信先 BACnet デバイスから Reject(unrecognized-service) 応答があった場合や送信先デバイスが WritePropertyMultiple をサポートしていないと判断した場合に、以降は複数の WriteProperty に分割して再送します。これにより WritePropertyMultiple をサポートしていないデバイスにも適用することができます。

### 6-1-3-2 本ユニットの起動時の動作

本ユニットは起動時に BDABW を 0 で初期化します。

### 6-1-3-3 本ユニットの周期動作

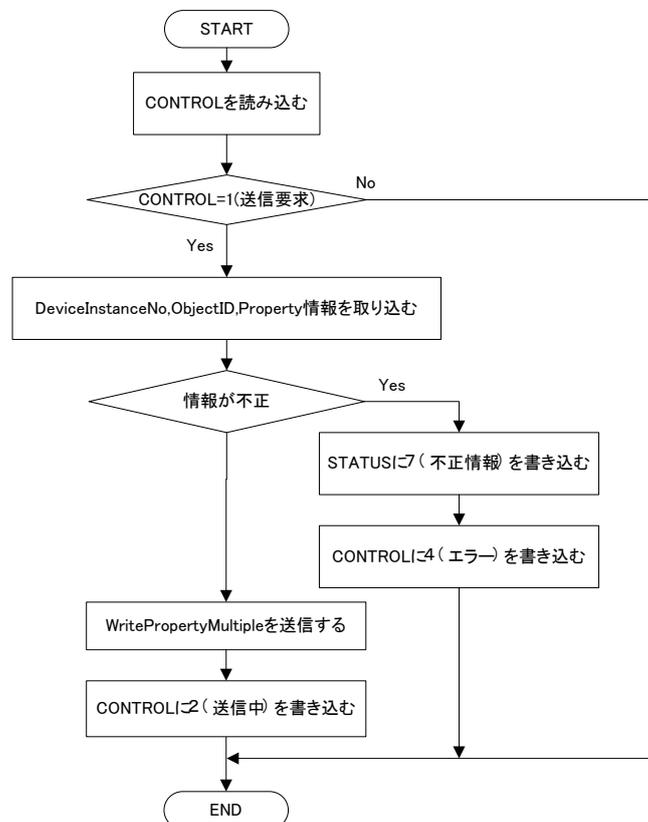
本ユニットはバッファメモリ読み込み時、BDABW の CONTROL が 1 (=送信要求) 以外の場合、これ以上の動作は行いません。CONTROL が 1 (=送信要求) ならば DeviceInstanceNo が示すデバイスに対して ObjectIdentifier, PropertyIdentifier, ArrayIndex, 出力データが示すプロパティ値を書込む WriteProperty(Multiple) を送信します。このとき、CONTROL に 2 (=送信中) を書込みます。

もし、DeviceInstanceNo, ObjectIdentifier, PropertyIdentifier, ArrayIndex, 出力データに不正な値が書込まれていた場合、書き込み動作を行わず、CONTROL に 4 (=エラー終了) を書込み、STATUS に 7 (=不正情報) を書込みます。

対象デバイスからの WriteProperty(Multiple) に対する返信 (SimpleAck) を受信すると BDABW の CONTROL に 3 (=正常終了) を書込みます。

相手からエラー応答 (Error, Reject, Abort) が戻ってくるか、リトライオーバーすると、BDABW の STATUS にエラー情報を書込み、その後に CONTROL に 4 (エラー終了) を書込みます

ただし WritePropertyMultiple を発行し相手から Reject(unrecognized-service) が戻された場合に限り、WriteProperty に変更して再度送信します。



## 6-2 BACnet モニタ

### 6-2-1 概要

監視したい BACnet デバイス (QBus ユニット自身および外部の BACnet デバイス) の BACnet オブジェクトのプロパティの値を格納するための領域を、バッファメモリ上に複数設定することができます。登録可能なプロパティは、QBus データブロック (以下、QDTB と呼称) で定義可能なものに限りです。

この QBus 監視データブロック (以下、QDMONB と呼称) には収集周期が設定できます。本ユニットは設定された周期で ReadProperty(Multiple) を発行し、受信したデータを QDTB フォーマットに変換しバッファメモリに書込みます。

詳細設定の RecDataOverwriteMonitor が 0 に設定されている場合、QDMONB の CONTROL が 0 (=アイドル) ならば本ユニットは QDTB に受信データを書込み、CONTROL に 1 (=正常終了) または 2 (=エラー終了) を書込みます。CONTROL が 0 (=アイドル) でない場合、本ユニットはデータの書込みは行わず、受信したデータを破棄します。また、詳細設定の RecDataOverwriteMonitor が 1 に設定されている場合、QDMONB の CONTROL の値に関係なく、本ユニットは QDTB に受信データを書込み、CONTROL に 1 (=正常終了) または 2 (=エラー終了) を書込みます。

QDMONB は後記する COV,Event を受信した場合もバッファメモリの値を更新することができます。\*1

\*1 詳細設定 MonitorDataSetByCOV および MonitorDataSetByEvent を 1 に設定した場合に限りです。

### 6-2-2 本ユニットの起動時の動作

本ユニットは起動時に QDMONB を 0 で初期化します。

### 6-2-3 本ユニットの周期動作

本ユニットは設定された周期で ReadProperty(Multiple) を発行し、監視対象の対象プロパティ値の収集を行います。

監視対象からの応答を受信した時、QDMONB の CONTROL を確認します。0 (=アイドル) 以外の場合、受信したデータを破棄します。

CONTROL が 0 (=アイドル) の場合、受信した応答が正常応答 (ComplexAck) ならば QDTB に受信データを書込み、CONTROL に 1 (=データ受信) を書込みます。

エラー応答や無応答などにより、正常な応答が得られなかった場合、QDTB への書込みは行わず、CONTROL に 2 (=エラー終了) を書込み、STATUS にエラー情報を書込みます。STATUS に格納されるエラー情報の詳細は「7-1-4-5 関係機能のエラーコード」を参照してください。

※BACnetDevice 一覧に登録されていないデバイス (一度も I-Am を受信していないデバイスまたは手動登録していないデバイス) に対して、モニタ機能でポーリングを実行した場合、BAQ08V のバージョンにより、CONTROL 領域への書き込み処理が変わりますのでご注意ください。

バージョン	処理内容
2.1.6 まで	COTROL 領域に 2 (=エラー終了) が書かれず、0 (=アイドル) のままとなります。
2.1.7 以降	COTROL 領域に 2 (=エラー終了) が書き込まれ、STATUS に 13 (=NoDevice) が書き込まれます。

## 6-3 COV 関係

### 6-3-1 概要

指定した BACnet デバイスが送信してきた COV (ConfirmedCOVNotification と UnconfirmedCOVNotification) を受信すると、そこに含まれる情報をバッファメモリに出力します。COV を受信した場合、設定に応じて次の 2 つの動作を行うことができます。

- (1) COV 受信領域への書込み
- (2) データ監視関係

### 6-3-2 COV 受信領域書込み

COV 関係機能の設定により、受信した COV 情報を格納する領域(以下、QCOVB と呼称)をバッファメモリ上に複数定義することができます。この設定は対象とする BACnet デバイスの InstanceNo と BACnet オブジェクトを指定し、QCOVB はこの情報が関連付けられます。

関連付けされた BACnet オブジェクトからの COV を受信すると、詳細設定の RecDataOverwriteCOVLink が 0 に設定されている場合、CONTROL が 0 ならば受信した情報を QCOVB に書込み、CONTROL に 1 を書込みます。CONTROL が 0 でない場合、受信した情報を破棄します。

詳細設定の RecDataOverwriteCOVLink が 1 に設定されている場合、CONTROL の値に関係なく、受信した情報を QCOVB に書込み、CONTROL に 1 を書込みます。

### 6-3-3 データ監視関係

詳細設定 MonitorDataSetByCOV = 1 の場合、BACnet モニタ機能で指定した BACnet デバイスの InstanceNo、オブジェクトおよびプロパティに該当する COV を受信すると、設定されているプロパティ値を QDMONB に書込みます。

## 6-4 Event 関係

### 6-4-1 概要

指定した BACnet デバイスが送信してきた Event (ConfirmedEventNotification または UnconfirmedEventNotification) を受信すると、そこに含まれる情報をバッファメモリに出力します。Event を受信した場合、設定に応じて次の 2 つの動作を行うことができます。

- (1) Event 受信領域書込み
- (2) データ監視関係

### 6-4-2 Event 受信領域書込み

Event 関係機能の設定により、受信した Event 情報を格納する領域(以下、QEVTB と呼称)をバッファメモリ上に複数定義することができます。この設定は対象とする BACnet デバイスの InstanceNo と BACnet オブジェクトを指定し、QEVTB はこの情報が関連付けられます。

関連付けされた BACnet オブジェクトからの Event を受信すると、詳細設定の RecDataOverwriteEventLink が 0 に設定されている場合、CONTROL が 0 ならば受信した情報を QEVTB に書込み、CONTROL に 1 を書込みます。CONTROL が 0 でない場合、受信した情報を破棄します。

詳細設定の RecDataOverwriteEventLink が 1 に設定されている場合、CONTROL の値に関係なく、受信した情報を QEVTB に書込み、CONTROL に 1 を書込みます。

### 6-4-3 データ監視関係

詳細設定 MonitorDataSetByEvent = 1 の場合、BACnet モニタ機能で指定した BACnet デバイスの InstanceNo、オブジェクトおよびプロパティに該当する Event を受信すると、設定されているプロパティ値を QDMONB に書込みます。

ただし EventParameter に正しい値を設定しない BACnet デバイスも存在する可能性があるため、詳細設定 MonitorDataSetByEvent = 0 にすることでこの動作を行わないようにすることができます。

受信した Event に含まれる情報は、下表のように対応する QDMONB に書込まれます。

受信 Event 中の項目	対応する QDMONB のプロパティ	備考
NotificationClass	NotificationClass	
NotifyType	NotifyType	
ToState	EventState	
StatusFlags	StatusFlags	EventValues 内共通

Event に含まれる EventValues パラメータは EventType 毎にプロパティとの対応付けが決められています。以下に EventType 毎のパラメータと含まれるプロパティの関係を示します。

#### 6-4-3-1 EventType(change-of-state)

このイベントタイプを使用する主なオブジェクトは BI, BV, MI, MV です。

EventValues パラメータ内の情報は new-state により下表のように対応付けされます。

new-state	対応する QDMONB のプロパティ	備考
binary-value	BI, BV の PresentValue	
unsigned-value	MI, MV の PresentValue	

#### 6-4-3-2 EventType(command-failure)

このイベントタイプを使用する主なオブジェクトは BO, MO です。

EventValues パラメータ内の情報は下表のように対応付けされます。

項目	対応する QDMONB のプロパティ	備考
CommandValue	BO, MO の PresentValue	
FeedbackValue	BO, MO の FeedbackValue	

#### 6-4-3-3 EventType(out-of-range)

このイベントタイプを使用する主なオブジェクトは AI, AO, AV です。

EventValues パラメータ内の情報は下表のように対応付けされます。

項目	対応する QDMONB のプロパティ	備考
exceeding-value	AI, AO, AV の PresentValue	
deadband	AI, AO, AV の Deadband	
exceeded-limit	ToState が HighLimit の場合 AI, AO, AV の HighLimit ToState が LowLimit の場合 AI, AO, AV の LowLimit	

## 6-5 Calendar 関係

### 6-5-1 概要

参入処理時にカレンダー情報を共有させるため、Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティの「コピー元」と「コピー先」を設定します。

参入時に動的に読込・書込を行うか、またはあらかじめ、静的に設定を行うかも選択することができます。

静的読込みでは、コピー元 Calendar オブジェクトが属するデバイスインスタンス番号があらかじめ得られている場合に選択し、指定したデバイスに対して直接 Date\_List プロパティを読込みます。

動的読込みは、コピー元 Calendar オブジェクトが属するデバイスが不明な場合に使用し、Who-Has サービスによってコピー元 Calendar オブジェクトが属しているデバイスの探索を行います。探索時の条件は Calendar オブジェクトのオブジェクト ID または Object\_Name を使用することができます。

### 6-5-2 静的読込み

参入処理時、指定デバイスの指定 Calendar オブジェクトの Date\_List プロパティを ReadProperty (Multiple) で読込み、指定された自身の Calendar オブジェクトの Date\_List にセットします。

### 6-5-3 ObjectName を使用した動的読込み

参入処理時、Who-Has サービス (Object\_Name) を発行し、I-Have が返信されてくるのを待ちます。

I-Have を受信すると指定した Object\_Name で示される Calendar オブジェクトを持つ Device と Calendar オブジェクトの ObjectID を確定します。その Device と ObjectID で示される Calendar オブジェクトの DateList を ReadProperty (Multiple) で読込み、指定された自身の Calendar オブジェクトの Date\_List にセットします。

I-Have が受信できなかった場合、Date\_List は更新されません。

### 6-5-4 ObjectID を使用した動的読込み

参入処理時、Who-Has サービス (ObjectID) を発行し、I-Have が返信されてくるのを待ちます。

I-Have を受信すると ObjectID で示される Calendar オブジェクトを持つ Device と ObjectID を確定します。その Device と ObjectID で示される Calendar オブジェクトの DateList を ReadProperty (Multiple) で読込み、指定された自身の Calendar オブジェクトの DateList にセットします。

I-Have が受信できなかった場合、Date\_List は更新されません。

## 7 QBus バッファメモリ

### 7-1 概要

QBus バッファメモリは本ユニットのデータ交換に用いられる 2 ポートメモリです。この 2 ポートメモリは 32K ワード (1 ワードは 16Bit、合計 64KByte) の大きさを持っています。この 32K ワードのバッファメモリの構造を以下に示します。

割付用の領域は BACnet オブジェクト、BACnet リクエスト機能、BACnet モニタ機能、Event 関係機能、COV 関係機能に使用できます。

アドレス	項目	内容	備考
0000h~0003h	バージョン	本ユニットのバージョンを示します。	起動時の初期化完了時のみ出力されます。
0004h	エラーコード	本ユニットが検出したエラーコードが格納されます。	
0005h~000Fh	予備		
0010h~001Fh	DeviceObject	自身の Device オブジェクト用	
0020h~0023h	IP アドレス	コンフィギュレーション機能アクセス用 IP アドレスが格納されます。	IPv4 のみ。 変更した IP アドレスが反映されるには、再起動が必要です。 起動時の初期化完了時のみ出力されます。
0024h~00FFh	予備		
0100h~7FFFh	割付用		

#### 7-1-1 初期処理

起動時、BACnet オブジェクト用、BACnet リクエスト機能用、BACnet モニタ機能用、Event 関係機能用、COV 関係機能用のバッファメモリを 0 クリアします。BACnet オブジェクト用では前回終了時の情報の一部をバッファメモリへ書込みます。

#### 7-1-2 バッファメモリの読み込み

本ユニットは周期的にバッファメモリの値を読み込みます。読み込み周期は以下の項目により変化します。

項目	内容
詳細設定 SleepTime	バッファメモリの読み込み終了から次バッファメモリ読み込み開始までの時間を指定します。
バッファメモリ割り付け量	バッファメモリに割り付けられたオブジェクトや機能が多いほどバッファメモリの読み込み時間が増加します。

詳細設定 SleepTime とバッファメモリ読み込み時間の和がバッファメモリ読み込み周期となります。

SleepTime の間は主に BACnet 処理が行われ、バッファメモリの読み込みは行われません。

バッファメモリ読み込み時にはバッファメモリの読み込み処理が優先で行われ、BACnet 処理は後回しになります。

安定した運用のため SleepTime は 200ms 以上に設定し、ご使用ください。

#### 7-1-3 バッファメモリへの書込み

本ユニットは、バッファメモリに割り付けられている情報の変化を逐次書込みます。バッファメモリへの書込みは以下の場合に行われます。

書込み条件	内容
バッファメモリに割り付けられたプロパティが変化	当該オブジェクトの CONTROL、STATUS または DATA が書込まれます。
BACnet リクエスト、BACnet モニタ機能の応答を受信	当該機能の CONTROL、STATUS および受信情報が書込まれます。
COV/Event 関係機能の該当メッセージを受信	当該機能の CONTROL、STATUS および受信情報が書込まれます。

## 7-1-4 共通項目

### 7-1-4-1 記述ルール

本章の表の R/W 欄において W、R、W/R は以下の意味を持ちます。

項目	シーケンスプログラム	本ユニット
W	Read/Write 可能	Read のみ可能
R	Read のみ可能	Read/Write 可能
R/W	Read/Write 可能	Read/Write 可能

上記は初期化中には適用されません。

### 7-1-4-2 EventState

EventState プロパティの値と内容の関係を以下に示します。

値	内容
0	Normal
1	Fault
2	OffNormal
3	HighLimit
4	LowLimit
5	LifeSafetyAlarm

### 7-1-4-3 Reliability

Reliability プロパティの値と内容の関係を以下に示します。

値	内容
0	NoFaultDetected
1	NoSensor
2	OverRange
3	UnderRange
4	OpenLoop
5	ShortedLoop
6	NoOutput
7	UnreliableOther
8	ProcessError
9	MultiStateFault
10	ConfigurationError
11	(予約)
12	MemberFault
13	CommunicationFailure

### 7-1-4-4 SystemStatus

SystemStatus プロパティの値と内容の関係を以下に示します。

値	内容
0	Operational
1	OperationalReadOnly
2	DownloadRequired
3	DownloadInProgress
4	NonOperational
5	BackupInProgress

#### 7-1-4-5 連係機能のエラーコード

BACnet リクエスト機能および BACnet モニタ機能の STATUS 領域に出力されるエラーコードは以下のようになります。

エラーコード	Web 表示	内容
0	OK	正常
1		ライトデータが不正
2	Error[※]	Error 応答を受信 ※:要因が記載されます。
3	Reject[※]	Reject 応答を受信 ※:要因が記載されます。
4	Abort[※]	Abort 応答を受信 ※:要因が記載されます。
5	RetryOver	Retry オーバーが発生
6	NoOperational	送信先デバイスの状態が異常であると判断し、パケットを送信しなかった
7	DeviceCommunicationDisabled	プロパティ情報が不正
8	ErrorOther	その他のエラー
13	NoDevice	一度も I-Am を受信していない未知のデバイスに対して送信しようとした
14	Unknown MacAddress	DeviceInstanceNo の MacAddress が不明
15	Unknown Network	外部ネットワークへ到達不可
16	APDUSizeOver	受信可能な APDU サイズを超過
17	SegmentCountOver	受信可能なセグメント数を超過
18	WaitingPDUCountOver	応答待ち APDU の数が規定値を超過
20	CannotResolveAddress	BACnet/IPv6 におけるアドレス解決ができなかった

※その他のエラーコードに関しましては、サポート窓口までお問い合わせください。

## 7-2 QBus データブロック(QDTB)

BACnet リクエスト機能、BACnet モニタ機能、COV 関係機能でプロパティ値を表現するために共通して使用するデータブロックです。

割付アドレス	上位バイト	下位バイト	備考
+0	<b>PrimitiveDataType</b>		・BitString は 24 ビットまで ・各オブジェクトの BACnetProperty の Application Data Type と同様のものを指定します(5 章参照) (例)BI の PV 値の場合 Enumerated のため 9 を指定
	<b>値</b>	<b>内容</b>	
	0	Null	
	1	Boolean	
	2	UnsignedInteger	
	3	SignedInteger	
	4	Real	
	5	Double サポートしない	
	6	OctetString サポートしない	
	7	CharacterString サポートしない	
	8	BitString	
	9	Enumerated	
	10	Date	
11	Time		
12	ObjectIdentifier		
+1	<b>PriorityArrayIndex</b>		AO、BO、MO などの PV を WriteProperty する時の Priority を指定します (日本国内では通常 8 を指定する)
+2~3	<b>Data</b> PrimitiveDataType 毎にフォーマットが規定されています		

PrimitiveDataType 毎のフォーマットを以下に示します。

### 7-2-1 Null

割付アドレス	内容
+2~3	未使用

### 7-2-2 Boolean

割付アドレス	内容	
+2	bit15~1	bit0
	0 固定(チェックは行わないこと)	0:False, 1:True
+3	未使用	

### 7-2-3 UnsignedInteger

割付アドレス	内容	
+2	bit15~0	32 ビット符号無し整数
+3	bit31~16	

### 7-2-4 SignedInteger

割付アドレス	内容	
+2	bit15~0	32 ビット符号付き整数
+3	bit31~16	

### 7-2-5 Real

割付アドレス	内容	
+2	bit15~0	32 ビット実数 (単精度浮動小数点数)
+3	bit31~16	

## 7-2-6 BitString

割付 アドレス	bit 位置															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
+2	bit8	bit9	bit10	bit11	bit12	bit13	bit14	bit15	bit0	bit1	bit2	bit3	bit4	bit5	bit6	bit7
+3	有効 Bit 数								bit16	bit17	bit18	bit19	bit20	bit21	bit22	bit23

この Bit 配置は LittleEndian になっていることに注意が必要です。  
 例えば EventEnable は BACnet 規格で下記のように定義されています。

```
BACnetEventTransitionBits ::= BIT STRING {
    to-offnormal      (0),
    to-fault          (1),
    to-normal         (2)
}
```

この情報は QBus メモリ上では to-offnormal が Bit0、to-fault は Bit1、to-normal は Bit2 に配置されます。

## 7-2-7 Enumerated

割付アドレス	内容	
+2	bit15~0	32 ビット符号無し整数
+3	bit31~16	

## 7-2-8 Date

割付アドレス	内容	
	bit15~8	bit7~0
+2	Day	Week
+3	Year-1900	Month

## 7-2-9 Time

割付アドレス	内容	
	bit15~8	bit7~0
+2	Second	Hundredth
+3	Hour	Minute

## 7-2-10 ObjectIdentifier

割付アドレス	内容	
+2		
+3	【bit31~22】 InstanceNo	【bit23~0】 ObjectType

## 7-3 BACnet オブジェクト用フォーマット

### 7-3-1 Accumulator Object (AC)

#### 7-3-1-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合、Bit13 は使用しません。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14	未使用			
	13	PVWrittenClear	※右記参照		
	12-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合、Bit7 は使用しません。PulseDirectInput = 1 の場合、ValueSet プロパティへの書き込み完了時に 1 となります。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	LimitEnable	LowLimitEnable		
	14		HighLimitEnable		
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	PVWritten	※右記参照		
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
2	Fault				
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2~3	<b>パルス入力</b>			W	詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合、割付アドレス+3 は使用しません。
	【詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合】				
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	リセットフラグ			
	14-0	CTA	カウンタ値		
	【詳細設定 PulseDirectInput = 1 の場合】				
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
31-0	PresentValue	32ビット符号無し整数			

#### 7-3-1-2 シーケンスプログラムの動作

##### A 正常時の設定

- パルス入力に値を書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

##### B OutOfService の True 設定

- OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。  
注) OutOfService が 1 のときは Reliability とパルス入力は使用されません。  
注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

##### C OutOfService の True から False への設定

- パルス入力に値を書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。  
注) Reliability が 0 以外ならばパルス入力への書き込みは不要です。  
注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

##### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

### 7-3-1-3 パルスカウンタ

詳細設定 PulseDirectInput によりバッファメモリのパルス入力の扱い方が変化します。

Prescale 処理は詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合にのみ有効です。

Present\_Value は常にパルス入力値の Modulo(Max\_Pres\_Value+1)となります。

#### 【詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合】

バッファメモリのパルス入力値は 15Bit のカウンタ(CTA と略称)である。最上位ビット(Bit15)はリセットフラグです。

#### リセットする場合

シーケンスプログラムがパルスカウンタを途中でリセットする場合、CTA が 0 でリセットフラグが 1 のパルス入力値(8000h のこと)をバッファメモリに書込むことにより実現できます。

その後 CTA が 7FFFh に達するまで、リセットフラグは 1 のままにしておかなければなりません。CTA が 7FFFh に達して 0 に戻る際にリセットフラグを 0 にする必要があります。

本ユニットはパルス入力を読込んだ時、そのリセットフラグにより下記処理を行います。

#### 今回のリセットフラグが 1 の場合

①前回リセットフラグが 0 ならばカウンタが初期化されたものとして今回の CTA を差分値として使用します。

②前回リセットフラグが 1 ならば

(A) 前回の CTA > 今回の CTA

リセットされた後 CTA が 7FFF になる前に再度リセットされたものとして今回の CTA を差分値として使用します。

(B) 前回の CTA ≤ 今回の CTA

差分値 = 今回の CTA - 前回の CTA

#### 今回のリセットフラグが 0 の場合

①前回リセットフラグが 0 ならば通常動作である。

(A) 前回の CTA > 今回の CTA

CTA が 7FFFh に達してまた 0 から開始したため今回値が前回値より小さいこととなります。従って差分値は以下の計算式で求められます。

差分値 = 8000h - 前回の CTA + 今回の CTA

(B) 前回の CTA ≤ 今回の CTA

差分値 = 今回の CTA - 前回の CTA

②前回リセットフラグが 1 ならば 7FFFh に達して 0 に戻ってカウントアップしたためリセットフラグが 0 になったと考えられます。従って差分値は以下の計算式で求められます。

差分値 = 8000h - 前回の CTA + 今回の CTA

#### 【詳細設定 PulseDirectInput = 1 の場合】

バッファメモリのパルス入力値は 32 ビット符号無し整数です。

パルス入力値がそのまま Present\_Value にセットされます。

### 7-3-1-4 起動時の差分値

本ユニット起動時、「前回の CTA」は 0 となります。起動直後は「前回の CTA」が 0 となっていることを考慮して最初の入力を行うように注意してください。

## 7-3-2 Analog Input Object (AI)

### 7-3-2-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容	R/W	備考		
+0	<b>CONTROL</b>	W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。		
	<b>Bit 位置</b>			<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15			OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE
	14-4			未使用	
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>	R			
	<b>Bit 位置</b>			<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15			LimitEnable	LowLimitEnable
	14				HighLimitEnable
	13-11			EventState	
	10			AckedTransition	ToOffnormal
	9				ToFault
	8				ToNormal
	7				
	6			EventEnable	ToOffnormal
	5				ToFault
	4				ToNormal
	3			StatusFlags	InAlarm
2	Fault				
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2~3	<b>PresentValue</b> 16Bit 符号付き整数値または 32Bit 実数	W	デフォルトでは 32Bit 実数として扱われます。 データ変換が設定されている場合は 16Bit 符号付き整数値として扱われます。 16Bit 整数の場合、割付アドレス+3 は使用しません。		

### 7-3-2-2 シーケンスプログラムの動作

#### A 正常時の設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

#### B OutOfService の True 設定

- (1) OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。  
注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。  
注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで（または 1 秒以上）CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

#### C OutOfService の True から False への設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) (2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。  
注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。  
注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで（または 1 秒以上）CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

#### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

## 7-3-3 Analog Output Object (AO)

### 7-3-3-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容	R/W	備考		
+0	<b>CONTROL</b>	W	PVWrittenClear および PVOut は互いにもう一方が OFF の状態で OFF→ON を検出した場合にのみ動作します。  詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。		
	<b>Bit 位置</b>			<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15			OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE
	14			未使用	
	13			PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。
	12			PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると PresentValue を Priority を指定して書込みます。
	11-8			PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用される)
7-4	未使用				
3-0	Reliability				
+1	<b>STATUS</b>	R	STATUS 領域の値をシーケンスプログラムが変更しても本ユニットは変化を認識しません。 このため、STATUS 領域が更新される際には本ユニットが認識している情報を基に書き込みが行われます。特に、PVWritten はライト処理の誤認につながりますので、CONTROL 領域の PVWrittenClear を用いて 0 に変更してください。		
	<b>Bit 位置</b>			<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15			LimitEnable	LowLimitEnable
	14				HighLimitEnable
	13-11			EventState	
	10			AckedTransition	ToOffnormal
	9				ToFault
	8				ToNormal
	7			PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になる。
	6			EventEnable	ToOffnormal
	5				ToFault
	4				ToNormal
	3			StatusFlags	InAlarm
2	Fault				
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2~3	<b>PresentValue</b> 16Bit 符号付き整数または 32Bit 実数	R	デフォルトでは 32Bit 実数として扱われます。 データ変換が設定されている場合は 16Bit 符号付き整数値として扱われます。 16Bit 整数の場合、割付アドレス+3 は使用しません。		

### 7-3-3-2 シーケンスプログラムの動作

#### A 正常時の設定

OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。(既に 0 が書込まれている場合は省略可能です)

#### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

#### C OutOfService の True から False への設定

(1) PresentValue に値を書込みます。

(2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。

注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。

注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

## D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

## E WriteProperty での書込み検出

Present\_Value プロパティに対して WriteProperty(Multiple)による書込みが行われた場合、STATUS の PVWritten に 1 が書込まれます。シーケンスプログラムは STATUS の PVWritten を監視し、1 ならば PresentValue を取り込みます。

シーケンスプログラムは下記の手順で STATUS の PVWritten を 0 に戻すことができます。

- (1) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (2) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (3) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

## F 自己書込みの動作

通常 PresentValue は外部の B-OWS 等からの WriteProperty (Multiple)により書込まれますが、QCPU 自身が PresentValue を変更する場合は下記の手順で操作を行います。

- (1) バッファメモリの PresentValue に書込み値を設定します。
- (2) バッファメモリの CONTROL の PVPriority を書込み時の Priority に設定します。
- (3) バッファメモリの CONTROL の PVOut を 1 に設定します。  
※(2)と(3)は同時に書込み可能ですが、順番を逆にはいけません。
- (4) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 1 になるまで待ちます。
- (5) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (6) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (7) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

PVWritten は他デバイスからの WriteProperty(Multiple)により書込まれた場合にも 1 が書込まれます。従って QCPU による書込みと他デバイスからの書込みが同時に行われた場合、PVWritten は 1 度だけ 1 が書込まれることとなります。

## 7-3-4 Analog Value Object (AV)

### 7-3-4-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	PVWrittenClear および PVOut は互いにもう一方が OFF の状態で OFF→ON を検出した場合にのみ動作します。  詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14	未使用			
	13	PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。		
	12	PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると、PresentValue を Priority を指定して書込みます。		
	11-8	PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用されます)		
	7-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	STATUS 領域の値をシーケンスプログラムが変更しても本ユニットは変化を認識しません。 このため、STATUS 領域が更新される際には本ユニットが認識している情報を基に書き込みが行われます。特に、PVWritten はライト処理の誤認につながりますので、CONTROL 領域の PVWrittenClear を用いて 0 に変更してください。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	LimitEnable	LowLimitEnable		
	14		HighLimitEnable		
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になります。		
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2~3	PresentValue 16Bit 符号付き整数または 32Bit 実数 16Bit 値の場合、割付アドレス+3 の領域は使用されません。			W	入力用の場合のみ QCPU は書込み可能です。

### 7-3-4-2 動作

- (1) 入力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE)  
Analog Input と同じ動作になります。
- (2) 出力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Oupntput = TRUE)  
Analog Output と同じ動作になります。

### 7-3-5 Binary Input Object (BI)

#### 7-3-5-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	詳細設定 OutOfServiceControl=1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	未使用			
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	<b>PresentValue</b>			W	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-1	未使用			
	0	PresentValue	0:Inactive,1:Active		
+3	未使用				

#### 7-3-5-2 シーケンスプログラムの動作

##### A 正常時の設定

- PresentValue に値を書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

##### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

##### C OutOfService の True から False への設定

- PresentValue に値を書込みます。

OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。

注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。

注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

##### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

## 7-3-6 Binary Output Object (BO)

### 7-3-6-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	PVWrittenClear および PVOut は互いにもう一方が OFF の状態で OFF→ON を検出した場合にのみ動作します。  詳細設定 OutOfServiceControl=1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14	未使用			
	13	PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。		
	12	PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると、PresentValue を Priority を指定して書込みます。		
	11-8	PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用されます)		
7-4	未使用				
3-0	Reliability				
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になります。		
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	<b>PresentValue</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-1	未使用			
0	PresentValue	0:Inactive,1:Active			
+3	<b>FeedbackValue</b>			W	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-1	未使用			
0	FeedbackValue	0:Inactive,1:Active			

### 7-3-6-2 シーケンスプログラムの動作

#### A 正常時の設定

OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。(既に 0 が書込まれている場合は省略可能です)

#### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上) CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

#### C OutOfService の True から False への設定

(1) PresentValue に値を書込みます。

(2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。

注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。

注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

#### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

#### E WriteProperty での書込み検出

Present\_Value プロパティに対して WriteProperty(Multiple)による書込みが行われた場合、STATUS の PVWritten に 1 が書込まれます。シーケンスプログラムは STATUS の PVWritten を監視し、1 ならば他の BACnetDevice (自身の場合もありうる) から PresentValue を取り込みます。

シーケンスプログラムは下記の手順で STATUS の PVWritten を 0 に戻すことができます。

- (1) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (2) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (3) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

#### F 自己書込みの動作

通常 PresentValue は外部の B-OWS 等からの WriteProperty (Multiple)により書込まれますが、QCPU 自身が PresentValue を変更する場合は下記の手順で操作を行います。

- (1) バッファメモリの PresentValue に書込み値を設定します。
- (2) バッファメモリの CONTROL の PVPriority を書込み時の Priority に設定します。
- (3) バッファメモリの CONTROL の PVOut を 1 に設定します。  
※(2)と(3)は同時に書込み可能ですが、順番を逆にはいけません。
- (4) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 1 になるまで待ちます。
- (5) バッファメモリの CONTROL の PVOut を「0」に設定します。
- (6) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (7) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (8) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

PVWritten は他デバイスからの WriteProperty(Multiple)により書込まれた場合にも 1 が書込まれます。従って QCPU による書込みと他デバイスからの書込みが同時に行われた場合、PVWritten は 1 度だけ 1 が書込まれることとなります。

## 7-3-7 Binary Value Object (BV)

### 7-3-7-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	PVWrittenClear および PVOut は互いにもう一方が OFF の状態で OFF→ON を検出した場合にのみ動作します。  詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14	未使用			
	13	PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。		
	12	PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると PresentValue を Priority を指定して書込みます。		
	11-8	PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用されます)		
	7-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になります。		
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	<b>PresentValue</b>			R	入力用の場合のみ QCPU は書込み可能
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-1	未使用			
	0	PresentValue	0:Inactive,1:Active		
+3	未使用				

### 7-3-7-2 動作

- (1) 入力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE) Binary Input と同じ動作になります。
- (2) 出力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Ountput = TRUE) Binary Output と同じ動作になります。

## 7-3-8 Calendar Object(CA)

### 7-3-8-1 バッファメモリフォーマット

割付アドレス	内容	R/W	備考	
+0	未使用	—		
+1	STATUS		R	
	Bit 位置	項目		備考
	15	PresentValue		0:False,1:True
14-0	未使用			

バッファメモリの割り当てを 32Bit 境界とするため先頭ワードを未使用としている。

### 7-3-8-2 動作

本ユニットは起動時および 0 時 0 分にその日の PresentValue を演算しバッファメモリ上に書込みます。  
また WriteProperty(Multiple)で DateList プロパティが変更されたときにも PresentValue を演算し、バッファメモリ上に書込みます。

### 7-3-9 Device Object(DV)

この領域はバッファメモリの 0010h を先頭として固定的に 1 つだけ確保されます。

割付アドレス	内容	R/W	備考
+0	SystemStatus	R	
+1	年	R	
+2	月	R	
+3	日	R	
+4	時	R	
+5	分	R	
+6	秒	R	
+7	曜日 1:月、2:火、3:水、4:木、5:金、6:土、7:日	R	
+8	時刻設定要求 0:アイドル,1:設定要求,2:設定済	R/W	
+9	予約領域	-	0 固定
+10~11	本ユニットのデバイスインスタンス番号	R	
+12~15	予約領域	-	0 固定

#### 7-3-9-1 動作

シーケンスプログラムによる YDevice の制御または Web 画面からの停止・再開操作により本ユニットは参入離脱を実行します。その結果 Device オブジェクトの SystemStatus の値が変化し、該当するバッファメモリ領域に SystemStatus の値を書込みます。

TimeSynchronization(UTC)を受信するとバッファメモリの年～曜日を設定し時刻設定要求を 1～2 秒間だけ 1 とします。QCPU は時刻設定要求が 1 と認識したら年～曜日を取り込み時刻設定要求に 2 を書込みます。時刻設定要求が 1 のときに再度 TimeSynchronization(UTC)を受信するとそれは破棄されます。

### 7-3-10 Multi-state Input Object (MI)

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	未使用			
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	<b>PresentValue</b>			W	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-0	PresentValue	16ビット値		
+3	未使用				

#### 7-3-10-1 シーケンスプログラムの動作

##### A 正常時の設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

##### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで（または 1 秒以上）CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

##### C OutOfService の True から False への設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。
  - 注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。
  - 注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで（または 1 秒以上）CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

##### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

### 7-3-11 Multi-state Output Object (MO)

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	PVWrittenClear および PVOut は互いにもう一方が OFF の状態で OFF→ON を検出した場合にのみ動作します。  詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14	未使用			
	13	PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。		
	12	PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると PresentValue を Priority を指定して書込みます。		
	11-8	PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用されます)		
7-4	未使用				
3-0	Reliability				
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になります。		
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	<b>PresentValue</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
15-0	PresentValue	16 ビット値			
+3	<b>FeedbackValue</b>			W	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
15-0	FeedbackValue	16 ビット値			

#### 7-3-11-1 シーケンスプログラムの動作

##### A 正常時の設定

OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。(既に 0 が書込まれている場合は省略可能です)

##### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで (または 1 秒以上) CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

##### C OutOfService の True から False への設定

(1) PresentValue に値を書込みます。

(2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。

注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。

注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで (または 1 秒以上) CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

## D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

## E WriteProperty での書込み検出

Present\_Value プロパティに対して WriteProperty(Multiple)による書込みが行われた場合、STATUS の PVWritten に 1 が書込まれます。シーケンスプログラムは STATUS の PVWritten を監視し、1 ならば他の BACnetDevice (自身の場合もありうる) から PresentValue を取り込みます。

シーケンスプログラムは下記の手順で STATUS の PVWritten を 0 に戻すことができます。

- (1) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (2) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (3) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

## F 自己書込みの動作

通常 PresentValue は外部の B-OWS 等からの WriteProperty (Multiple)により書込まれますが、QCPU 自身が PresentValue を変更する場合は下記の手順で操作を行います。

- (1) バッファメモリの PresentValue に書込み値を設定します。
- (2) バッファメモリの CONTROL の PVPriority を書込み時の Priority に設定します。
- (3) バッファメモリの CONTROL の PVOut を 1 に設定します。  
※(2)と(3)は同時に書込み可能ですが、順番を逆にはいけません。
- (4) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 1 になるまで待ちます。
- (5) バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 1 に設定します。
- (6) バッファメモリの STATUS の PVWritten が 0 になるまで待ちます。
- (7) PVWritten が 0 になったことを検出したら、バッファメモリの CONTROL の PVWrittenClear を 0 に設定します。

PVWritten は他デバイスからの WriteProperty(Multiple)により書込まれた場合にも 1 が書込まれます。従って QCPU による書込みと他デバイスからの書込みが同時に行われた場合、PVWritten は 1 度だけ 1 が書込まれることとなります。

### 7-3-12 Multi-state Input Value (MV)

割付アドレス	内容	R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>		
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE
	14	未使用	
	13	PVWrittenClear	この Bit が 1 のときに STATUS の PVWritten を 0 にします。
	12	PVOut	この Bit の 0→1 の変化を検出すると PresentValue を Priority を指定して書込みます。
	11-8	PVPriority	PresentValue 書込み用 Priority(この値に 1 を加算された値が Priority として使用されます)
	7-4	未使用	
	3-0	Reliability	
+1	<b>STATUS</b>		
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15-14	未使用	
	13-11	EventState	
	10	AckedTransition	ToOffnormal
	9		ToFault
	8		ToNormal
	7	PVWritten	PresentValue が書込まれたとき 1 になります。
	6	EventEnable	ToOffnormal
	5		ToFault
	4		ToNormal
	3	StatusFlags	InAlarm
	2		Fault
1	Overridden(常に 0)		
0	OutOfService		
+2	<b>PresentValue</b>		
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>
	15-0	PresentValue	16 ビット値
+3	未使用		

#### 7-3-12-1 動作

- (1) 入力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Output = FALSE)  
Multi-state Input と同じ動作になります。
- (2) 出力用として設定された場合 (独自プロパティ Value\_Is\_Ountput = TRUE)  
Multi-state Output と同じ動作になります。

7-3-13 計量 Object

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	LimitEnable	LowLimitEnable		
	14		HighLimitEnable		
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7				
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2~3	<b>パルス入力</b>			W	詳細設定 PulseDirectInput=0 の場合、オフセット 3 は使用しません。シーケンスプログラムは参入開始まで初期化しておく必要があります。(3-5-3 出力信号参照)
	【詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合】				
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	リセットフラグ			
	14-0	CTA	カウンタ値		
	【詳細設定 PulseDirectInput = 1 の場合】				
<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>			
31-0	PresentValue	32ビット符号無し整数			

7-3-13-1 シーケンスプログラムの動作

A 正常時の設定

- パルス入力に値を書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。(既に 0 が書込まれている場合は省略可能です)

B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

C OutOfService の True から False への設定

- パルス入力値に書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。  
注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。  
注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=1 である CONTROL を書込みます。

### 7-3-13-2 パルスカウンタ

詳細設定 PulseDirectInput によりバッファメモリのパルス入力の扱い方が変化します。

Prescale 処理は詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合にのみ有効です。

Present\_Value は常にパルス入力値の Modulo(Max\_Pres\_Value+1)となります。

#### 【詳細設定 PulseDirectInput = 0 の場合】

バッファメモリのパルス入力値は 15Bit のカウンタ(CTA と略称)である。最上位ビット(Bit15)はリセットフラグです。

#### リセットする場合

シーケンスプログラムがパルスカウンタを途中でリセットする場合、CTA が 0 でリセットフラグが 1 のパルス入力値(8000h のこと)をバッファメモリに書込むことにより実現できます。

その後 CTA が 7FFFh に達するまで、リセットフラグは 1 のままにしておかなければなりません。CTA が 7FFFh に達して 0 に戻る際にリセットフラグを 0 にする必要があります。

本ユニットはパルス入力を読込んだ時、そのリセットフラグにより下記処理を行う。

#### 今回のリセットフラグが 1 の場合

①前回リセットフラグが 0 ならばカウンタが初期化されたものとして今回の CTA を差分値として使用します。

②前回リセットフラグが 1 ならば

(A) 前回の CTA > 今回の CTA

リセットされた後 CTA が 7FFF になる前に再度リセットされたものとして今回の CTA を差分値として使用します。

(B) 前回の CTA ≤ 今回の CTA

差分値 = 今回の CTA - 前回の CTA

#### 今回のリセットフラグが 0 の場合

①前回リセットフラグが 0 ならば通常動作である。

(A) 前回の CTA > 今回の CTA

CTA が 7FFFh に達してまた 0 から開始したため今回値が前回値より小さいこととなります。従って差分値は以下の計算式で求められます。

差分値 = 8000h - 前回の CTA + 今回の CTA

(B) 前回の CTA ≤ 今回の CTA

差分値 = 今回の CTA - 前回の CTA

②前回リセットフラグが 1 ならば 7FFFh に達して 0 に戻ってカウントアップしたためリセットフラグが 0 になったと考えられます。従って差分値は以下の計算式で求められます。

差分値 = 8000h - 前回の CTA + 今回の CTA

#### 【詳細設定 PulseDirectInput = 1 の場合】

バッファメモリのパルス入力値は 32 ビット符号無し整数です。

パルス入力値がそのまま Present\_Value にセットされます。

### 7-3-13-3 起動時の差分値

本ユニット起動時、「前回の CTA」は 0 となります。起動直後は「前回の CTA」が 0 となっていることを考慮して最初の入力を行うように注意してください。

7-3-14 電力デマンド監視 Object

割付アドレス	内容		R/W	備考	
+0	<b>CONTROL</b>		W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>			<b>備考</b>
	15	OutOfService			0:FALSE, 1:TRUE
	14-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>		R		
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>			<b>備考</b>
	15-14	未使用			
	13-11	EventState			
	10	AckedTransition			ToOffnormal
	9				ToFault
	8				ToNormal
	7	未使用			
	6	EventEnable			ToOffnormal
	5				ToFault
	4				ToNormal
	3	StatusFlags			InAlarm
	2				Fault
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	PresentValue		W		
+3	<b>上位バイト</b>		R/W		
	<b>下位バイト</b>				
	監視開始時分の時(0-23)				
	監視開始時分の分(0-59)				
+4~5	契約電力 実数値		R/W		
+6~7	目標電力 実数値		R/W		
+8~9	警報電力 実数値		R/W		
+10~11	予測電力量		R/W		
+12~13	調整電力量		R/W		
+14	経過時間		R/W		
+15	傾向時間間隔		R/W		
+16~17	今回周期の使用電力量 1		R/W		
...	...				
+74~75	今回周期の使用電力量 30		R/W		
+76	今回周期の使用電力量 1 のデータ状態		R/W		
...	...				
+105	今回周期の使用電力量 30 のデータ状態		R/W		
+106~107	前回周期の使用電力量 1		R/W		
...	...				
+164~165	前回周期の使用電力量 30		R/W		
+166	前回周期の使用電力量 1 のデータ状態		R/W		
...	...				
+195	前回周期の使用電力量 30 のデータ状態		R/W		

## 7-3-14-1 シーケンスプログラムの動作

### A 正常時の設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

### C OutOfService の True から False への設定

- (1) パルス入力値に書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。  
注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。  
注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

### E その他の設定

下記の情報はシーケンスプログラムにて管理し、変更があった場合はバッファメモリに書込む必要があります。

- 監視開始時分
- 契約電力
- 目標電力
- 警報電力
- 予測電力量
- 調整電力量
- 経過時間
- 傾向時間間隔
- 今回周期の使用電力量 1～30
- 今回周期の使用電力量 1～30 のデータ状態
- 前回周期の使用電力量 1～30
- 前回周期の使用電力量 1～30 のデータ状態

### 7-3-15 電力デマンド制御 Object

割付アドレス	内容	R/W	備考	
+0	<b>CONTROL</b>		詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>		<b>備考</b>
	15	OutOfService		0:FALSE, 1:TRUE
	14-4	未使用		
	3-0	Reliability		
+1	<b>STATUS</b>		R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>		<b>備考</b>
	15-14	未使用		
	13-11	EventState		
	10	AckedTransition		ToOffnormal
	9			ToFault
	8			ToNormal
	7	未使用		
	6	EventEnable		ToOffnormal
	5			ToFault
	4			ToNormal
	3	StatusFlags		InAlarm
	2			Fault
1	Overridden(常に 0)			
0	OutOfService			
+2	PresentValue	W		
+3	未使用			
+4~5	レベル設定電力[1] 実数値	R/W		
...	...			
+34~35	レベル設定電力[16] 実数値	R/W		

#### 7-3-15-1 シーケンスプログラムの動作

##### A 正常時の設定

- PresentValue に値を書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

##### B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

##### C OutOfService の True から False への設定

- パルス入力値に書込みます。
- OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。
  - 注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。
  - 注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

##### D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

##### E その他の設定

レベル設定電力はシーケンスプログラムにて管理し、変更があった場合はバッファメモリに書込む必要があります。

7-3-16 発電機負荷制御 Object

割付アドレス	内容			R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>			W	詳細設定 OutOfServiceControl = 1 のとき、Out_Of_Service プロパティの変化が OutOfService に出力されます。
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15	OutOfService	0:FALSE, 1:TRUE		
	14-4	未使用			
	3-0	Reliability			
+1	<b>STATUS</b>			R	
	<b>Bit 位置</b>	<b>項目</b>	<b>備考</b>		
	15-14	未使用			
	13-11	Even+tState			
	10	AckedTransition	ToOffnormal		
	9		ToFault		
	8		ToNormal		
	7	未使用			
	6	EventEnable	ToOffnormal		
	5		ToFault		
	4		ToNormal		
	3	StatusFlags	InAlarm		
	2		Fault		
1	Overridden(常に 0)				
0	OutOfService				
+2	PresentValue		W		
+3	未使用				
+4~5	発電機目標電力 実数値		R/W		
+6~7	発電機調整電力 実数値		R/W		
+8~9	レベル設定電力[1] 実数値		R/W		
...	...				
+38~39	レベル設定電力[16] 実数値		R/W		

7-3-16-1 シーケンスプログラムの動作

A 正常時の設定

- (1) PresentValue に値を書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=0 である CONTROL を書込みます。（既に 0 が書込まれている場合は省略可能です）

B OutOfService の True 設定

OutOfService=1 である CONTROL を書込みます。

注) OutOfService が 1 ならば Reliability と PV は使用されません。

注) StatusFlags の OutOfService が 1 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 1 にしておく必要があります。

C OutOfService の True から False への設定

- (1) PresentValue に書込みます。
- (2) OutOfService=0、Reliability=現在の Reliability 値である CONTROL を書込みます。  
 注) Reliability が 0 以外ならば PresentValue への書込みは不要です。  
 注) StatusFlags の OutOfService が 0 になるまで(または 1 秒以上)CONTROL の OutOfService を 0 にしておく必要があります。

D Reliability の異常設定

OutOfService=0、Reliability=0 以外である CONTROL を書込みます。

E その他の設定

発電機目標電力、発電機調整電力、レベル設定電力はシーケンスプログラムにて管理し、変更があった場合はバッファメモリに書込む必要があります。

## 7-4 ObjectIdentifier

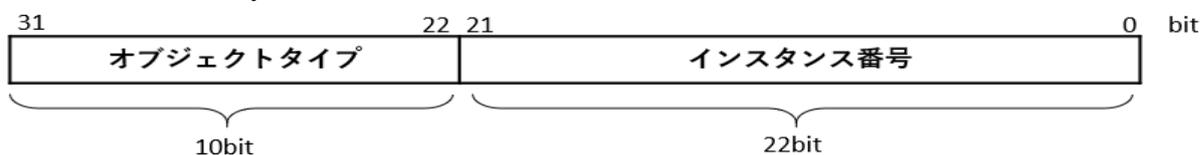
### 7-4-1 ObjectType

各 ObjectType の識別子は以下のとおりです。

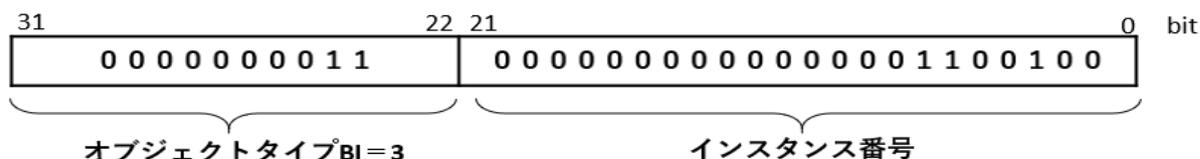
識別子	オブジェクト名称	識別子	オブジェクト名称
0	Analog Input	15	Notification Class
1	Analog Output	17	Schedule
2	Analog Value	19	Multi-state Value
3	Binary Input	20	Trend Log
4	Binary Output	23	Accumulator
5	Binary Value	128	計量
6	Calendar	130	電力デマンド監視
8	Device	131	電力デマンド制御
13	Multi-state Input	132	発電機負荷制御
14	Multi-State Output		

### 7-4-2 ObjectID の計算方法

ObjectID とは、32Bit 符号なし整数で、32Bit のうち上位 10Bit をオブジェクトタイプとして計算した値のことを示します。この ObjectID は、リクエスト機能を設定する際に使用します。



(例) BI-100 の場合



### 7-4-3 PropertyIdentifier

代表的な PropertyIdentifier は以下のとおりです。

この PropertyIdentifier はリクエスト機能を設定する際に使用します。

識別子	オブジェクト名称	識別子	オブジェクト名称
6	AlarmValue	81	OutOfService
15	ChangeOfStateCount	85	PresentValue
17	NotificationClass	87	PriorityArray
22	COVIncrement	102	RecipientList
23	DateList	103	Reliability
33	ElapsedActiveTime	111	StatsFlags
35	EventEnable	112	SystemStatus
36	EventState	113	TimeDelay
38	ExceptionSchedule	123	WeeklySchedule
39	FaultValues	126	BufferSize
40	FeedbackValue	131	LogBuffer
45	HighLimit	133	LogEnable
52	LimitEnable	134	LogInterval
54	ListOfObjectPropertyReference	141	RecordCount
56	LocalDate	144	StopWhenFull
57	LocalTime	145	TotalRecordCount
59	LowLimit	174	ScheduleDefault
74	NumberOfStates	182	LimitMonitoringInterval
76	ObjectList	186	PulseRate

## 7-5 Read 用の BACnet データアクセスブロック (BDABR)

割付アドレス	内容		R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>		W	
	値	内容		
	0	アイドル		
	1	送信要求		
	2	送信中		
	3	正常終了		
+1	<b>STATUS</b>		R	詳細は 7-1-4-5 を参照してください。
	値	内容		
	0	正常		
	2	Error 受信		
	3	Reject 受信		
	4	Abort 受信		
	5	Retry オーバー		
	6	宛先異常 (Operational ではない等)		
	7	バッファメモリの Property 情報が不正		
...	...			
+2~3	宛先 DeviceInstanceNo		W	32Bit 符号なし整数
+4~5	ObjectIdentifier		W	32Bit 符号なし整数 Bit31-22 は ObjectType Bit21-0 は InstanceNo
+6	Property-1	PropertyIdentifier	W	
+7		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+8~11	読み込みデータ。フォーマットは QDTB			
+12	Property-2	PropertyIdentifier	W	
+13		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+14~17		読み込みデータ。フォーマットは QDTB		
+18	Property-3	PropertyIdentifier	W	
+19		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+20~23		読み込みデータ。フォーマットは QDTB		
+24	Property-4	PropertyIdentifier	W	
+25		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+26~29		読み込みデータ。フォーマットは QDTB		

最大 4 個までの Property を一度に読み込むことができます。PropertyIdentifier が 0xFFFF ならばそれ以降の Property 領域は使用されません。読み込むプロパティが 4 個未満の場合、使用しないプロパティ領域の先頭の PropertyIdentifier を 0xFFFF にしなければなりません。

### 7-5-1 シーケンスプログラムの動作

#### 7-5-1-1 読み込み起動時

- BDABR の CONTROL が 1 または 2 以外するとき、BDABR に DeviceInstanceNo, ObjectID, Property 情報を書込みます。
- BDABR の CONTROL に 1 を書込みます。  
注) シーケンスプログラムは CONTROL に 1 を書込んだ後、3 または 4 になるまで BDABR の値を変更してはいけません。

#### 7-5-1-2 終了待ち

- BDABR の CONTROL を読み込みます。
  - 3 ならば、BDABR のデータを取り込みます。
  - 4 ならば、BDABR の STATUS を読み込み、エラーの詳細を取込みます。
- BDABR の CONTROL に 0 を書込みます (この処理は必須ではありません)。

## 7-6 Write 用の BACnet データアクセスブロック(BDABW)

割付アドレス	内容		R/W	備考
+0	<b>CONTROL</b>		W	
	値	内容		
	0	アイドル		
	1	送信要求		
	2	送信中		
	3	正常終了		
+1	<b>STATUS</b>		R	詳細は 7-1-4-5 を参照してください。
	値	内容		
	0	正常		
	2	Error 受信		
	3	Reject 受信		
	4	Abort 受信		
	5	Retry オーバー		
	6	宛先異常 (Operational ではない等)		
	7	バッファメモリの Property 情報が不正		
	...	...		
+2~3	宛先 DeviceInstanceNo (32Bit 符号なし整数)		W	
+4~5	ObjectIdentifier。32Bit 符号なし整数		W	Bit31-22 は ObjectType Bit21-0 は InstanceNo
+6	Property-1	PropertyIdentifier	W	
+7		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+8~11	書き込みデータ。フォーマットは QDTB		W	
+12	Property-2	PropertyIdentifier	W	
+13		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+14~17		書き込みデータ。フォーマットは QDTB		W
+18	Property-3	PropertyIdentifier	W	
+19		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+20~23		書き込みデータ。フォーマットは QDTB		W
+24	Property-4	PropertyIdentifier	W	
+25		ArrayIndex	W	0xFFFF は不使用を示します。
+26~29		読み込みデータ。フォーマットは QDTB		W

最大 4 個までの Property を一度に書込むことができます。PropertyIdentifier が 0xFFFF ならばそれ以降の Property 領域は使用されません。読み込むプロパティが 4 個未満の場合、使用しないプロパティ領域の先頭の PropertyIdentifier を 0xFFFF にしなければならない。

AO、BO、MO などの PV に対して WriteProperty を行う際は QDTB にて Priority を指定することができる。

### 7-6-1 シーケンスプログラムの動作

#### 7-6-1-1 書き込み起動時

- BDABW の CONTROL が 1 または 2 以外のとき、BDABW に DeviceInstanceNo, ObjectID, Property 情報を書込みます。
- BDABW の CONTROL に 1 を書込みます。  
注) シーケンスプログラムは CONTROL に 1 を書込んだ後、3 または 4 になるまで BDABW の値を変更してはいけません。

#### 7-6-1-2 終了待ち

- BDABW の CONTROL を読み込みます。
  - 3 ならば、書き込みが正常に終了したと認識します。
  - 4 ならば、BDABW の STATUS を読み込み、エラーの詳細を取込みます。
- BDABW の CONTROL に 0 を書込みます (この処理は必須ではありません)。

## 7-7 QBus 監視データブロック(QDMONB)

割付アドレス	内容	R/W	備考																		
+0	<b>CONTROL</b>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>アイドル</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>データ受信</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データエラー</td> </tr> </tbody> </table>			値	内容	0	アイドル	1	データ受信	2	データエラー										
	値			内容																	
	0			アイドル																	
1	データ受信																				
2	データエラー																				
+1	<b>STATUS</b>		詳細は 7-1-4-5 を参照してください。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>正常</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>書込みデータが不正</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Error 受信</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Reject 受信</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Abort 受信</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Retry オーバー</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>宛先異常(Operational ではない等)</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>			値	内容	0	正常	1	書込みデータが不正	2	Error 受信	3	Reject 受信	4	Abort 受信	5	Retry オーバー	6	宛先異常(Operational ではない等)	...	...
	値			内容																	
	0			正常																	
	1			書込みデータが不正																	
	2			Error 受信																	
	3			Reject 受信																	
	4			Abort 受信																	
5	Retry オーバー																				
6	宛先異常(Operational ではない等)																				
...	...																				
+2~5	<b>Data QDTB</b>																				

### 7-7-1 シーケンスプログラムの動作

(1) QDMONB の CONTROL を読みます。

- 1 ならば、QDMONB の Data を読み、受信データを取り込みます。
- 2 ならば、QDMONB の STATUS を読み、エラーの詳細を取込みます。

(2) QDMONB の CONTROL に 0 を書込みます。

注) 本ユニットは QDMONB の CONTROL が 0 のときのみ STATUS と DATA を更新します。従ってシーケンスプログラムは必ず QDMONB の CONTROL に 0 を書込む必要があります。CONTROL が 1 または 2 のまま変化しない場合、STATUS や DATA が更新されません。

詳細設定 RecDataOverwrite が 1 ならば、CONTROL に 0 を書込む必要はありません。

## 7-8 QBusCOV データブロック(QCOVB)

割付アドレス	内容	R/W	備考																						
+0	<b>CONTROL</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>アイドル</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>データ受信</td> </tr> </tbody> </table>	値	内容	0	アイドル	1	データ受信																		
値	内容																								
0	アイドル																								
1	データ受信																								
+1	<b>STAUTS</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Bit 位置</th> <th>内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15</td> <td>StatusFlags 有効無効</td> <td>0:無効、1:有効</td> </tr> <tr> <td>14-8</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="4">StatusFlags</td> <td>InAlarm</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Fault</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Overridden</td> <td>0 固定</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>OutOfService</td> </tr> <tr> <td>3-0</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Bit 位置	内容	備考	15	StatusFlags 有効無効	0:無効、1:有効	14-8	未使用		7	StatusFlags	InAlarm	6	Fault	5	Overridden	0 固定	4	OutOfService	3-0	未使用			
Bit 位置	内容	備考																							
15	StatusFlags 有効無効	0:無効、1:有効																							
14-8	未使用																								
7	StatusFlags	InAlarm																							
6		Fault																							
5		Overridden	0 固定																						
4		OutOfService																							
3-0	未使用																								
+2~5	<b>QDTB</b>																								

### 7-8-1 シーケンスプログラムの動作

(1) QCOVB の CONTROL を読み込みます。

- 1 ならば、QDMONB の STATUS および Data を読み込み、受信データを取り込みます。

(2) QDMONB の CONTROL に 0 を書込みます。

注) 本ユニットは QCOVB の CONTROL が 0 のときのみ STATUS と DATA を更新します。従ってシーケンスプログラムは必ず QCOVB の CONTROL に 0 を書込む必要があります。CONTROL が 1 のまま変化しない場合、STATUS や DATA が更新されません。

詳細設定 RecDataOverwrite が 1 ならば、CONTROL に 0 を書込む必要はありません。

7-9 QBusEvent データブロック(QEVTB)

割付アドレス	内容		R/W	備考		
+0	STATUS			R		
	Bit 位置	項目	備考			
	15	CONTROL				
		値	内容			
		0	アイドル			
		1	データ受信			
	14-13	NotifyType				
		値	内容			
		0	Alarm			
		1	Event			
		2	AckNotification			
	12-10	FromState				6は予約
		値	内容			
0		Normal				
1		Fault				
2		OffNormal				
3		HighLimit				
4		LowLimit				
5		LifeSafetyAlarm				
6	データ無し					
7	データ無し					
9-7	ToState		6は予約			
	値	内容				
	0	Normal				
	1	Fault				
	2	OffNormal				
	3	HighLimit				
	4	LowLimit				
	5	LifeSafetyAlarm				
6	データ無し					
7	データ無し					
6	AckRequired	0:FALSE、1:TRUE				
5	未使用					
4	StatusFlags 有効無効	0:無効、1:有効				
3	StatusFlags	InAlarm				
2		Fault				
1		Overridden	0 固定			
0		OutOfService				
+1	上位バイト		R			
	Event Type					
+2~3	下位バイト		R			
	Priority					
+2~3	ProcessID		R			

7-9-1 シーケンスプログラムの動作

(1) QEVTB の STATUS の CONTROL を読み込みます。

- 1 ならば、QEVTB の他の領域を読み込み、必要な受信データを取り込みます。

(2) QEVTB の STATUS の CONTROL に 0 を書込みます。

注) 本ユニットは QEVTB の STATUS の CONTROL が 0 のときのみ QEVTB を更新します。従ってシーケンスプログラムは必ず STATUS の CONTROL に 0 を書込む必要があります。STATUS の

CONTROL が 1 のまま変化しない場合、QEVTB が更新されません。

詳細設定 RecDataOverwrite が 1 ならば、CONTROL に 0 を書込む必要はありません。

## 8 ファイル仕様

### 8-1 共通仕様

本ユニットからダウンロードする CSV ファイルの先頭 2 行には、以下の共通情報が含まれます。

行数	内容	備考
1	バージョン情報	アップロード時は、必須ではありません。 ダウンロード時は、「8-3 エンジニアリング受渡し用 CSV ファイル」「8-8 Calendar 関係機能用 CSV ファイル」「8-9 Who-Is 送信機能用 CSV ファイル」には含まれません。
2	コメント行	アップロード時は、必須ではありません。 アップロード時は、オブジェクト情報より上に記述する必要があります。
3以降	各 CSV ファイルの固有の情報	以下を参照してください。

各機能用の CSV ファイルには、バッファメモリアドレスを指定するカラムを持つものがあります。本ユニットからダウンロードした CSV ファイルに含まれるバッファメモリアドレスは、全て 10 進数表記のワードアドレス単位となります。ファイルアップロード時、コメント行内の当該カラムに特定の文字列「QWordAddress」を指定することで、バッファメモリアドレスをワードアドレス単位で指定することができます。コメント行が無い場合やその他の文字列が指定されている場合、バッファメモリアドレスをバイトアドレス単位で指定することができます。

### 8-2 BACnet オブジェクト登録用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「BACnetObject.csv」です。

オブジェクト情報は下表のフォーマットで記載します。カラム 1~38 は電気設備学会で規定されているオブジェクトリスト授受用 CSV ファイルと同じフォーマットです。カラム 39 以降は BACnet オブジェクト登録用 CSV ファイルとして追加されたカラムとなります。

No	内容	備考	
1	BACnet プロパティ:オブジェクト識別子	75	
2	BACnet プロパティ:オブジェクト名	77	
3	BACnet プロパティ:オブジェクトタイプ	79	
4	BACnet プロパティ:インスタンス No	-1	
5	BACnet プロパティ:単位	117	
6	BACnet プロパティ:最大値	65	
7	BACnet プロパティ:最小値	69	
8	BACnet プロパティ:通告タイプ	72	
9	BACnet プロパティ:上限	45	
10	BACnet プロパティ:下限	59	
11	BACnet プロパティ:不活性テキスト	46	
12	BACnet プロパティ:活性テキスト	4	
13	BACnet プロパティ:極性	84	
14	BACnet プロパティ:ファイルタイプ	43	
15	BACnet プロパティ:ファイルサイズ	42	
16	BACnet プロパティ:状態数	74	最大 50 まで設定可能
17	BACnet プロパティ:状態テキスト 1	110-1	
18	BACnet プロパティ:状態テキスト 2	110-2	
19	BACnet プロパティ:状態テキスト 3	110-3	
20	BACnet プロパティ:状態テキスト 4	110-4	
21	BACnet プロパティ:状態テキスト 5	110-5	
22	BACnet プロパティ:状態テキスト 6	110-6	
23	BACnet プロパティ:状態テキスト 7	110-7	
24	BACnet プロパティ:状態テキスト 8	110-8	
25	BACnet プロパティ:状態テキスト 9	110-9	
26	BACnet プロパティ:状態テキスト 10	110-10	状態テキスト 11 以降は Web から手動で設定する必要があります。
27	BACnet プロパティ:通告クラス	17	
28	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-1	
29	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-2	
30	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-3	
31	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-4	
32	BACnet プロパティ:ログ間隔	134	
33	BACnet プロパティ:バッファサイズ	126	
34	BACnet プロパティ:最大現在値	65	
35	BACnet プロパティ:スケール	186	アップロード時、Real 型と Integer 型のいずれかを指定できます。 Real 型の指定例: 10, 0.1, 100.0 Integer 型の指定例: 1.0e+N, 1.0e-N (N は任意の整数) ダウンロード時は Real 型で出力されます (ガイドライン準拠)
36	関連 Object1	75-1	
37	関連 Object2	75-2	

38	メモ	-1											
39	バッファメモリのアドレス		オブジェクトの割り付けを行うバッファメモリのバイトアドレスを指定します。 0の場合は空き領域が割り当てられますが、空き領域がない場合は割り当てられません。 また0以外が指定された場合でもその領域の一部でも既に他に割り当てられているときはこの CSV の行データの情報は破棄され割り当てられません。 コメント行の 39 カラムが“QWordAddress”となっている場合、ワードアドレスとして処理されます。										
40	UnsolicitedCOV 送信		範囲: 0~3 1以上ならば UnsolicitedCOV の送信を有効にし、下表のタイミングで送信を行います。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>送信無し</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>変化時のみ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>変化時および周期送信</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>変化時および周期送信(In_Alarm 中のみ)</td> </tr> </tbody> </table> アップロード時に範囲外の場合、0で設定されます。	値	内容	0	送信無し	1	変化時のみ	2	変化時および周期送信	3	変化時および周期送信(In_Alarm 中のみ)
値	内容												
0	送信無し												
1	変化時のみ												
2	変化時および周期送信												
3	変化時および周期送信(In_Alarm 中のみ)												
41	UnsolicitedCOV 送信周期		UnsolicitedCOV 送信が 2, 3 の時のみ有効です。 周期送信の送信間隔を秒単位で指定します。										
42	EventEnable		EventEnable プロパティを設定します。 カラム内の値は、下記 3bit を 10 進数で表記したものになります。 bit2:OffNormal bit1:Fault bit0:Normal										
43	LimitEnable		LimitEnable プロパティを設定します。 カラム内の値は、下記 3bit を 10 進数で表記したものになります。 bit2: 力率用 Event 処理を使用する場合は 1(AnalogInput のみ) bit1:HighLimit bit0:LowLimit										
44	16Bit 整数 A		AI, AO, AV の場合にのみ PresentValue 変換に使用されます。										
45	実数 A		ここが空白の場合はバッファメモリの 2 ワードで実数が割り当てられます。										
46	16Bit 整数 B		そうでない場合は 16Bit 整数 A が実数 A に対応し、16Bit 整数 B が実数 B に対応しているものとしてリニア変換されます。										
47	実数 B												
48	Output		範囲: 0 または 1 0:False, 1:True AV, BV, MV の Value_Is_Output プロパティを設定します。 1を指定した場合、True で設定され、対象オブジェクトは出力用として動作します。 0を指定した場合もしくはアップロード時に範囲外の場合、False で設定され、対象オブジェクトは入力用として動作します。										
49	COVIncrement		COV_Increment プロパティを設定します。										
50	TimeDelay		Time_Delay プロパティを設定します。										
51	Description		Description プロパティを設定します。										

### 8-3 エンジニアリング受渡し用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「IEIEBACnetObject.csv」です。  
本ファイルフォーマットは電気設備学会で規定されているオブジェクトリスト授受用 CSV ファイルと同じフォーマットです。

No	内容	備考
1	BACnet プロパティ: オブジェクト識別子	75
2	BACnet プロパティ: オブジェクト名	77
3	BACnet プロパティ: オブジェクトタイプ	79
4	BACnet プロパティ: インスタンス No	-1
5	BACnet プロパティ: 単位	117
6	BACnet プロパティ: 最大値	65
7	BACnet プロパティ: 最小値	69
8	BACnet プロパティ: 通告タイプ	72
9	BACnet プロパティ: 上限	45
10	BACnet プロパティ: 下限	59
11	BACnet プロパティ: 不活性テキスト	46
12	BACnet プロパティ: 活性テキスト	4
13	BACnet プロパティ: 極性	84
14	BACnet プロパティ: ファイルタイプ	43
15	BACnet プロパティ: ファイルサイズ	42
16	BACnet プロパティ: 状態数	74
17	BACnet プロパティ: 状態テキスト 1	110-1
18	BACnet プロパティ: 状態テキスト 2	110-2
19	BACnet プロパティ: 状態テキスト 3	110-3
20	BACnet プロパティ: 状態テキスト 4	110-4
21	BACnet プロパティ: 状態テキスト 5	110-5

22	BACnet プロパティ:状態テキスト 6	110-6	
23	BACnet プロパティ:状態テキスト 7	110-7	
24	BACnet プロパティ:状態テキスト 8	110-8	
25	BACnet プロパティ:状態テキスト 9	110-9	
26	BACnet プロパティ:状態テキスト 10	110-10	
27	BACnet プロパティ:通告クラス	17	
28	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-1	
29	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-2	
30	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-3	
31	BACnet プロパティ:ログデバイスオブジェクト	132-4	
32	BACnet プロパティ:ログ間隔	134	
33	BACnet プロパティ:バッファサイズ	126	
34	BACnet プロパティ:最大現在値	65	
35	BACnet プロパティ:スケール	186	
36	関連 Object1	75-1	BACnet 規格 ANSI/ASHRAE Standard 135-2004 以降のみ
37	関連 Object2	75-2	
38	メモ	-1	

#### 8-4 BACnet リクエスト機能用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「bacnetaccess.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	Read/Write	アクセスブロックの種類	範囲:0または1 0:リード用, 1:ライト用 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
2	QWordAddress	BDABR または BDABW のアドレス	0の場合は空き領域が割り当てられますが、空き領域がない場合は割り当てられません。 また0以外が指定された場合でも、その領域の一部が既に他に割り当てられているときは、この CSV の行データの情報は破棄され割り当てられません。 コメント行のカラム 2 が“QWordAddress”となっている場合、ワードアドレスとして処理されます。

#### 8-5 BACnet モニタ機能用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「bacnetmonitor.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	DeviceInstanceNo	監視するデバイスの DeviceInstanceNo	範囲:0~4194303 自デバイスを対象とする場合は、3FFFFFFh または自身の DeviceInstanceNo.を指定します。
2	ObjectType	監視するオブジェクトの ObjectType	範囲:0~1023 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
3	ObjectInstanceNo	監視するオブジェクトの InstanceNo	範囲:0~4194303 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
4	PropertyID	監視するプロパティの PropertyID	範囲:0~65535 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
5	ArrayIndex	監視するプロパティの配列	範囲:0~65534 指定しない場合は空白にします。 アップロード時に範囲外の場合、空白扱いとなります。
6	Interval	収集周期(秒)	範囲:0~4294967295 0の場合は収集しないことを意味します。
7	QWordAddress	QDMONB のアドレス	0の場合は空き領域が割り当てられますが、空き領域がない場合は割り当てられません。 また0以外が指定された場合でも、その領域の一部が既に他に割り当てられているときは、この CSV の行データの情報は破棄され割り当てられません。 コメント行のカラム 7 が“QWordAddress”となっている場合、ワードアドレスとして処理されます。

## 8-6 COV 関係機能用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「bacnetcov.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	DeviceInstanceNo	監視するデバイスの DeviceInstanceNo	範囲: 0~4194303 自デバイスを対象とする場合は、3FFFFFFh または自身の DeviceInstanceNo.を指定します。
2	ObjectType	監視するオブジェクトの ObjectType	範囲: 0~1023 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
3	ObjectInstanceNo	監視するオブジェクトの InstanceNo	範囲: 0~4194303 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
4	QWordAddress	QCOVB のアドレス	0 の場合は空き領域が割り当てられますが、空き領域がない場合は割り当てられません。 また 0 以外が指定された場合でも、その領域の一部が既に他に割り当てられているときは、この CSV の行データの情報は破棄され割り当てられません。 コメント行のカラム 4 が“QWordAddress”となっている場合、ワードアドレスとして処理されます。
5	SubscribeCOVEnable	SubscribeCOV 有効化	範囲: 0 または 1 0:無効, 1:有効 0 を指定した場合もしくはアップロード時に範囲外の場合、カラム 6~8 の値は設定されません。
6	ProcessID	ProcessID	範囲: 1~4294967295 アップロード時に範囲外の場合、カラム 5 に 0 を指定した時と同様の結果になります。
7	Confirm	確認ありなし	範囲: 0 または 1 0:Unconfirmed, 1:Confirmed アップロード時に範囲外の場合、カラム 5 に 0 を指定した時と同様の結果になります。
8	LifeTime	LifeTime(分)	範囲: 1~1440 アップロード時に範囲外の場合、カラム 5 に 0 を指定した時と同様の結果になります。

## 8-7 Event 関係機能用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「bacnetevent.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	DeviceInstanceNo	監視するデバイスの DeviceInstanceNo	範囲: 0~4194303 自デバイスを対象とする場合は、3FFFFFFh または自身の DeviceInstanceNo.を指定します。
2	ObjectType	監視するオブジェクトの ObjectType	範囲: 0~1023 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
3	ObjectInstanceNo	監視するオブジェクトの InstanceNo	範囲: 0~4194303 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
4	QWordAddress	QEVTB のアドレス	0 の場合は空き領域が割り当てられますが、空き領域がない場合は割り当てられません。 また 0 以外が指定された場合でも、その領域の一部が既に他に割り当てられているときは、この CSV の行データの情報は破棄され割り当てられません。 コメント行のカラム 4 が“QWordAddress”となっている場合、ワードアドレスとして処理されます。

## 8-8 Calendar 関係機能用 CSV ファイル

ダウンロード時のデフォルトファイル名は「calendarlink.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	DstCLInsNo	自デバイスの Calendar オブジェクトの InstanceNo	範囲:0~4194303 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
2	SrcDVInsNo SrcCLObjName SrcCLObjID	他デバイスの DeviceInstanceNo	範囲:0~4194302 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
3	SrcCLInsNo	他デバイスの Calendar オブジェクトの InstanceNo	範囲:0~4194303 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。
4	ONSrcCLObjName	Calendar オブジェクトの ObjectName	形式は下記になります。 CharacterCode/CodePage:Name ShiftJis の場合の例 1/932:休日カレンダー

読み込み時にカラム 1 で示される Calendar オブジェクトが存在しない場合は作成されます。  
参入時に自身の Calendar オブジェクトの DateList を更新するためにカラム 2~4 が使用されます。  
カラム 2 が 0~4194302 の数字の場合、静的読み込みが行われます。  
カラム 2 が OBJECTNAME の場合は ObjectName を使用した動的読み込みが行われます。  
カラム 2 が OBJECTID の場合は ObjectID を使用した動的読み込みが行われます。  
詳細は 6-5 章を参照してください。

## 8-9 Who-Is 送信機能用 CSV ファイル

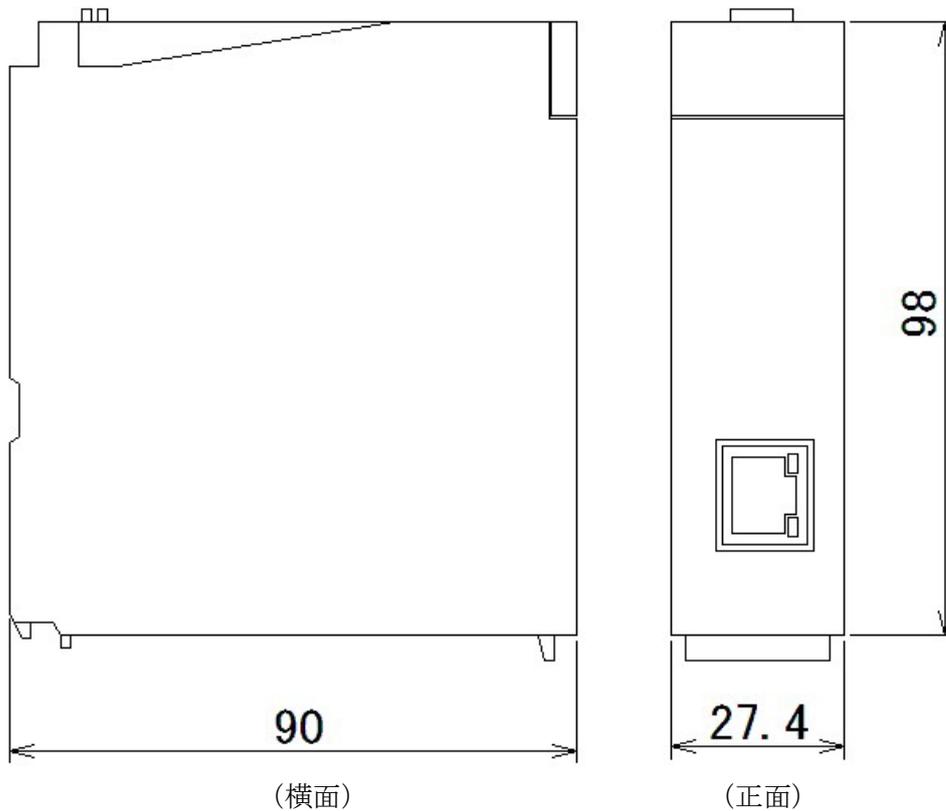
ダウンロード時のデフォルトファイル名は「whoisdestination.csv」です。  
ファイル定義は以下の通りです。

No	ダウンロード時のコメント行	内容	備考
1	WhoIsLW	Who-Is に応答すべき他デバイスの DeviceInstanceNo の下限	範囲:0~4194302 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。 HighDeviceInstanceNo より大きい場合はエラーとなります。
2	WhoIsHI	Who-Is に応答すべき他デバイスの DeviceInstanceNo の上限	範囲:0~4194302 アップロード時に範囲外の場合、該当行は登録されません。

## 9 外観

### 9-1 外形図

本ユニットの外形図は下記のとおりです。



### 9-2 LED 表示部

本ユニット前面の LED 配置およびその意味は以下のようになります。

BAQ08V			
RUN	■	■	H/W-ERR.
INIT.	■	■	APP-ERR.
OPE.	■	■	
SD	■	■	RD

名称	表示色	状態	備考
RUN	緑	点灯 = 正常動作 消灯 = 異常	点灯時は、本ユニットで電源が供給されており、正常に動作しています。 消灯時は、電源のダウン、WDT エラー、またはユニット装着不備の場合になります。
INIT.	緑	点灯 = 初期化完了 消灯 = 初期化中	本ユニットの初期化が完了し、ユニットレディ 2 信号(Xn1)が ON すると点灯します。 ソフトウェア異常機能は、この LED が点灯してから行ってください。
OPE.	緑	点灯 = BACnet 参入中 消灯 = BACnet 離脱中	BACnet に参入後、Device オブジェクトの SystemStatus プロパティが Operational になった時に点灯します。 Device オブジェクトの SystemStatus プロパティが Operational 以外になった時に消灯します。
H/W-ERR.	赤	点灯 = エラー発生 消灯 = 正常	ハードウェア異常やループ配線などの誤配線により重度エラーが発生し、データ通信が行えない場合に点灯します。 ソフトウェア異常の場合は、重度エラーであっても点灯しません。
APP-ERR.	赤	点灯 = エラー発生 消灯 = 正常	内部的なエラーや起動時の初期化に失敗した場合に点灯します。 点灯時、エラー発生信号(XnF)は ON になります。
(空白)	緑	未使用	
SD	緑	点灯/点滅 = 送信中 消灯 = 未交信	BACnet へ通信パケットを送信する時に点滅します。
RD	緑	点灯/点滅 = 受信中 消灯 = 未交信	BACnet へ通信パケットを受信する時に点滅します。

## 10 インテリジェント機能ユニットのスイッチ設定

プログラミングツール[2-2 参照]を用いて行うインテリジェント機能ユニットのスイッチ設定は、次の通り設定してください。

インテリジェント機能ユニットのスイッチ設定の詳細は、プログラミングツールのマニュアルを参照してください。

スイッチ番号	設定
1	0: 通常使用モードでの起動(通常は必ずこのモードで起動してください) 1: 初期化起動モードでの起動(バックアップデータや設定をすべて消去した状態で起動します)
2	0 固定
3	0 固定
4	0 固定
5	0 固定

## 11 保障について

### 11-1 保障について

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

#### A 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に、製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、お買い上げいただきました販売店またはサービス会社を通じて、無償で製品を修理させていただきます。

※出張修理が必要な場合はご相談ください。

なお、お客様にて製品の修理や対策を行った場合は、保証の対象外となります。

##### 【無償保証期間】

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後 1 年間とさせていただきます。

ただし、当社製造出荷後の流通期間を最長 6 ヶ月として、製造から 18 ヶ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。また修理品の無償保証期間は、修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

##### 【無償保証範囲】

使用状態、使用方法および使用環境などが、マニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件、注意事項などにしたがった正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

#### B 有償修理

無償保証期間内であっても、以下の場合には有償修理とさせていただきます。

- お客様における不適切な保管や取扱い、不注意、過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。
- お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。
- 当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。
- 取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。
- 火災、異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震、雷、風水害などの天変地異による故障。
- 当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。
- その他、当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

#### C 生産中止後の有償修理期間

当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後 3 年間です。生産中止に関しましては、当社ホームページなどにて報じさせていただきます。

生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

#### D 海外でのサービス

海外においては、当社のサポート対象外となります。

## E 機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、当社の責に帰すことができない事由から生じた損害、当社製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益、当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する補償については、当社は責任を負いかねます。

## F 製品仕様の変更

マニュアルに記載されている仕様は、お断りなしに変更される場合がありますので、あらかじめご承知おき下さい。

## G 製品の適用について

本製品および他システムに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることを、ご使用の条件とさせていただきます。

本製品は、一般建物、工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途や、JR 各社殿および防衛庁殿向けの用途などで、特別品質保証体制をご要求になる用途には、本製品の適用を除外させていただきます。

ただし、これらの用途であっても、用途を限定して特別な品質をご要求されないことをお客様にご承認いただいた場合には、適用可能とさせていただきます。

また、航空、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など人命や財産に大きな影響が予測され、安全面や制御システムに特に高信頼性が要求される用途へのご使用をご検討いただいている場合には、当社窓口へご相談いただき、必要な仕様書の取り交わしなどをさせていただきます。

## 11-2 商標について

- MELSEC、MELSEC-Q は、三菱電機株式会社の登録商標です。
- BACnet は American Society of Heating, Refrigerating and Air-Conditioning Engineers (ASHRAE) の登録商標です。
- Windows、Internet Explorer、Microsoft Edge は、米国およびその他の国々での Microsoft 社の登録商標です。
- GoogleChrome は Google Inc. の登録商標です。
- その他の社名、サービス名、システム名、製品名は、それぞれの会社・組織の商標または登録商標です。

### 11-3 サポートについて

本製品は、お買い上げいただきました販売店またはサービス会社を通じ、株式会社ユニテックまでお問い合わせいただけますようお願い申し上げます。

#### 対応時間帯

平日 9:00～12:00 13:00～17:00

(祝祭日、2月19日、および夏季、年末年始など当社の休日は除く)

株式会社ユニテック サポート窓口

〒493-0006 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り 24 番地

#### E-MAIL によるお問い合わせ

必要事項を記載し、お問い合わせください。

メールアドレス : [sales@uni-tec.co.jp](mailto:sales@uni-tec.co.jp)

#### 電話によるお問い合わせ

電話番号 : 0586-87-7819

- ・ 正確な情報を伝達し合うため、Eメールをご利用いただけますようお願いいたします。
- ・ 技術的なお問い合わせは、電話での対応をお断りすることがありますので、ご了承ください。

#### 製品に関する情報につきまして

最新情報などは以下の URL からご確認ください。

【URL】 <https://www.uni-tec.co.jp/>

- 本製品のサポート期間は、ご購入後またはご指定場所に納入後1年以内とさせていただきます。
- 本製品の価格には、技術者派遣などのサービス費用は含まれておりません。技術者派遣のご要望がありましたら、有償にて対応させていただきます。
- 技術に関する問い合わせは、E-MAIL など文書化による形式でお願いいたします。

改定履歴

版番	改訂内容	改訂日
初版	新規作成	2016/04/01
A	・ 詳細設定のパラメータ追加に伴い、一部改定	2016/07/20
B	・ 「1-2 特長」 「3-4 BACnet 仕様」 の対応 BACnet 規格に “IEIE-P-0003:2000” を追加 (※Ver2.1.0 以降) ・ 以下の DeviceInstanceNo の備考を修正 「8-5BACnet モニタ機能用 CSV ファイル」 「8-6COV 関係機 機能用 CSV ファイル」 「8-7Event 関係機能用 CSV ファイル」	2017/10/05
C	・ 「3-4-1 サポートオブジェクト」 の誤表記を修正 ・ 「7-3-6-2 シーケンスプログラムの動作 7-3-6-2F 自己書込み の動作」 の記載漏れを修正	2017/10/20
D	・ 「8-2 BACnet オブジェクト登録用 CSV ファイル」 に Description プロパティ設定用のカラムを追加	2017/11/15
E	・ 「11 保障について」 を追加 ・ NumberOfState が最大 50 まで設定可能である旨を明記	2018/4/6
F	・ 「3-5-2 入力信号」 の XnF の動作を追記	2018/6/26
G	・ 「7-6Write 用の BACnet データアクセスブロック (BDABW)」 の誤記を修正 ・ 「7-6-1-1 書き込み起動時」 の誤記を修正 ・ 「7-2QBus データブロック (QDTB)」 の備考欄に備考を追加 ・ 「7-4ObjectIdentifier」 に ObjectType、ObjectID の計算方法、 PropertyIdentifier に関する内容の章追加	2018/8/21
H	・ 「5-8 Analog Output Object (AO)」 の「自己書込みの動作」、 「5-11 Binary Output Object (BO)」 の「自己書込みの動作」、 「5-16 Multi-state Output Object (MO)」 の「自己書込みの動作」 にバージョンによる動作の違いを追記 ・ 「6-2 BACnet モニタ」 の「本ユニットの周期動作」 にバージョ ンによる動作の違いを追記 ・ 「7-3-1 Accumulator Object (AC)」 のバッファメモリフォー マットを修正	2018/12/21
I	・ サポートする BACnet 規格を追加 Ver2.2.0 以降 ・ ANSI/ASHRAE Standard 135-2012 ・ IEIEJ-G-0006:2017 ・ BACnet/IPv6 に対応 Ver2.2.0 以降	2019/11/15
J	・ 「9-1 外形図」 章を追加	2020/1/11
K	・ コピーライトを©2021 に更新 ・ 採番を HD000018 に移動	2021/4/28
L	・ コピーライトを©2022 に更新 ・ Web ブラウザ対応に伴い、表記変更	2022/01/24

	<ul style="list-style-type: none"><li>・カレンダー表記を修正</li><li>・文字の間隔を調整</li><li>・一部フォント・語調を修正</li></ul>	
--	---	--

© 2022 Unitec Corp.